

- 六 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス
 - 第一 被告人ノ死亡
 - 第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
 - 第三 確定判決
 - 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止
 - 第五 大赦
 - 第六 時効

公訴權消滅ノ原因タル事實發生スルモ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナキカ故ニ犯人又ハ嫌疑者死亡シ又ハ其犯罪ニ對シ大赦アリタルトキト雖モ檢事ノ差止命令解除前ニ於テ之ニ違反シ其差止ニ係ル事項ヲ掲載スルハ新聞紙法違反ナリトス

犯罪人ノ死亡又ハ大赦ノ如キ公訴權消滅ノ原因タル事實發生スレハ犯罪人ニ對シテ刑事法上ノ效果ヲ生セシムルコト能ハサルニ止マリ之カ爲メニ犯罪事實ヲ消滅セシムルコトナケレハ檢事カ新聞紙法ニ依リ犯罪人又ハ犯罪嫌疑者ノ氏名其他ニ關スル事項及ヒ是等ヲ推知シ得ヘキ事項ノ掲載ヲ差止メタル場合ニ於テ其犯罪人又ハ犯罪嫌疑者死亡シ若クハ其犯罪ニ對シテ大赦アリタルトキト雖モ其者ヲ指シテ犯罪人又ハ犯罪嫌疑者ト呼フニ妨ナク又右差止命令ノ解除アラサル限りハ新聞紙ニ差止ニ係ル事項ヲ掲載スルヲ得サルヤ勿論ニシテ其命令ニ違反シテ掲載シタルトキハ新聞紙法違反ヲ以テ論スルハ當然ナリ(大審院大正二年(レ)第二三二二號同三年一月二〇日刑一判決)

大赦死亡
ノ如キハ
犯罪事實
消滅セ
シメス

死亡又ハ
大赦ト新
聞紙法ニ
依ル差止
命令

【參照判例】

本書第二卷諸法第五九頁

【參照學說】

- 一 大赦ハ刑法上ノ效果ヲ全滅スルノミニシテ犯罪ニ依ル被告事實ヲ消滅セシムルコト能ハサルカ故ニ被害者ノ損害賠償權ヲ害スルモノニアラス(泉二學士著日本刑法論第一五版五三六頁)
- 二 犯人ノ死去ハ死去者ニ對シ公訴權消滅スルニ止マル既生ノ犯罪事實ヲ消滅セシムルモノニアラス(豊島博士著刑事訴訟法新論第二版二四〇頁)
- 三 大赦ハ科刑權アルコトヲ前提トシテ爲スモノナレハ犯罪事實ヲ消滅セシムル效力アルニアラス(同書二六七頁)
- 四 大赦ハ刑罰權ヲ消滅セシムルニ止マルモノナルヲ以テ其原因タル事實ニ基ク民事上ノ損害賠償請求ニ影響ヲ與フルコトナシ(山岡トクトル著刑法原理三二三頁)
- 五 大赦ニヨリテ公訴權ノ消滅スル場合ニ於テモ亦大赦若クハ特赦ニヨリテ刑ノ言渡カ其效力ヲ失フ場合ニ於テモ犯罪人又ハ被害者ノ損害賠償ノ請求ハ之ニ妨クルモノニアラス(藤本博士刑法要論總則六九五頁)
- 六 恩赦ハ犯罪ノ法律上ノ結果タル刑罰ヲ廢止スルモノニシテ既ニ發生シタル處罰行為ヲ消滅セシムルモノニアラス從シ恩赦アルモ處罰行為ハ將來ニ向テ猶其蹟ヲ殘ス(中略)恩赦ハ單ニ刑罰ヲ廢除スルニ止マリ民法上ノ結果タル損害賠償物品ノ返還其他ノ請求權ニ對シテ影響ナシ(小崎學士著新刑法論八四九頁)

至當ノ判決ナリト信ス

(七八)

醫師法一 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條第六條第七條若ハ第一三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

接骨行為ハ人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナレハ常業トシテ之ヲ爲ストキハ醫業ノ範圍ニ屬ス

明治一八年三月内務省甲第七號達實施前ヨリ接骨業ヲ爲ス者ハ格別其他ノ者ハ
總テ醫師ノ免許ヲ受クルニ非サレハ該業ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

上告趣意被告ハ柔道家ニシテ柔道師範ヲ以テ常業トナシ其傍ラ柔道ノ極意タル殺
活整骨術ヲ依頼者ニ施シ居タリ之ニ對シ原院ニ於テハ醫師ノ免許ヲ有セスシテ醫業
ヲ爲シタル者ト判定處罰セラレタレトモ柔道家カ施スコロノ手術ハ醫業ト稱スヘ
キモノニアラス柔道家ノ手術ニ對シテハ別ニ接骨業者取締規則ナル警察令アリ之
レカ免許ヲ有セスシテ手術ヲ爲シタル者ニ對シテハ輕微ナル警察令ヲ以テ處罰スヘ
キナ相當トス警察令ニ罰則ノ規定無キノ故ヲ以テ醫師法所犯トシテ罰スルハ所謂比
附援引ヲ爲スモノニシテ刑罰法ノ許サザルコロナリト云フニ在レトモ「接骨行爲ハ
人體ノ創傷ヲ治療スヘキ手術ノ一種ナレハ常業トシテ之ヲ爲スコトカ醫業ノ範圍ニ
屬スルハ勿論明治一八年三月内務省甲第七號達「入齒齒拔口中治療接骨等營業ノ者ハ
明治一六年(一〇月)第三四號布達ニ據リ醫術開業試驗ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相
成候條從來ノ營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ附與シ相當ノ取締法相立可申此旨
相達候但既ニ取締法相設居候向ハ本文手續ヲ爲スニ及ハス」トアリテ右達實施前ヨリ
既ニ接骨業ヲ爲ス者ハ格別其他ノ者ハ總テ醫師ノ免許ヲ受クルニ非サレハ該業ヲ爲
スヲ得サルモノトス而シテ東京府ニ於テハ明治二四年七月東京府令第五八號ヲ以テ
入齒齒拔口中治療接骨營業者取締規則ナルモノヲ設ケタレトモ右取締規則ハ從來ノ
營業者ヲ取締ル爲メノ規定ナルコト其條文上洵ニ明白ナレハ明治四三年頃ヨリ大正

二年七月一日迄ノ間新ニ行ハレタル本件被告ノ行爲ニ對シ原裁判所カ右取締規則ヲ
適用セシ醫師法第一一條ヲ適用處罰シタルハ正當ニシテ不法ニ非ス故ニ本論旨ハ理
由ナシ(大審院大正二年(レ)第二三二六號同三年一月二二日刑二判決)
至當ノ判決ト信ス

(七九)

酒精及酒精含有飲料稅法一六 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造スル者詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ其製造石數ノ
査定ヲ免カレ又ハ免レムトシタルトキハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三〇圓ヲ下ルコトヲ得ス

酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ノ違反罪ノ成立ニハ單ニ其製造石數ノ査定ヲ
免レタル事實アルヲ以テ足レリトセス更ニ其ノ査定ヲ免ルルニ至リタルハ其免
許ヲ受ケタル者ノ詐僞其他ノ不正所爲ニ原因スルコトヲ要スルモノトス

酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ノ違反罪ノ成立スルニハ酒精含有飲料製造ノ免許
ヲ受ケタル者カ單ニ其製造石數ノ査定ヲ免レタル事實アルヲ以テ足レリトセス更ニ
其製造石數ノ査定ヲ免ルルニ至リタルハ其免許ヲ受ケタル者ノ詐僞其他ノ不正所爲
ニ原因スルコトヲ要ス可キヤ勿論ナリ而シテ原判決ノ判示スルコロニ依レハ「被告
人松太郎ハ酒精含有飲料ノ製造及販賣ノ免許ヲ受ケ居ルモノナルカ(中略)犯意ヲ繼
續シ(中略)製造場ニ於テ一石ニ付キ生葡萄酒五斗砂糖液三斗五升酒精一斗五升單寧酸
二〇匁ボルトエツキス一封度芳香丁幾一〇匁ノ割合ヲ以テ二〇回ニ甘葡萄酒二〇石(一
石ニ付キ純酒精ノ容量二〇個)ヲ製造シ之ニ割水ヲ爲シテ販賣シ右造石數ノ査定ヲ免

レタルモノナリト云フニ在リテ被告人松太郎カ其製造ニ係ル甘葡萄酒二〇石ノ査定
ヲ免レタル事實ハ之ヲ認ムルニ足ルモ其製造石數ノ査定ヲ免レタル被告人松太郎ノ
詐偽其他不正ノ所爲ニ原因シタル事實ハ判文上不明瞭ナルヲ以テ原判決カ前記判示
事實ニ對シ直ニ酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ヲ適用シテ處罰シタルハ失當ニシ
テ原判決ニハ被告人松太郎カ酒精及酒精含有飲料稅法第一六條ニ違反シタル事實ノ
確定不十分ナル違法アリ(大審院大正二年(レ)第二三三三號同三年一月二三日刑一判決)

(八〇)

新聞紙法四一 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又
ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞ノ記事カ言語文章ノ上ニ於テ直接又ハ間接ニ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ヲ表
明シタルモノニ非サルトキハ起草者ノ眞意如何ニ拘ハラズ新聞紙法第一條ニ
抵觸スルコトナキモノトス
人ノ惡事醜行ヲ摘發シテ之ヲ罵倒シ其逮捕ヲ求ムルカ如キハ他ノ犯罪ヲ構成ス
ルコトアリトスルモ安寧秩序ヲ害スヘキ記事ヲ掲ケタルモノトシテ新聞紙法ノ
制裁ヲ受クヘキモノニ非ス

新聞紙法
第四條
第一條
ノ意
義

新聞紙法第四一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊スヘキ記事トハ其言語文章カ直接ニ安寧秩序
ヲ害スヘキ事項ヲ表明シタル場合ハ勿論安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ヲ言外ニ包藏スル
コトカ其言語文章ニ依リテ之ヲ推知シ得ヘキ場合ヲ包含スト雖モ其記事カ言語文章

ノ上ニ於テ直接又ハ間接ニ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項ヲ表明シタルモノニアラザルト
キハ起草者ノ眞意如何ニ拘ハラズ第四一條ノ法規ニ抵觸スルコトナシ又新聞紙上ニ
於テ人ノ身體財産ニ重大ナル危害ヲ加フヘキコトヲ以テ公衆ヲ煽動スルハ新聞紙法
第四一條ノ意義ニ於テ安寧秩序ヲ紊スヘキ事項タルヤ明カナリト雖モ人ノ惡事醜行
ヲ摘發シテ之ヲ罵倒シ其逮捕ヲ求ムルカ如キハ其社會ニ及ホス危害深甚ナラザルヲ
以テ縱ヒ他ノ犯罪ヲ構成スルコトアリトスルモ安寧秩序ヲ害スヘキ記事ヲ掲ケタル
モノトシテ新聞紙法ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス今原判決ニ認ムル事實ニ依リ被
告等ノ行爲カ安寧秩序ヲ紊スヘキ事實ヲ新聞紙ニ掲載シタルモノトシテ新聞紙法第
四一條ノ犯罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ審案スルニ原院カ被告昌夫ノ發行兼編輯人タル新
聞不ニ第二三號ニ四日馬將軍(五)美人繪ノ衝立ト題シ原審相被告宮武外骨ノ署名ヲ
以テ掲載セラレタリト認メタル記事ハ讀者ノ一人ト外骨トノ間ニ交換セラレタル問
答體ノ談話ヲ内容トシ續續數百言ニ渉ルモ其要旨トスル所ハ「被告外骨ノ主宰スル不
二新聞ハ他ノ新聞ト其撰テ異ニシ桂太郎ヲ暗殺セサルヘカラス高崎親章ハ賄賂取
者ナリト云フカ如キ記事カ毎號掲載セラレシト期待セルニ其記事溫和ニ失スルハ
社員ノ活氣ニ乏シキノ致ス所ニアラスヤト思惟シ云々」トノ質問ニ對シ外骨カ「ラツ
ク」内ニ於テ新聞紙ヲ創ムルハ奇矯ヲ街フカ爲メニアラス小資本ヲ以テ成功セントス
ルニ在リ云々不ニ新聞ハ潤澤ナル資本ハ勿論必要ナル資本タモ有セザルヲ以テ社員
ノ給料ノ支拂並ニ紙代ノ支拂ニスラ窮スル狀態ナレハ桂太郎ノ首ヲ斬レ高崎親章ヲ
捕縛セヨト云フカ如キ記事ヲ毎號掲載シ得ヘント思惟スルハ迂闊ニ失セサヤ」ト反問

シタルニ在リ其桂太郎ヲ暗殺セサルヘカラスト云ヒ高崎親章ハ賄賂取悪者ナリト云
 ヒ又桂太郎ノ首ヲ斬レト云ヒ高崎親章ヲ捕縛セヨト云フ言語ハ極メテ不謹慎ニシテ
 矯激ニ涉ルト雖モ其記事ノ全體ヲ熟讀玩味スルトキハ是レ人ノ好奇心ヲ挑發セント
 スル一種ノ大言壯語ニシテ問ヲ發シタル讀者ハ被告外骨ノ主宰スル新聞タル以上ハ
 人ノ耳目ヲ聳動スヘキ奇拔ナル記事ナカルヘカラスト叙上ノ不穩ノ言語ニ借リ來リ
 ア外骨ヲ擲論シ外骨之ニ對シ不二新聞ハ其經營ニ必要ナル資本ヲ缺クヲ以テ斯ル大
 言壯語ヲ爲シテ奇矯ヲ街フノ餘裕ヲ有セサルコトヲ辯解シタルニ外ナラスシテ該記
 事ハ其言語文章ノ上ニ於テ直接又ハ間接ニ桂太郎ノ斬首高崎親章ノ捕縛ヲ眞面目ニ
 煽動又ハ獎勵シタルモノト認ムルヲ得サルノミナラス寧ロ言語ヲ誇張シ徒ラニ人ノ
 好奇心ニ投セント試ミタル一種ノ諧謔の問答ヲ掲載シタルニ過キササルヲ以テ斯ル記
 事ハ讀者ヲ挑發シテ何等危險ナル思想ヲ懷カシムヘキモノニアラス從テ我國ノ安寧
 秩序ハ之レカ爲メ尠モ紊ササルヘキモノニアラス況ンヤ高崎親章ヲ賄賂取悪者ト云ヒ
 之ヲ捕縛セヨトイフカ如キハ安寧秩序ニ何等ノ關係ヲ有セサルコトハ前段説明ノ如
 クナルニ於テオヤ故ニ本件被告ノ所爲ハ新聞紙法第四一條ノ犯罪ヲ構成セサルモノ
 ナレハ被告ニ對シテハ無罪ヲ言渡スヘキモノナルニ原院力之ニ據スルニ同條ノ刑ヲ
 以テシ第一審判決ヲ是認シ被告ノ控訴ヲ棄却シタルハ失當ナリ(大審院大正二年(レ)第
 二〇八六號同年一月一三日刑三判決)

雇人口入業者ノ受クヘキ手数料ノ額ハ一ニ雇給額ノ如何ニ依テ定マルモノニシ
 テ其以外ノ収入ノ多寡若クハ雇傭方法ノ複雑ナルト簡單ナルトニ依リ定マルモ
 ノニアラス」
 雇給トハ雇主ヨリ受クヘキ給料ヲ謂フモノニシテ前借金又ハ二纏頭ノ如キハ雇給
 以外ノ収入ニ屬スルモノトス」
 明治三六年警視廳令第三一號雇人口入營業取締規則第一四條ニ雇給額ノ定マラ
 サルモノトハ給料ノ全然定メナキカ又ハ假令定メアルモ極メテ僅少ニシテ定メ
 ナキト同視スヘキモノヲ指シタルモノトス」

明治三六年警視廳令第三一號雇人口入營業取締規則第一四條ニハ手数料ハ雇傭契約
 期間内ニ於テ受クヘキ雇給總額一〇分ノ一以内トス雇給額ノ定マラサルモノハ其所
 得チ一箇月二圓五〇錢以下ト見積ルコトヲ得トアルニ徴スレハ雇人口入業者ノ受ク
 ヘキ手数料ノ額ハ一ニ雇給額ノ如何ニ依テ定マルモノニシテ其以外ノ収入ノ多寡若
 クハ雇傭方法ノ複雑ナルト簡單ナルトニ依リ定マルモノニアラスト謂ハサルヲ得ス
 而シテ雇給トハ雇主ヨリ受クヘキ給料ヲ謂フモノニシテ前借金又ハ纏頭ノ如
 キハ雇給以外ノ収入ナルコト論チ俟タス從ツテ其額ハ手数料ヲ定ムルノ標準ト爲ル
 モノニ非ス上告人ハ雇人口入營業取締規則第一四條ニ依レハ雇給額ノ定マラサル
 モノトハ總テ所得極メテ僅少ナル雇人ヲ指スモノニシテ本件雇人ノ如キ多額ノ収入
 アルモノノ謂ニ非スト論スルモ同條ニハ雇給額ノ定マラサルモノトハ一定ノ給料ヲ

ク若ハ僅少ナル金品ノ給與ヲ受クル者等ヲ謂フトアリテ給料ノ全然定メナキカ又ハ
假令定メアルモ極メテ僅少ニシテ定メナキト同視スヘキモノヲ指シタルモノニシテ
給料以外ノ收入ニ付テハ毫モ問フ處ニ非ルカ故ニ到底所論ノ如ク解スルヲ得サルモ
ノトス原判決ノ認定ニ依レハ被告ハ淺井ムメヲ島山ハル方ニ年期及ヒ給料共ニ未定
ニテ雇人トシテ周旋ヲ爲シ右兩名ヨリ二圓五〇錢宛受取リタルモノナレハ雇人口入
營業取締規則第一四條ニ依リ雇給額ノ一箇月二圓五〇錢以下ト見積リ同條所定ノ手
數料ヲ申受クヘキ管ナルニ其額ヲ超過シタルモノヲ收得シタルハ同條ニ違背シタル
モノナルコト明瞭ナリトス故ニ原審カ同條及同第二一條並ニ明治四一年同廳令第五
七號第二條ヲ適用處斷シタルハ相當ナリ(大審院大正二年(レ)第二〇四九號同年一月
一〇日刑三判決)

(八二)

裁判所構成法四八 大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付テ表シタル意見ハ其ノ訴訟一切ノ事ニ付テ下級裁判
所ヲ羈束ス

民事訴訟法四五〇 事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決ヲ破
毀スル基本トナシタルモノヲ以テ新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本トナス義務アリ

土地收用法四八 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ

大審院カ上告事件ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ控訴審ノ判決ヲ破毀シタル場合ニ於
テハ其法律ノ點ニ關スル判斷ニシテ判決破毀ノ基本ト爲シタルモノニ限り下級
裁判所ヲ羈束スルモノトス

裁判所構成法第四八條ニハ大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付キ表シタル
意見ハ下級裁判所ヲ羈束ストアリテ其法律ノ點ニ關スル意見ニ付テハ制限アルコト
ヲ明示セスト雖モ同法條ハ大審院カ裁判權ヲ有スル總般ノ事件ニ付キ爲ス裁判ニ關
シ廣ク原則ヲ示シタルモノナレハ之レヲ以テ直ニ其法律ノ點ニ關スル一切ノ意見ニ
羈束力アルコトヲ定メタルモノト解ス可キニ非ス而シテ民事訴訟法四五〇條ニハ
上告裁判所ノ爲シタル法律ニ係ル判斷ニシテ判決破毀ノ基本ト爲シタルモノヲ以テ
新ナル辯論及ヒ裁判ノ基本ト爲スヘキ旨規定シアリテ此規定ハ前示裁判所構成法ノ
規定ニ基キ之ヲ敷衍シタルモノト解ス可キヲ以テ兩法條ヲ參照スレハ大審院カ上告
事件ニ付キ判決ヲ爲スニ當リ控訴審ノ判決ヲ破毀シタル場合ニ於テハ其法律ノ點ニ
關スル判斷ニシテ判決破毀ノ基本ト爲シタルモノニ限り下級裁判所ヲ羈束スル法意
ナルヲ疑フ容レズ本件ノ訴訟記録ヲ調査スルニ當院カ曩ニ本件ニ付キ與ヘタル判決
ノ理由中原裁判所ノ判決ヲ破毀スル基本ト爲リタルモノハ土地收用ニ因ル損失補償
ノ標準時期ニ關スル部分ニ非スシテ其損失補償ノ標準價格ニ關スル部分ナルコト明
白ニシテ其損失補償ノ標準時期ニ關スル部分ニ付テハ原裁判所ヲ羈束セサルニ拘ハ
ラス原裁判所カ之ニ羈束セラルルモノトシテ判決シタルハ上告人所論ノ如ク失當タ
ルヲ免レス然レトモ土地收用ニ因ル損失ノ補償額ハ收用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價
格ヲ標準ト爲スヘキコトハ當院カ從來判例トシテ是認スル所ナリ故ニ原裁判所カ收
用ノ時期ニ於ケル收用地ノ價格ヲ標準トシテ本件土地收用ニ因ル損失補償金額ヲ定
メタルハ結局正當ナルニ歸スルヲ以テ上告論旨ハ原判決破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

(大審院大正二年(オ)第三四一號同年一月一日民一判決)

【參照學說】

一 訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所カ更ニ辯論及裁判ヲ爲スニ當リテハ上告裁判所ノ法律上ノ判斷ニシテ原判決ヲ破毀スルノ基礎ト爲リタルモノヲ以テ其基礎ト爲スヘキモノトス(四五〇)故ニ訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ法律上ノ判斷ニ基キテ辯論ヲ爲シ且ツ裁判ヲ爲ササルヘカラサルナリ加之ナラス大審院カ上告裁判所タル場合ニ於テハ裁判ヲ爲スニ當リテ示シタル其法律上ノ意見ハ原判決破毀ノ基礎ト爲ラサルモノト雖モ訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束スルモノトス蓋シ大審院カ或訴訟事件ニ付キ裁判ヲ爲スニ當リテ示シタル法律上ノ意見ハ其訴訟事件ニ付キ總テ下級裁判所ヲ羈束スルモノナルヲ以テナリ(裁權四八)然レトモ上告裁判所カ大審院ニ非サルトキハ其法律上ノ意見ハ原判決破毀ノ基礎ト爲リタルモノノ外訴訟事件ノ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束スルコトナシト知ルヘシ(仁井田博士民事訴訟法要論中卷九二四頁)

二 差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ上告裁判所ノ爲シタル法律上ノ判斷ニシテ判決ヲ破毀スルノ基本ト爲シタルモノヲ以テ新ナル辯論及裁判ノ基礎ト爲スコトヲ要ス(四五〇)(岩田學士民事訴訟法原論三八七頁)

三 上告裁判所ノ法律上ノ判斷ハ差戻又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ヲ羈束スルモノトス(板倉學士民事訴訟法綱要四八〇頁)

四 又判決破毀ノ基礎トナリタル上告裁判所ノ法律上ノ判斷ヲ新ナル辯論及裁判ノ基本ト爲スノ義務アリ即チ該判斷ニ羈束セラルモノナリ(民事四四〇民事案四八二第二項)法律上ノ判斷トハ上告裁判所カ判決ノ理由ニ於テ表示セル宣言ニシテ主トシテ控訴裁判所カ其確定シタル事實ニ付キ爲シタル法則ノ適用ノ不當ナルコト及ヒ如何ナルモノカ正當ノ法則ナルカチ明カニスル内容ヲ有スルモノニシテ其意義法律ヨリ博シ隨テ上告裁判所ノ證書ノ解釋ノ如キ事項ハ法律上ノ判斷ニ屬ス又判決破毀ノ基本トナリタル法律上ノ判斷ハ誤リタルト上告裁判所カ他ノ同一ノ事件ニ於テ改メタルト及ヒ法律ノ變更ニ依リ改ムヘキモノナルト否トナ問ハス控訴裁判所ヲ羈束ス然レトモ新ナル判斷ニアラスシテ唯附加シタルニ過キサル法律上ノ見解ハ控訴裁判所ヲ羈束セス從テ此點ニ關シテハ控訴裁判所ハ自由ニ判斷ヲ爲ササルヘカラス(今村氏民事訴訟法第一編中央大學講義錄二五三頁)

(八三)

舊漁業法三 漁具ヲ設置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ントスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

舊漁業法施行規則三三 漁業權ノ相續讓渡若クハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者双方ハ申請書ニ其事由ヲ認スヘキ書面及免許狀ヲ添附シ三十日以内ニ免許狀ノ書換ヲ行政官廳ニ申請スヘシ

前項ノ規定ハ代表者ニ變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス

同六五 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三三條第一項第五一條第五四條第五六條ノ規定ニ違背シ又ハ入漁者ノ權利ニ付相續讓渡若クハ共有アリタル場合ニ登録證ノ書換ヲ申請セサルトキ(以下略)

漁業法施行規則六四 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ抵觸セサルモノハ漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス

民法九四 相手方ト通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ハ無効トス

前項ノ意思表示ノ無効ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

漁業權者カ其漁業權ヲ保有シナカラ單ニ之レカ名義ノミヲ他人ニ移シテ以テ債權ノ擔保ト爲ス契約ハ舊漁業法ノ許ササル事項ヲ目的トセルモノナルヲ以テ無効ナリトス

虛偽ノ意思表示ニ基ク漁業權ノ取得登録ヲ恰モ正當ニ成立シタルモノノ如ク認メ債務ヲ辨濟スルニ非サレハ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノノ如ク判示シタルハ虛偽ノ意思表示ニ何等カノ效力アラシメタルモノナルヲ以テ其判決ハ理由齟齬ノ不法アルモノトス

舊漁業法第三條ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ得テ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有スル者ハ同法又ハ同法ニ基キ發セラレタル命令ノ規定ヲ遵守セサル可カラサルト同時ニ行政官廳モ亦タ常ニ其遵守如何ヲ監視スルノ必要アリ是レ舊漁業法施行規則第二八條以下ニ於テ行政官廳ハ漁業ノ免許ヲ與フルトキハ漁業權者又ハ代表者ノ氏名若クハ名稱及住

所 他ノ事項ヲ記載シタル免許狀ヲ下付シ且免許漁業原簿ニ之カ登錄ヲ爲シ又漁業
 權ノ相續讓渡若クハ共有アリタル場合ニ於テ相續人又ハ當事者双方ノ申請ニ因リ免
 許狀ノ書換テ許可シタルトキハ相續又ハ讓渡ニ關シテハ其事由年月日及相續人若ク
 ハ讓受人又ハ其代表者ノ氏名若クハ名稱及住所ヲ原簿ニ登錄スル等漁業ニ關スル幾多
 ノ事項ヲ漁業原簿ニ登錄スヘキコトヲ規定セル所以ニシテ漁業原簿ハ行政官廳カ漁
 業ヲ監視スル上ニ於ケル便宜ノ爲メタルト同時ニ利害關係ナ有スル第三者ノ便宜ノ
 爲メニ設備セラレタルモノナレハ之ニ登錄スル事項ハ實際ノ事實ト符合スルヲ期ス
 ヘキコト至當ナルノミナラス舊漁業法施行規則第三三條ニ於テ漁業權ノ相續讓渡若
 クハ共有アリタルトキハ相續人又ハ當事者双方ハ申請書ニ其事由ヲ設スヘキ書面及
 免許狀ヲ添付シテ三〇日以内ニ免許狀ノ書換テ行政官廳ニ申請スヘキコトヲ規定シ
 而シテ同規則第六五條ニ於テ右ノ申請ヲ爲ササル者ハ二五圓以下ノ罰金ニ處セラレ
 ヘキコトヲ規定セリ此ノ如ク罰金ノ制裁ニ依リテ申請手續ヲ強ユルニ由テ之ヲ觀ル
 モ漁業原簿ニ登錄スル事項ハ實際ノ事實ト符合スルヲ期シ漁業權ヲ有セシ者ト雖モ
 既ニ之ヲ失ヒタル以上ハ三〇日ノ期間後尙ホ漁業權者ノ名義ヲ保ツコトヲ許ササル
 ト共ニ相續讓渡若クハ共有ニ因リ新ニ漁業權ヲ取得シタル者カ其前主ニ漁業權者ノ
 名義ヲ保タシムルコトヲ許ササル法意ナルコト寔ニ明白ナレハ現ニ漁業權ヲ有スル
 者カ其權利ヲ自己ニ保有シテ他人ヲシテ單ニ漁業權者ノ名義ノミヲ保タシムル
 コトハ目的ノ如何ニ拘ハラヌ舊漁業法ノ許ササル所タルコト勿論ナリトス今本件ノ

事實ヲ考フルニ被告上告人ハ樽太西海岸第二ヒスボナイボ漁場會根地先第二〇八號定
 置漁業權ヲ有スルモノナルニ近藤孫三郎ニ對シ金四三三〇圓ノ債務ヲ負擔セシヨ
 リ明治四一年一月二五日孫三郎トノ間ニ甲第九號證契約ノ成立シタルコト當事者
 間爭ナキ事實ナルモ被告上告人ト孫三郎間ニハ漁業權ハ勿論之レカ占有ヲモ移轉スル
 ノ意思アリタルニ非ス單ニ漁業權ヲ孫三郎ノ名義ニ移シ以テ同人ノ債權ヲ擔保スル
 爲メ名ヲ賣買ニ藉リ免許狀ノ書換テ受ケタルモノニテ甲第九號證ノ賣買及貸借借カ
 假裝ノモノナルコトハ原簿ノ確定スル所ナリ果シテ然ラハ假令被告上告人ト孫三郎ト
 ノ間ニハ被告上告人ニ於テ漁業權ヲ保有シテ然ラハ假令被告上告人ト孫三郎ト
 テ債權ノ擔保ト爲スノ契約締結セラレタルニセヨ其契約ハ舊漁業法ノ許ササル事項
 即チ法律上不能ノ事項ヲ目的トセルモノニシテ無効タルチ免カレス然ルニ原簿ハ新
 ル契約ハ法律上ニ妨ケナキモノトシ之ヲ有效ト爲シタルハ法律ノ適用ヲ誤リタル不
 法アルモノト謂フヘシ加之ナラス原簿ハ判決理由ノ第二ニ於テ甲第九號證ノ契約ハ
 眞正ノ賣買ニ非ス單ニ名ヲ賣買ニ藉リ本權ハ勿論其占有ヲモ移轉スルノ意思ナクシ
 テ之ヲ債務ノ擔保ニ供シ且同號證第一四條ニ於テ債務ノ辨濟期ヲ定メタルモ其期限
 ハ同時ニ近藤ノ取得セル漁業權ヲ被告上告人ニ返還スル爲メノ期限ニ非スシテ該期限
 經過後ト雖モ債務ヲ辨濟スレハ何時ニテモ漁業權名義ヲ被告上告人ニ回復スヘキ特約
 ノ存セシモノニシテ被告上告人カ依然漁場ヲ占有シ漁業權ヲ行使スルノ必要上之レカ
 賃賃借テ假裝セルモノト推認スルヲ妥當トスル旨判示シ又同理由第四ニ於テ被告上告人
 ハ當初ヨリ本訴ノ漁業權カ被告上告人ノ權利ニシテ近藤孫三郎ニ對スル債務ノ擔保ニ

供セラレ只表面近藤名義ニ移轉セラレアルコト及讓受ノ際被上告人ト近藤間ニ現ニ其漁場ニ付キ争訟アルコトヲ熟知シナカラ近藤勝訴ノ結果ヲ萬一ニ億望シテ明治四二年一月二四日之ヲ買受ケ表面借受名義ニ登録シ暫ク形勢ヲ觀望シタリシカ被上告人ヨリ和解ノ申出アルヤ返還ヲ困難ナラシメントシ僅カニ二句ヲ出テサル間ニ急遽漁業權ノ取得登録ヲ爲シタルモノト推斷セサルヘカラス即チ上告人ハ被上告人ト近藤間ノ假裝賣買行爲ニ付惡意ノ第三者ニシテ該行爲ノ無効ヲ對抗セラルル地位ニ在ルヲ以テ近藤ト上告人間ノ讓渡契約モ亦自ラ無効ニ歸シ漁業權上告人ニ移轉セサルカ故ニ其取得登録ハ原因ナキモノナレハ之カ抹消ノ手續ヲ爲スヘキ義務アルヤ當然ナル旨判示セリ此等判示ニ依レハ原院ハ甲第九號證動產不動產賣買及貸借契約ハ當事者ノ相通シテ爲シタル虛偽ノ意思表示ナリト判定シタル者ナルコト疑ナ容ルルノ餘地ナシ然レハ虛偽ノ意思表示ハ無効ナルカ故ニ假令被上告人ト近藤孫三郎トノ間ニ於テハ漁業權者ノ名義ヲ以テ債務ノ擔保ト爲シタルニセヨ甲第九號證ニ基キ爲サレタル孫三郎ノ漁業權取得登録ハ原因ナキモノニシテ當然抹消セラルヘキモノナルコト勿論ノ筋合ナルニ理由ノ第三ニ於テ係争漁業權(名義)ノ謂ヒナルコト全體ノ判示ニ依リ明カナリ)ヲ以テ擔保セラルル被上告人ノ債務ハ全部消滅シタルモノナレハ近藤孫三郎ハ被上告人ニ對シ本訴漁業權ノ取得登録ヲ抹消シ其名義ヲ被上告人ニ回復スルノ手續ヲ爲スヘキ義務アルヤ論ヲ俟タサル旨判示シ虛偽ノ意思表示ニ基ク孫三郎ノ取得登録ヲ恰モ正當ニ成立シタルモノノ如ク認メ被上告人ニ於テ債務ヲ辨濟スルニ非サレハ之ヲ抹消スルコトヲ得サルモノノ如ク説明シタルハ即チ虛偽ノ意

思表示ニ何等カノ效力アラシメタルモノニ外ナラサルヲ以テ原判決ハ理由齟齬ノ不法アルモノト謂ハサルヲ得ス(大審院大正二年(オ)第五〇八號同年一月二六日民二判決)

【參照判例】

漁業權ハ行政官廳ノ免許ヲ得タル者ニ限り之ヲ有スヘキモノナレハ縱令其免許ヲ得タル者ト他人トノ間ニ如何ナル契約アリトスルモ名義人以外ノ者ハ漁業權ヲ有スルモノト云フコトヲ得ス(大審院民事判決錄四〇年二二八五頁)

(八四)

出版法七

文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ
同二四 發行者自己ノ氏名住所又ハ發行ノ年月日又ハ印刷者ノ氏名住所又ハ印刷ノ年月日ヲ其ノ發行スル文書圖書ニ記載セス其ノ之ヲ記載スルモ實ヲ以テセサル者ハ二四以上三〇四以下ノ罰金ニ處ス

文書圖書ノ發行者ハ必ス文書圖書ノ末尾ニ其氏名ヲ記載スルコトヲ要スルモノニシテ商號ヲ記載シテ其氏名ノ記載ニ代フルコトヲ得サルモノトス
出版法ハ會社其他ノ自然人ニ非サル者カ其資格ニ於テ文書圖書ヲ發行スルコトヲ認メサルモノトス

上告趣意商人カ其氏名ヲ使用スル代リニ商號ヲ以テスルコトハ公認ノ事實ナリ出版法第二四條ニ所謂發行人ノ氏名申ニハ其商號ヲ包含スルモノナリト解ス然ラサレハ氏名ナキ會社カ發行人トナル場合ノ如キハ常ニ該條ノ刑ニ觸ル可キニ至レハナリ本件山内文質堂カ山内由次郎ノ商號ナル以上ハ該條ヲ適用ス可キ限リニアラザルヤ明カナリ然ルニ其商號ナルヤ否ヤニ審究セラレス漫然該條ヲ適用セラレタル原判決ハ

文書圖書ノ發行者ハ其氏名ヲ以テ其商號ヲ代ルコトヲ得ス(諸法) 151

會社
自然
非
ハ
文
書
圖
畫
者
其
他
ハ
非
サ
ル
者
ニ
シ
テ
自
然
人
ト
シ
テ
行
ハ
ル
コ
ト
ヲ
得
ス
ル
コ
ト
ヲ
得
ス

不法ノ裁判ナリト云ハサル可カラスト云フニ在リ案スルニ明治三二年内務省告示第
八〇號出版ニ關スル願屆書式ノ記載ノ趣意等ヨリ考察スレハ發行者ハ其發行ニ係ル
文書圖畫ニ其氏名ノ外商號ヲ記載スルコトヲ妨ケサル可シト雖モ出版法第七條ニ依
レハ發行者ハ其氏名ヲ文書圖畫ノ末尾ニ記載ス可キモノナルヲ以テ商號ヲ記載シテ
其氏名ノ記載ニ代フルコトヲ得サルハ勿論ナルヲ以テ被告人由次郎カ判示「アキレ申
候」ト題スル文書ニ單ニ山田文貢堂トノミ記載シ其名ヲ記載シ置カサリシハ明ニ出版
法第二四條ノ規定ニ違反シタルモノトス論旨ニ依レハ前項法條ハ適法上若シ商號ヲ
氏名ト同視スルコトヲ得サルモノトスレハ例之會社ノ如キハ其氏名ヲ有セサル結果
發行者ト爲リタル場合ニ於テハ毎ニ同法條ニ違背スルモノト云ハサルヲ得スト推斷
スト雖モ出版法ノ法意ハ會社其他自然人ニ非サル者カ其資格ニ於テ文書圖畫ヲ發行
スルコトヲ認メサルニ在リト解釋ス可キモノナリトス本論旨理由ナシ(大審院大正二
年(レ)第二一七七號同年一月一九日刑一判決)

【參照判例】

出版法第一五條ハ學校會社等團體ノ名義ヲ以テスル著作物ハ之ニ對シ責任ヲ負フ者及ヒ權利ヲ有スル者ノ團體全員ナリヤ否ヤ
ヲ判定スルニ困難ナルヲ以テ一ノ擬制ニ依リ著作ニ關與ノ有無ヲ問ハス其團體ノ代表者ヲ著作者ト看做シタルモノトス從テ此
等團體ノ代表者ハ著作ノ責任ヲ負擔スルト同時ニ著作權者トシテ行動スルコトヲ得(大審院刑事判決錄三七年一三五二頁)

(八五)

銀行條例一 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ
爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用キルニ拘ハス總テ銀行トス

二同 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ
貯蓄銀行條例一 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ハ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條
例ニ依ラシム

銀行條例第一條ノ行爲ヲ爲スモノハ縱令第二條第一項ニ依リ大藏大臣ノ認可ヲ
受ケストスルモ仍ホ之ヲ銀行ト認ムヘキモノトス」
貯蓄銀行條例第一條第二項ニ所謂銀行ニ於テトハ實質上銀行條例第一條ノ行爲
ヲ爲スモノニ於テトノ意義ニ解スヘキモノトス」
銀行事業ニ必要缺クヘカラサル事項ハ預金契約ノ趣意ニ從ヒ要求拂及ヒ定期拂
等ノ債務ヲ負ヒ預金者ニ對シテ預金返還ノ責ニ任シ他ノ一面ニ於テハ貸付等ノ
方法ニ依リテ資金ヲ運用スルニ在ルモノトス」
公ニ開キタル店舗ニ於テ營業シタルヤ否ヤ積立金ニ付テハ果シテ要求拂及ヒ定
期拂等ノ債務ヲ負擔シタルヤ否ヤ等不明ナル場合ハ未タ法律上銀行ナリト言フ
ヲ得サルモノトス」

銀行條例第一條ニ依レハ公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ
爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及ヒ貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用キルニ拘ハラズ總
テ銀行ト認ムヘキヲ以テ苟モ上叙ノ行爲ヲ爲スモノハ縱令同條例第二條第一項ニ依
リ大藏大臣ノ認可ヲ受ケストスルモ仍ホ之ヲ銀行ナリト云ハサルヲ得ス故ニ貯蓄銀

行條例第一條第二項ニ所謂銀行ニ於テハ實質上上叙ノ行為ヲ爲ス者ニ於テノ意義ニ之ヲ解スヘク必スシモ銀行タルノ認可ヲ受ケタルモノナルコトヲ要セサルヲ以テ第二論旨ハ其理由ナシ而シテ原判決ハ論旨所掲ノ事實ヲ認定シ其法律適用ノ部ニ於テ直ニ判示共融株式會社カ多數ノ會員ヨリ預金ヲ爲サシメ之ヲ貸付ケタル行為ハ銀行條例第一條所定ノ行為ナルヲ以テ同會社ハ之ヲ銀行ト謂フヘク云云ト擬律シタリト雖トモ本院大正二年(ク)第二〇七號判例ノ趣旨ニ依レハ銀行事業ニ必要缺クヘカラサル事項ハ預金契約ノ趣意ニ從ヒ要求拂及ヒ定期拂等ノ債務ヲ負ヒ預金者ニ對シテ預金返還ノ責ニ任シ他ノ一面ニ於テハ貸付等ノ方法ニ依リテ資金ヲ運用スルニ在リテ本院大正元年(レ)第二〇九五號第一點ノ判示ハ其趣意ニ於テ多少ノ變改ヲ受ケタルニ拘ハラス原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ判示會社ニ於テ會員ノ積立金ヲ收納シタルコト及ヒ貸付ヲ爲シタルコトハ之ヲ認メ得ヘキモ判示會社ニ於テ公ニ開キタル店舗ニ於テ營業シタルヤ否ヤ積立金ニ付テハ果シテ要求拂及ヒ定期拂等ノ債務ヲ負擔シタルヤ否ヤ等ハ全然不明ニシテ未俄カニ該會社ヲ法律上銀行ナリト論斷スルコトヲ得ス又該會社ニシテ若シ銀行ニ非ストセハ貯蓄銀行條例第一條第一項ニ規定スル如ク更ニ複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ミタル事實ヲ判示スルニ非サレハ之ヲ原判決ニ掲記スル處斷法條ニ觸ルルモノト爲スコトヲ得サルヲ以テ原判決ノ認定シタル事實ノミニ依リテハ被告人八男三カ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタリトノ罪責ヲ判定スルコトヲ得ス第一論旨ハ理由アリ(大審院大正二年(レ)第一八七四號同年一月二日刑一判決)

【參照學說判例】

本書第二卷商法二五七頁三五〇頁

農會令一四 總會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニシテ臨時急施ヲ要シ總會ヲ召集スル暇ナシト認ムルトキハ會長ハ專決處分
スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ總會ノ承認ヲ求ムヘシ
同二〇 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

市町村農會ハ會則ノ定ムル所ニ依リ物件ヲ以テ經費ノ負擔ヲ爲サシムルコトヲ得
市町村ニ必要ト認ムルトキハ監督官廳ノ許可ヲ得テ市町村農會ニ補助ヲ爲スコトヲ得
同二二 農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ
經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ變更セントスルトキハ總會ノ議決ヲ經テ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

明治三八年勅令第二二五號農會令第二〇條ハ單ニ農會經費ノ負擔者ヲ定メタルニ過キサレハ同第二二條ノ手續ヲ履踐スルニ非サレハ各會員カ負擔スヘキ經費ノ存否及ヒ其數額并ニ支拂ノ時期等ハ確定セサルモノトス

明治三八年勅令第二二五號農會令第二〇條ニハ農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其會員ノ負擔タルコトヲ規定スト雖モ之ヲ同第二二條ノ農會ハ毎年總會ニ於テ經費ノ豫算及ヒ分賦收入ノ方法ヲ議決シ二月末日迄ニ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシトノ規定ニ對照スルトキハ同第二〇條ハ單ニ農會經費ノ負擔者ヲ定メタルニ過キスシテ第二二條ノ手續ヲ履踐スルニ非サレハ各會員カ負擔スヘキ經費ノ存否其數額及ヒ支拂ノ時期等未タ確定セス即農會ヨリ各會員ニ對スル經費分擔請求權ノ存否未タ確定

セサルモノト解セサルヘカラス本件ニ於テ西嶽村農會カ其經費ニ付キ前示農會令第
二二條ノ手續ヲ履踐セサルコトハ原判決ノ確定セル事實ナレハ被上告人等カ右農會
ニ對シ納入スヘキ經費ノ負擔モ未タ確定セサルモノトシ從テ上告人ハ右農會ニ代位
シテ本訴ノ請求權ヲ行使スルコト能ハサルモノト原審ニ於テ判定セルハ正當ナリ上
告論旨ハ農會令第一四條ノ規定ニ付云爲スル所アルモ之原判示ニ副ハサル不當ノ論
難ヲ試ムルモノナレハ結局本論旨ハ理由ナシ(大審院大正二年(オ)第四六九號同年一二
月一三日民一判決)

(八七)

特許法七

審判請求書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシメ其ノ答
辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ
審判ニ關シテハ當事者ノ差出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ差出サシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ
對スル意見書ヲ差出サシムルコトヲ得
同八二 第七〇條乃至七九條ノ規定ハ抗告審判ニ之ヲ準用ス但シ審判官三人又ハ五人ノ合議ニ依ル

特許法第七一條ニ依リ相手方ニ送達スヘキ書類ハ其事件ノ判斷ノ證據ト爲ルヘ
キ事項ニ關スル書類ニ限ルヲ以テ其以外ノ書類ハ縱令當事者ヨリ提出アルモ之
ヲ相手方ニ送達スルヲ要スルモノニ非ス

特許法
第七一條ノ
意義

特許法第八二條ニ於テ抗告審判ニ準用シタル同法第七一條ノ解釋ニ關シテハ寔ニ上
告人ノ所論ノ如シ然レトモ原審ニ於テ同條ニ依リ相手方ニ送達スヘキ書類ハ本件ノ
判斷ノ證據ト爲ルヘキ事項ニ關スル書類ニ限ルヲ以テ其以外ノ書類ハ縱令當事者ヨ

提出アリタレハトテ之ヲ相手方ニ送達スルヲ要スルモノニ非ス而シテ上告論旨ニ
所謂陳情書及其證據書類ナルモノヲ見ルニ此等ノ書類ハ其名ノ如ク單ニ本件當事者
ノ一身上ノ行動ニ關スル事情ノ陳述トシテ之カ證明ニ關スル書類ニ止マリ何等前
述ノ書類送達ヲ要スヘキ書類ニ該當スルモノニ非ス故ニ原審ニ於テ右陳情書等ヲ上告
人ニ送達セサルモ之ヲ以テ前記法條ニ違背シタル不法アリト云フヲ得ス而シテ原審
ニ於テ右陳情書等ノ記載ニ基キ本件ヲ判斷シタル事述ナキヲ以テ原審決ニハ河等ノ
瑕疵ナシ(大審院大正二年(オ)第二三六號同年一〇月二〇日民判決)

(八八)

競賣法三

競賣期日ハ民事訴訟法第六六〇條ノ規定ニ從ヒ裁判所ニ於テ之ヲ開ク
競落ノ手續、競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日競賣ノ履行及競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民
事訴訟法第六七一條乃至第六七四條第六七六條乃至第六八三條第六八七條及第六八八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之
ヲ準用ス

民事訴訟法六七二

競落ノ許可ニ付テノ異議ハ在ノ理由ニ基クコトヲ要ス

- 一 強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ續行ヲ許ス可カラサルコト
 - 二 最高價競買人賣買契約ヲ取結ヒ若クハ其不動産ヲ取得スル能力ナキコト
 - 三 法律上ノ賣却條件ニ抵觸シテ競賣ヲ爲シタルコト又ハ總テ利害關係人ノ合意ヲ得スシテ法律上ノ賣却條件ヲ
變更シタルコト
 - 四 競賣期日ノ公告ニ第六五八條ニ掲ケタル要件ノ記載ナキコト
 - 五 競賣期日ノ公告ハ法律上規定シタル方法ニ依リ之ヲ爲ササルコト
 - 六 第六五九條ニ規定シタル期間ヲ存セザリシコト
 - 七 第六六五條第二項及第六六六條第一項ノ規定ニ違背シタルコト
 - 八 第六六四條ノ規定ニ違背シ最高價競買人ナリト呼上ケタルコト
- 同六八〇 利害關係人ハ競落ノ許可ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲

競落許可
決定ニ對
スル抗告
要件

不動産競賣事件ノ競落許可決定ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第六七二條ニ掲ケタ
ル事由又ハ競落決定力競落期日ノ調査ノ旨趣ニ抵觸シタルコト又ハ取消ノ訴若
クハ原狀回復ノ訴ノ要件ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲シ得ヘキモノナレハ單
ニ不動産力詐僞ノ手段ニ罹リ格外ノ低價ニ購買セラレタリト云フニ過キサル場
合ハ抗告理由トナラサルモノトス

不動産競賣事件ノ競落許可決定ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第六七二條ニ掲ケタル競
落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定力競落期日ノ調査
ノ旨趣ニ抵觸シタルコトヲ理由トスルトキ又ハ取消ノ訴若クハ原狀回復ノ訴ノ要件
ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得ヘキハ競賣法第三二條民事訴訟法第六八
〇條及第六八一條ノ規定ニ依リ明カナル所ナリ然ルニ抗告人カ原審ニ提出シタル抗
告理由ハ抗告人ハ東京區裁判所ニ於テ債權者中島彦太郎ノ爲メ詐欺ノ手段ニ罹リ本
件建物ヲ格外ノ低價ニ競買セラレタリト云フニ過キサレハ前段ニ掲ケタル競落許可
決定ニ對スル抗告理由トシテ許サレタル理由ノ執レニモ該當セサルコト明カナレハ
原裁判所ニ於テ右抗告ヲ不適法トシテ棄却シタルハ相當ニシテ本件抗告ハ理由ナキ
モノトス(大審院大正二年ク)第四六八號同三年一月一九日民二決定)

治安警察
法一八條
違反

明治三三年内務省令第三六號ハ治安警察法一八條適用ノ一例ニシテ同省令但書
ノ場合ニ該當セサル限リ又法律上行爲ノ違法性ヲ阻却スル原因ノ存セサル限リ
ハ止ムヲ得サル事情ノ下ニ在テモ右禁令違反ノ行爲ハ治安警察法第三一條ノ處
罰ヲ免ルヘキニ非ス

治安警察法ハ其第一八條ニ於テ行政官廳ニ附與スルニ安寧秩序ノ保持上必要ト認ム
ルトキハ命令ヲ以テ或器機物又ハ或器ヲ仕込ミタル物件ノ携帯ヲ禁スルノ權能ヲ
以テ全國ニ涉リ若クハ一定ノ地域ヲ局リ又ハ一定ノ人ニ對シ若クハ特殊ノ人ニ限リ
又ハ永久ニ亘リ若クハ一定ノ時期ヲ劃シテ之ヲ發スルコトヲ得ヘキモノトス明治三
三年内務省令第三六號ハ其適用ノ一例ニシテ永久ニ亘リ特殊ノ労働者炭坑採人川
採人石炭採仕稼人土方採人ヲ指スニ對シ福岡縣内ノ特定ノ地域ニ限リテ治安警察法
第一八條所定ノ物件ヲ携帯スルコトヲ禁セリ其趣旨ハ固ヨリ安寧秩序ノ保持上必要
ト認メタルモノニ外ナラサルヲ以テ同省令但書ノ場合ニ該當セサル限リ又法律上行
爲ノ違法性ヲ阻却スル原因ノ存セサル限リハ所論ノ如キ止ムヲ得サル事情ノ下ニ在

治安警察法一八 行政官廳ハ安寧秩序ヲ保持スル爲メ必要ト認ムルトキハ或器機物又ハ或器ヲ仕込ミタル物件ノ携
帶ヲ禁スルコトヲ得

同三一 第一八條ノ禁ヲ犯シタル者ハ六月以下ノ重禁錮ニ處ス

明治三三年内務省令第三六號 炭坑採人川採人石炭採仕稼人土方採人ハ福岡縣門司市、小倉市、及遠賀郡鞍手郡嘉

穂郡田川郡企救郡ニ於テ或器機物又ハ或器ヲ仕込ミタル物件ヲ携帯スルコトヲ得ス但シ職業ノ爲メ監督者ノ指揮

ニ依リ或器機物ヲ携帯スルハ此ノ限ニ在ラス

刑法六一 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

テモ右禁令違反ノ行為ハ治安警察法第三一條ノ處罰ヲ免ルヘキモノニ非ス蓋シ禁止物件携帯ノ行為自體カ直接ニ安寧秩序ヲ害セサル場合ニ於テモ既ニ法令カ安寧秩序ヲ害スル虞アリトシテ特殊ノ人ニ對シ特定ノ地域内ニ於テ特定物件ノ携帯ヲ禁シタル以上ハ他人ヲ教唆シテ之ニ違反スル行為ヲ實行セシムルハ法令ノ威力ヲ侮蔑スルモノナレハ取締上之レヲ處罰セサルヘカラサレハナリ(大審院大正二年(レ)第二一一八號同年一二月一二月刑一判決)

(九〇)

競賣法二六 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ附スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ
民事訴訟法第六五二條第二項第六五三條及第六五三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
民事訴訟法六五二條第二項 登記簿ニ從ヒテ記入ヲ爲スヘシ
同六五二 登記簿ニ從ヒテ登記簿ノ記載タル後登記簿ノ原本ヲ裁判所ニ送附シ不動産上權利者ヨリ差出シタル證書アルトキハ其抄本ヲ送付スヘシ

競賣開始決定ノ效力ハ其以後ニ於ケル競賣手續ノ適否ニ依リ影響ヲ受クヘキモノニアラス(從テ決定後ノ登記簿並ニ登記簿ノ原本送付ノ手續等ニ關シ)

競賣開始決定ノ適否手續其

本件抗告ノ要旨ハ原裁判所カ開始決定ニ對シテハ其決定後ノ手續ノ違法ヲ理由トシテ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲シ抗告人ノ抗告ヲ棄却シタルハ不法ナリト謂フニ在レトモ一旦違法ニ成立シタル開始決定ノ效力カ其以後ニ於ケル競賣手續ノ適否ニ依リ影響ヲ受クヘキ理由ナキヲ以テ原裁判所カ競賣法第二六條ニ依リ裁判所カ競賣申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキコトヲ其管

轄登記所ニ囑託スヘキコト並ニ該管轄登記所カ右登記ヲ爲シタル後登記簿ノ原本ヲ裁判所ニ送付スヘキコトハ競賣手續開始決定ヲ爲スト同時若クハ其後ニ於テ爲スヘキ手續ニ屬シ其適否カ直チニ競賣手續開始決定ノ當否ヲ決スヘキ性質ノモノニアラサルカ故ニ之ヲ以テ競賣手續開始決定ヲ非難スルハ失當ナリ(下判示シタルハ洵ニ相當ニシテ本件抗告ハ適法ノ理由ナキモノト認ム(大審院大正二年(ク)第四三〇號同年一二月一二月民二決定))

(九一)

競賣法二六第一項 裁判所ハ開始決定ヲ爲スト同時ニ職權ヲ以テ競賣ノ申立アリタルコトヲ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ニ登記スヘキ旨ヲ其管轄登記所ニ囑託スヘシ
同三二第二項 競落ノ手續競落ヲ許ササル場合ノ新競賣期日競賣ノ履行及ヒ競落人ノ義務不履行ノ場合ニ於ケル再競賣ニ關スル民事訴訟法第六七一條乃至第六七四條、第六七六條乃至第六八三條、第六八七條及ヒ六八八條ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス
民事訴訟法六七二 競落ノ許可ニ付テノ異議ハ左ノ理由ニ置クコトヲ要ス
第一 強制執行ヲ許スヘカラサルコト又ハ執行ヲ履行ス可カラサルコト
同六八二第二項 競落ヲ許シタル決定ニ對スル抗告ハ此法律ニ掲クル競落ノ許可ニ對スル異議ノ原因ノ一ヲ理由トスルトキ又ハ競落決定カ競落期日ノ調整ノ旨趣ニ抵触シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

競賣ノ申立ヲ登記簿ニ記入セシムルハ第三者ヲシテ手續ノ開始ヲ知ラシムル爲メナルヲ以テ申立人二名中ノ一名ノミヲ記入シタルハトテ之ヲ更正スルヲ以テ足り強制執行ヲ許スヘカラサルコト又ハ執行スヘカラサルコトト爲ラス從テ之ヲ以テ競落許可決定ニ對スル抗告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

競買法第三二條民事訴訟法第六八一條第六七二條第一號ニ依レハ強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ履行ス可カラサルコトヲ理由トスルトキハ競落許可ノ決定ニ對シテモ抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナルモ競買申立ヲ登記簿ニ記入セシムルハ第三者ヲシテ其不動産ニ對シテ競買手續ノ開始セラレタルコトヲ知ラシムル爲メナルヲ以テ本件ニ於テ競買申立人トシテ筒井龜吉松本由松二名ヲ登記簿ニ記入スヘキコトヲ松本由松一名ノミヲ記入シタルハトテ之ヲ更正スルヲ以テ足り爲メニ強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ履行ス可カラサルコトト爲ラス況ンヤ其後松本由松ノ外筒井龜吉ヲ競買申立人ト爲シ競買申立ノ登記簿更正シタルコトハ記録中ニ存スル登記簿原本ニ依リテ明ナルニ於テオヤ原決定ハ相當ニシテ本抗告ハ理由ナシ(大審院大正二年(ク)第四七四號同三年一月一二日民二決定)

然リ競買法カ競買申立ヲ登記簿ニ記入セシムルハ第三者ヲシテ其不動産ニ對シテ競買手續ノ開始セラレタルコトヲ知ラシムルニ存シ競落許可決定ノ有效條件タルモノニ非ス故ニ事案ノ場合ノ如キ申立人二名ナルニ拘ハラス其一名ノミヲ記入シタルトスルモ是レ單ニ之ヲ更正スルヲ以テ足り爲メニ強制執行ヲ許ス可カラサルコト又ハ執行ヲ履行ス可カラサルコトト爲ルモノニアラサルナリ況ンヤ後日其競買申立ノ登記簿更正シタル事業ノ場合ニ於テ之ニ對スル抗告ノ理由ナキ勿論ナレハナリ

(九二)

齒科醫師法一 免許ヲ受ケケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條第六條若ハ第七條ニ違背シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

普通醫ハ齒科醫業ヲ營ム當然ノ資格ヲ有セサルモノトス(故ニ齒科ニ關シテ特別ノ免許ヲ有セサル所謂普通醫カ齒牙ニ關スル補綴充填等事務モ齒科ノ技工ニ屬スル)行爲ヲナスカ如キハ舊法ノ行爲タルヲ免レサルモノトス)

我邦ニ於テ齒科醫業ナルモノノ特別存在ヲ法制ノ上ニ認メシハ明治十六年十月二十三日本政官布達第三十四號醫術開業試驗規則ノ發布ニ由ル其以前ニ在テハ普通醫ノ口中科ト稱スルモノ并ニ入齒齒抜口中療治者ト稱スルモノトニヨリ辛フシテ齒牙ノ保護治療補綴ヲ爲シ來リシモノニシテ前者ハ口腔治療ヲ主トシテ齒牙ノ保護補綴ニ就テハ殆ント其知識ヲ缺キ後者ハ齒牙ノ保護補綴ヲ主トシテ口腔ノ治療ニ就テハ是亦全ク其知識ノ缺ケタルカ故ニ所謂齒牙ノ病理及衛生ニ關シテハ何レモ片輪者タルヲ免レナリシナリ而モ此片輪同志ハ互ニ個分ナ區劃シテ少シモ其間ニ知識ノ交換ニ屬スル特ニ普通醫ハ自ら高フリテ一方ヲ入齒師ト稱シ之ト伍スルモ孰ツルカ如キ應テ採リシ爲メ自然齒牙ノ衛生并ニ病理ヲ疎ニスル結果此機會ヲ利用シテ所謂入齒師ナルモノハ其技工ニ獨特ナルモノアリトシテ跳梁跋扈盛ンニ口中療治ヲモ營ミシ事實ハ蓋シ想像ニ難カラス唯如何ニセン病理生理藥劑等ノ知識ノ缺乏ハ蓋テ公衆衛生又ハ醫事行政ノ上ヨリ其儘看過スルニ忍ヒス技ニ齒科醫ナルモノヲ普通醫以外又入齒

師以外特ニ其存在ヲ法律カ要求スルニ至リタルモノニシテ續テ明治十八年三月二十三日内務省達甲第七號入齒拔齒口中療治等營業者取締方ト爲リシモノタルニ外ナラス

二

斯ノ如ク普通醫ハ齒牙ノ保護、治療、補綴等ニ關スル智識ヲ缺キ入齒師ハ病理、生理、藥劑等ニ關スル智識ヲ缺キシヨトカ則チ今日ノ齒科醫ノ特別ニ存在スル所以タルヲ知ラハ本題目ノ解決ハ甚ダ容易タルヲ得ヘシ換言スレハ今日ノ齒科醫ナルモノハ由來我邦ニ於ケル齒牙衛生ニ付キ普通醫ノ缺點并ニ入齒師ノ無識トチ補填スヘク雙方ノ弱所ヲ剷去シテ合一的ニ固メテ獨立セシモノニシテ此獨立ノ保障ハ明治三十九年齒科醫師法カ醫師法ト獨立シテ制定セラレシニヨリ益々明瞭ト爲レルモノト云フ可シ

三

曾テ埃太利及匈牙利國ニ於テ普通醫ト入齒師トノ關係(同國ハ我邦ノ如キ純粹ノ齒科醫ナク普通醫カ大學在學中齒科ノ講義ヲ聞キ僅カニ實習ヲ爲シテ齒科ヲ開業ス)ヲ惹起セシ以來今尙盛シニ是等兩者ノ間ニ其領域ノ爭奪カ年々政府及議會ヲ煩ハスカ如キモ畢竟同國ノ普通醫ハ口腔ノ衛生齒牙ノ治療ニ付キ所謂入齒師ノ業ナリトシテ輕蔑セシ普通醫ノ領域ヲ保守スルノ熱心ナリシカ爲メ國家ハ所謂入齒師ヲ齒科技術師トシテ其間ノ調和ヲ保ツニ勵メタルモ我邦ノ普通醫ハ前陳ノ如ク口中衛生齒科治療ヲ以テ永井兵助流ナリトシテ之ヲ疎外シタル爲メ是等衛生治療ニ付テハ普通醫ノ職掌ヨリ敬シテ遠ケラレ全ク細ノ上ニ祭ウレタルノミナラス終ニ齒科醫ニヨリ其領域

ヲ劃取セラレタルノ感ナキ能ハス而シテ是レ實ニ齒科醫ノ普通醫外ニ其獨立ヲ開拓シタル所以トス

四

我邦ノ普通醫カ自然ニ口腔齒牙ノ衛生治療ノ智識ニ付キ敬遠セラレタルハ一ハ世態ノ傾向ニヨル處ナルヘシト雖モ他ニ大ナル原因ハ政府ノ醫事教育力此點ニ於テ全ク普通醫ノ感情其像ニ支配セラレタルコト是ナリ明治六年文部省達第八十九號ヲ以テ現時ノ醫術開業者ノ明細書及醫師ノ人員等ヲ申達セシメタル際ハ特ニ醫ノ明細ヲ別テテ内科外科眼科産科口中科ト爲シ普通醫口中科ノ專門醫ヲ認メシモ當時ノ醫事教育ニ於テハ其教課目ヨリ全然口中科ヲ除外シ内科外科産科眼科婦人科ニ限リ特別練習ノ途ヲ開キシニ過キス(明治六年文部省第三十六號參照)試ミニ當時第一大學區醫學校卒業證狀ヲ看ルモ當時口中科ナル專門醫アリシニ拘ラフ其科ノ存在ヲ認メス唯外科ノ内ニ包含セシメ一般ノ智識ヲ授ケルニ過キスシテ其口腔齒牙ノ生理病理手術等ニ付テハ全ク専門的智識ヲ教授セザリシ事實ヲ確ムルニ足ル

其後明治八年内務省火災ニ罹リ兼ニ文部省ヨリ引續ケル醫術開業者ノ明細書ヲ燒失スルヤ同年七月二十五日内務省乙第九十八號ヲ以テ更ニ右開業醫ノ履歷明細ヲ徵スルニ當テハ全ク口中科ノ存在ヲ忘レタル如ク内科外科眼科産科而已ヲ表示シ政府自ラ之レヲ除外シ之レヲ疎シタルハ一方ニ於テ入齒師ノ跳梁ヲ助長セシメタルト共ニ醫ヲ學フ者ノ益々之ヲ輕蔑シテ全ク其領域ヲ放却シタルノ感ナキ能ハス而シテ是レ實ニ齒科醫獨立ノ存在ヲ促進シタルモノト云ハサルヲ得ス

五
 普通醫カ何等檢定ヲ受ケスシテ自然齒科醫術ヲ開業シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ法律上ノ問題トシテ大審院明治四十四年(レ)第五〇六號事件ヲ論評スルノ適當ナルヲ信ス同案件ニ依レハ被告人ハ普通醫ニシテ外來齒痛患者ヲ診察シ其患者ノ齒齦ヲ切開治癒シテ其治療費ヲ領收シ以テ齒科醫業ヲ爲シタリト云フニ在リ而シテ橫濱地方裁判所ハ右ノ如キ診察治療ハ一般醫師ノ爲シ得ル處ナルヲ以テ罪ト爲ラスト判決シタルニ據事控訴ノ結果控訴院ハ之レヲ以テ齒科醫師法第十一條ニ違犯シタルモノトシテ之ニ有罪ノ判決ヲ下シタリ

大審院ハ被告人ノ上告論旨ニ對シ判決シテ曰ク
 案スルニ齒科ハ醫學上口腔外科ノ一部ニシテ眼科耳鼻咽喉科ト同シク醫科ノ範圍ニ屬ス醫術開業試驗規則第六條第七條ニ定ムル齒科醫ノ試驗科目ヲ以テ其普通醫ノ試驗科目ニ對照スルニ齒科解剖及生理學ハ解剖學生理學ニ齒科病理及治療學ハ內科學外科學ニ實地試驗ハ臨床實驗ニ包含セラル約言スレハ齒科醫ノ試驗科目ハ普通醫師試驗科目ノ一部分ニ過キササルヲ以テ該規定ハ醫科全部ヲ學習セストモ齒科ヲ學習シタル者ニハ特ニ齒科醫術ノミニ付キ開業ノ免許ヲ與フルカ爲ニ設ケタル者ニシテ齒科ヲ以テ普通ノ醫學ト全ク異ル專門ノ學科ト認メタル者ニ非ス云々ト其要旨ハ試驗科目對照ノ結果齒科醫ノ受驗科目中ニ存在スルカ故普通醫ハ齒科醫トシテ檢定セラレタルモノナリト云フニアリ

六

之レカ解説ノ當否ヲ判斷スルニ先チ余輩ハ醫術開業試驗ノ變遷ヲ見ルヲ便宜ナリト信ス

明治九年內務省乙第六號ノ開業醫試驗科目ヲ見ルニ當時未ダ齒科醫ノ分立ヲ見ス從前ノ口中科カ入齒師ト併存セシ時代ニ在ツテハ僅カニ口中科ナルモノノ分科的專門ヲ認メ之レヲ產科眼科ト同一ノ取扱ヲ爲シ其分科專門ノ免狀ヲ允許セシモノナルカ普通醫トシテ

- 第一 物理學化學
- 第二 解剖學大意
- 第三 生理學大意
- 第四 動物學大
- 第五 藥劑學大意
- 第六 內外科大意
- ノ試驗科目ヲ受クルニ過キス而シテ口中科ヲ專ラ修ムルモノハ其局部ノ解剖生理病理ノ大意及手術ヲ檢メ免狀ヲ授クヘキ規定タリ是レニ因テ之ヲ見レハ當時口中科ノ特別檢定ヲ受クルモノハ口腔齒牙ニ關スル特別智識ヲ學習スルニアラサレハ縱令普通醫ノ學習アルモ其免狀ヲ下附セサル趣旨明白ナルヘシ

- 次テ明治十二年內務省甲第三號ヲ以テ該試驗規則ノ改定セララルヤ其試驗科目
 - 第一 理學
 - 第二 化學
 - 第三 解剖學
 - 第四 生理學
 - 第四 病理學
 - 第六 藥物學
 - 第七 內科學或ハ專門各科
 - 第八 外科學
- ト爲シ其專門科中專門內科、專門外科、產科、眼科、齒科トナシ、何レノ專門モ選擇ニヨリ其科ノ特別智識ヲ檢定シタルモノニシテ當時齒科ヲ選擇セシモノニ就テハ齶齒ノ口中科同様に其局部ノ解剖、生理、病理及手術ヲ檢メ來リタルハ毫モ疑ヲ容レズ

然ルニ降テ現行醫術開業試驗規則ノ制定セラルルヤ普通醫術ノ專門科タリシ齒科ナ
特ニ分離シ所謂齒科試驗ナルモノヲ新ニ開始シ從來眼科産科或ハ專門内科專門外科
ナルモノハ一般醫ノ領域ニ屬セシメテ其自由ノ診療ニ任セ從來一般醫ノ領域タリシ
齒科ヲ分設シテ一般醫ヨリ獨立セシメタルハ沿革上明白ナル事實ナリトス

八

普通醫ノ受験科目中ニ果シテ齒科醫ノ受験科目ヲ包含スルヤ否ヤ此點ニ付テハ明治
九年ノ試験規則ハ最モ其實際ヲ表明スルモノニシテ口中科ノ免狀ヲ受クルニハ特ニ
其局部ノ生理病理手術ニ就キ之レカ檢定ヲ受クヘキノ趣旨明瞭ナルト共ニ普通醫ハ
此特別専門ノ知識ヲ缺如セルモノタルヲ示シテ憚ラス而シテ明治十二年ノ規則ニ所
謂齒科ナルモノニ付テモ亦然リ故ニ現行法上齒科ノ受験スヘキ齒科解剖及生理齒科
病理及治療カ所謂普通醫ノ受験科目タル解剖學生理學又ハ內科學外科學ニ含有スト
爲スハ其沿革及實際ヲ顧ミサル空論ノミ

九

若シ夫レ大審院ノ云フカ如ク如上齒科醫受験科目カ如上ノ普通醫受験科目ニ包含ス
ト爲ストセハ規則第六條第四眼科學第五產科學ノ受験科目ヲ特設セル趣旨ヲ全ク没
却スルニ非スヤ何トナレハ是等ノ科目ハ解剖學生理學外科學內科學ニ包含スヘキ
カ故ニ特ニ受験科目トシテ設クルノ必要ナケレハナリ法律ノ趣旨ハ此第四第五ノ科
ニ付テハ特ニ其局部ニ關スル生理病理手術即チ特別ノ智能ト技能トヲ必要トスルカ
故ニ其微細ニ涉リテ檢定スルノ例アルヲ以テ普通ノ解剖學生理學外科學內科學以外

ニ特設科目ヲ課スル所以タルハ極メテ明白ナリト云ハサル可ラス是ト等シク齒科ニ
付テモ一層其局部ノ知識ノ開發ヲ必要トスルカ故ニ別ニ獨立の試験ヲ規定セルニ外
ナラス而シテ此獨立専門ノ試験ヲ特設シタルハ一方ニ於テ普通醫カ其受験ヲ經ルニ
アラサレハ其局部ニ關スル知識技能ノ保障ヲ缺クモノタルヲ公認セルニアラスシテ
何ソヤ其局部ニ關スル知識ナクシテ其診察ヲ爲シ得ルト爲スハ醫事行政ヲ根本ニ於
テ破壞スルモノナリ

一〇

齒科カ普通醫ト異ルヘキ著シキ特別技能ハ充填補綴等所謂技工ノ點ニアリトス夫レ
技工ハ齒科醫ニ伴フ獨特ノ職業的技能ニシテ實地試驗ナルモノモ亦其點ニ關スル檢
定ヲ忽諸ニ付スヘカラサルヤ旨ヲ俟タス而シテ普通醫ノ臨床實驗ハ病理ノ發見並ニ
其ノ對症治療ノ究明ニ重キヲ要スヘキモ是等齒科醫ノ實地試驗ハ寧ろ病理ニ對シテ
對症療法ヲ究明スル以外尙進ンテ補綴充填ニ關スル技工ノ完足ヲ期スルニアリ之レ
實ニ我邦ニ於ケル齒科醫ノ沿革上然ラサルヲ得サル處トス加之普通ハ前項所論ノ如
ク齒牙ニ關スル局部的知識ノ完全ヲ期シ難ク而シテ更ニ補綴充填ニ關スル技能ニ付
テハ全クノ外門漢ナルヘク而シテ此ノ普通醫ノ點カ齒科醫ノ獨立存在ヲ促進シタリ
シ事情ヨリスルモ今ニ於テ普通醫カ齒科醫タルコトヲ得ト爲スハ醫事行政ノ完カラ
サリシ舊態ニ復古セシムルモノニシテ勢ヒ別ニ入齒師ノ復活ヲ喚起スルモノト云ハ
以上余輩ノ見ヲ以テスレハ普通醫ハ當然齒科醫ヲ兼ムヲ得ス但普通醫カ口腔内ノ對
サルヲ得ス

症療法ヲ施行スルハ固ヨリ差支ナシト雖モ是レ齒科醫トシテニアラス唯夫レ齒牙ニ
 關スル補綴、充填等事務クモ技工ニ屬スル限域ニ立入り齒科爲ノ醫スヘキ範圍ニ步テ
 進ムルハ斷シテ背法ノ行爲タルヲ免レスト信ス前掲大審院判決ハ其趣旨ニ於テ醫師
 ノ權域ヲ眼ルルノ太甚シキモノナリ(辯護士川島任司氏法律評論第二卷第五號論說四一
 頁以下)

至(當ノ見解ナリ

症療法ヲ施行スルハ固ヨリ差支ナシト雖モ是レ齒科醫トシテニアラス唯夫レ齒牙ニ
關スル補綴、充填等事務クモ技工ニ屬スル限域ニ立入り齒科爲ノ醫スヘキ範圍ニ步
進ムルハ斷シテ背法ノ行爲タルヲ免レスト信ス前掲大審院判決ハ其趣旨ニ於テ醫師
ノ權域ヲ誤ルノ太甚シキモノナリ(辯護士川島任司氏法律評論第二卷第五號論說四一
頁以下)

至(當ノ見解ナリ

司法省訓令回答要旨
行政裁判所判決要旨

(自大正二年三月中旬
至大正三年三月初旬)

附 錄

司法省訓令回答索引

○賣藥規則	一五
○保管物取扱規則	一五
○登録稅法	一四二
○町村制	一五、一五
○陸軍軍人服役令施行細則	一三
○官吏遺族扶助料法	一五
○郡制	一五
○刑法	四
○刑法施行法	二
○刑事訴訟法	一六、一四
○刑事略式手續法	三、一三、一六
○不動產登記法	二、三、五、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一四、一五
○不動產登記法施行細則	二
○戶籍法	二、三、五、九、一三、一四
○國稅徵收法	二、一四
○國有林野下戻法	一五

司法省訓令回答索引

司法省訓令回答索引

- 耕地整理登記令.....一、二
- 鑛業法.....一六
- 鑛業法施行細則.....一五
- 公證人法.....二
- 裁判所構成法.....一、三、七、一〇
- 産業組合法.....六
- 行政裁判法.....一六
- 寄留ニ關スル規定.....一四
- 民法.....一、二、四、五、九、一三
- 民事訴訟法.....四、六、七、一、一三、一四、一五
- 商法.....一、一六
- 舊商法破産編.....六
- 執達吏手数料規則.....三、七
- 非訟事件手續法.....一、一六

司法省訓令回答要旨

●相續後ノ相續ノ承認、拋棄ニ關スル件

選定、指定又ハ民九八四條ノ家督相續人ハ單純又ハ限定承認ヲ爲スニ先チ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ後ニ至リ民一〇一七條ノ期間内ニ單純承認又ハ限定承認ヲ爲スコトヲ得ヘク相續ノ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス(大正二年二月二六日民事第八九號民事局長回答)

●嫡母ノ件

庶子甲チ有スル乙カ入夫婚姻ニ因リ他家ニ入りタルトキ乙ノ妻ハ乙ノ實家ニアル甲ノ嫡母ニアラス(大正二年二月二六日民事第八九號民事局長回答ノ内)

●女戸主ト入夫ノ庶子トノ關係ノ件

女戸主ノ入夫(戸主トナラス)ノ庶子ニ付テハ戸籍面ノ戸主トシテ柄ハ單ニ庶子ト記載スヘキモノトス(大正二年二月二六日民事第八九號民事局長回答ノ内)

●恩赦ヲ受ケタル者ニ係ル別箇ノ刑執行方ノ件

刑ノ執行中ノ者大正元年一〇月一二日附ニテ特赦セラレ該特赦狀ハ同月一六日本人ニ於テ下附ヲ受ケタリ然ルニ餘罪發覺ノ爲メ同年一〇月四日懲役三月ニ處セラレ居ル爲メ前發刑ニ引續キ執行スヘキトキハ右刑期ハ特赦狀下附ノ日ヨリ起算スヘキモノトス(大正元年一〇月三〇日刑事第九三號刑事局長回答)

司法省訓令回答要旨

●大正二年法律第六號附則第二項ノ解釋並支部ノ事件ノ引續ニ關スル件

本法施行以前地方裁判所支部トシテ受理シタル民事刑事非訟事件ハ同法律ニ依リ區裁判所ニ屬スヘキモノト雖モ同法律附則第二項本文ニ依リ依然地方裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニシテ從テ大正二年司法省令第七號ニ依リ豫審事務ノミヲ取扱フヘキ地方裁判所支部ニ於テ右省令施行以前支部トシテ受理シタル事件ハ總テ之ヲ本廳ニ引續クヘキモノニシテ之ヲ支部設置ノ區裁判所ニ於テ處理スヘキモノニ非ス而シテ右法律附則第二項但書ハ同法律施行以前地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ事件ヲ限ツテ區裁判所ニ於テ受理シタル場合ニ該事件カ同法律ニ依リ其區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノナルトキハ當然新法ノ規定ヲ適用シ其區裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト爲ス趣旨ナルニ支部ニ於テ受理シタル事件ニシテ新法ニ依リ區裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノノ處理ニ關シ質疑スル向モアルヲ以テ爲念通牒ス(大正二年四月一七日民事第四八六號司法次官通牒)

●大正二年法律第六號附則第二項ノ解釋ニ關スル件

現ニ或裁判所ニ繫屬セル事件ハ其審級ヲ限リ舊法ヲ適用スヘシトノ趣旨ナルカ故ニ一旦繫屬ヲ脫離セシ以上ハ新法ニ依リ其上訴訟裁判所カ定マルヘシ即チ現ニ控訴院ニ繫屬セル上告事件ハ大審院ニ

檢送スルヲ要セス又地方裁判所カ本法施行以前ニ受理シタル控訴事件ト雖モ其判決ニ對シ施行後上告ヲ爲ス場合ニハ大審院之ヲ管轄スヘシ(大正二年四月一七日民事第四八七號司法次官回答)

●未成年ノ夫ノ財産管理ニ關スル件

未成年ノ夫カ未成年ノ妻ノ爲メニ民八〇二條本文ニ掲クル行爲ノ公正證書作成ヲ囑託セントスル場合ニハ民八八五條ニ依リ未成年ノ夫ノ親權ヲ行フ父又ハ母カ其夫タル未成年ノ子ニ代ハリ囑託スヘキモノトス(大正二年四月一〇日民事第四二五號民事局長回答)

●十五年未滿ノ者ノ養子縁組届書ノ記載方ニ關スル件

養子カ十五年未滿ノ者ナル場合ニ於テ之ニ代ハリ縁組ノ承諾ヲ爲ス父母ニ付テハ戶籍法第四五條第二項ニ依リ記載ヲ爲サシムルノ要ナキモノトス(大正二年四月八日民事第一一五號民事局長回答)

●實家ニ復籍後生レタル子ノ入籍ニ關スル件

父母共ニ養子ニシテ子ノ出生前ニ離婚縁組ニ因リ相前後シテ養家ヲ去リタルトキハ出生子ハ父ノ家ニ入ルヘキモノトス(大正二年四月八日民事第三五五號民事局長回答)

●本籍地ノ記載方ニ關スル件

轉籍分家ノ外廢絶家再興、一家創立ノ場合ニ於テモ別ニ本籍地ヲ定メ之ヲ届書ニ記載セシムルコトヲ要ス若シ其記載ナキ届書ヲ受理シタルトキハ分家一家創立ノ場合ニハ届出地ヲ以テ本籍地トシ廢絶家再興ノ場合ニハ廢絶シタル家ノ本籍地ヲ以テ再興者ノ本籍地トスヘシ然レトモ家督相續ノ場合ニ於テハ前戶主ノ戶籍ニ基キ新戶籍ヲ編製シ得ルカ故ニ假令本籍地ノ記載ナキモ届書ヲ受理シ

●改正裁判所構成法施行前ニ爲シタル判決ノ執行方ニ關スル件

已済事件ノ執行處分(罰金徴收處分等)ノ未完結ノモノニシテ裁判所構成法改正ノ結果區裁判所ノ所管タルヘキ罪質ノモノト雖モ之カ執行處分ハ依然判決裁判所檢事ノ主管ニ屬ス

支都ニ於テ豫審事務ノミヲ取扱フコトナリタル場合ニ於テ從前支都トシテ判決ヲ爲シタル已済事件ノ執行未了ノモノノ處分ハ地方裁判所檢事ノ處分ニ移屬ス但シ緊急ノ事件ニ付檢事正ヨリ裁判所構成法第八三條ニ依リ支都檢事ニ處分ヲ命スルモ差支ナシ(大正二年四月一九日刑事甲第七一號刑事局長回答)

●刑事略式手續法ニ關スル件

懲役ト罰金又ハ拘留ト科料ノ選擇刑ヲ科スル犯罪ニ付テモ裁判所構成法上區裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ナル以上ハ檢事ニ於テ罰金又ハ科料ヲ相當ト思料スルトキハ略式命令ノ請求ヲ爲シ得ヘシ(大正二年四月一九日刑事甲第六八號刑事局長回答)

●改正裁判所構成法第一五條ノ解釋ニ關スル件

改正構成法第一五條第二項ニ非訟事件中登記事務ハ裁判所書記ナシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得タルモ右ハ地方裁判所長之ヲ命スヘキモノニシテ區裁判所判事ノ見込ヲ以テ取扱ハシムルコトヲ得ス(大正二年五月一日民事第六〇〇號司法次官回答)

●出生、死亡、家督相續ノ届出方ニ關スル件

私生子其他ノ出生届ノ如キハ戶籍法第四六條ノ適用ナク未成年者

テ差支ナキモノトス(大正二年四月一四日民事第三五四號民事局長回答)

●續柄ノ訂正ニ關スル件

申請ニ依リテ戶籍ニ庶子トアル長女ト變更セル場合ニ於テ妹數人アルトキハ其額書ハ申請ヲ待タズ戶籍吏ニ於テ順次訂正ヲ爲シ差支ナク此場合ニハ其事由ヲ戶籍ノ欄外ニ記載スヘキモノトス(大正二年四月一〇日民事第一六七號民事局長回答)

●登記公告ノ新聞紙ニ關スル件

大正二年法律第八號ニ依リ廢止セラルヘキ區裁判所ノ管轄内ノ商業其他ノ登記公告ハ同法施行後其裁判所ノ管轄區域ヲ管轄スル區裁判所ノ選任シタル新聞紙ニ之ヲ爲スヘキモノトス(大正二年四月一五日民事第四八一號民事局長回答)

●國稅徵收法第二三條ノ三第二項ノ變更登記ノ囑託ニ關スル件

國稅徵收法第二三條ノ三第二項ニ依リハ差押ノ爲メニ不動産ヲ分割又ハ區分シタルトキハ收稅官吏ハ分割又ハ區分ノ登記ヲ所轄登記所ニ囑託スヘシトアリ此規定ハ既登記ノ土地ニシテ其後或原因ニ依リ分割シ稅務署ヨリ所轄登記所ヘ其通知ヲ爲シアルモ土地所有者ヨリ未ダ變更登記ノ申請ヲ爲ササル土地ニ對シ國稅納納ノ爲メ差押ノ必要ヲ生シタル場合ニ於テモ仍右ノ條項ニ依リ收稅官吏ハ分割登記ヲ囑託スルコトヲ得(大正二年四月二日民事第一八一號民事局長回答)

自ラ届出ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テ親權者又ハ後見人ヨリモ届出アリタルトキハ却下スルニ及ハス之ヲ受理シテ差支ナキモノトス(大正二年五月六日民事第二五四號司法次官回答)

●行政區畫變更ノ場合ニ於ケル戶籍簿ノ取扱方ニ關スル件

戶籍ニ記載セラレタル行政區畫土地ノ名稱等カ戶籍法第一九三條ニ依リ當然變更セラレタルモノト看做サル場合ニ於テハ當該戶籍簿表紙ニ其變更アリタル旨若シ其年月日ヲ記載シ置クモノトス(大正二年五月七日民事第五五七號司法次官回答)

●不動産登記法第一〇五條ノ解釋ニ關スル件

國有土地森林原野下戻法第六條ニ基キ行政裁判所ニ提起セシ訴訟事件ニ付裁判所ハ前處分ヲ取消シ更ニ一定土地下戻ヲ爲スヘキ旨ノ判決ハ不動産登記法第一〇五條第二號ノ所謂判決ニ該當セス(大正二年五月二日民事第五九七號司法次官通牒)

●執達吏手数料規則中疑義ノ件

(イ) 假差押ニ係ル物ト假差押ニ係ラサル物ト併セテ差押ヲ爲シタル場合ニハ執務時間ノ長短又ハ差押物見積價格ノ多寡ヲ問ハス假差押ニ係ル物アルモ之ヲ眼中ニ置カス全部假差押ニ係ラサルモノトシテ取扱ヒ規則第三條第一項及ヒ同第三項ニ依リ其手数料ヲ受クヘキモノトス
(ロ) 甲乙丙丁戊己庚辛八名ノ連帶債務者ニ對シ何レモ財産差押ヲ爲シタリ然ルニ債權者ヨリ左ノ申出ヲ爲シタリ
甲ニ對シテハ某月一日競賣臨場前執行委任解除

乙ニ對シテハ某月二日競賣場前競賣實施ノ猶豫

丙ニ對シテハ某月三日午前全上

丁ニ對シテハ某月三日午後全上

戊己ニ對シテハ某月四日同時ニ全上

庚辛ニ對シテ某月五日競賣實施ノ爲メ其住所ニ臨場シタル所債權者ヨリ同時ニ庚辛ニ對シテ競賣實施猶豫ノ申出ヲ爲シタリ

某月六日ニ至リ乙丙丁戊己庚辛ニ對シテ委任解除ノ申出ヲ爲シタリ

右ノ場合ニ於ケル手数料左ノ如シ

一 甲ニ對スル委任解除及乙丙丁戊己ニ對スル競賣猶豫ニ付テハ何レモ一部ノ委任解除又ハ競賣猶豫ナルヲ以テ手数料ヲ徵收スヘキモノニ非ス

二 庚辛ニ對スル競賣猶豫ヲ爲スニ至リ全部ノ競賣猶豫アリタルモノナルニ付之ニ對シテ執達吏手数料規則第一一條但書ノ手数料一個ヲ受ケテ丙丁戊己庚辛ノ全部ニ對スル委任解除ニ付更ニ同規則第一〇條但書ノ手数料一個ヲ受クヘキモノトス(大正二年五月二四日民事第五二三號司法次官回答)

●有體動産競賣代金剩餘金ノ處理方ニ關スル件

執達吏カ有體動産ノ強制執行ヲ爲シ競賣代金債權額及執行費用ヲ支拂ヒ其剩餘金ヲ債務者ニ還付スヘキ場合ニ債務者ノ所在不明ナルトキハ右剩餘金ハ民法四九四條ニ依リ金庫ニ供託スヘク右供託金ニ對シテハ保管金規則第一條ヲ適用セラルルモノトス(大正二年五月二六日民事第六九八號司法次官回答)

●相姦者ノ婚姻ニ付キ刑法第二七條ノ適用ニ關スル件

件

姦通罪ニ付刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキ雖民七六八條ノ適用アルモノトス(大正二年六月二日民事第七一六號司法次官回答)

●登録税ノ徵否ニ關スル件

不動産登記法第二八條ノ二、第一〇二條ノ第三第二項、第一〇三條第二項ニ依リ官公署カ登記名義人又ハ相續人ニ代リテ囑託スル登記ニ付テハ登録税ヲ徵收セサルモノトス(大正二年六月二日民事第八〇二號司法次官通牒)

●繼親子ノ親族關係ニ關スル件

亡兄ノ遺妻ト戸内婚姻ヲ爲シタル弟ト亡兄ノ子トハ繼父ノ關係ヲ生ス(大正二年七月三日民事第一〇三號法務局長回答)

●民法施行前ニ相續人ヲ定メタル場合ノ效力ニ關スル件

被相續人カ民法施行前ニ其弟ヲ嗣子ト定メタル場合ニ於テハ爾後實子アルニ至ルモ之カ爲メ嗣子ノ定メハ其效力ヲ失ハス(大正二年七月一日民事第一〇一號法務局長回答)

●未成年者自ラ爲ス届出事件ニ關スル件

法定ノ推定家督相續人ノ相續届、身分登記變更ノ申請中法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ル行爲ニ關スルモノ及氏名變更届等ニ付テハ未成年者自ラ届出ヲ爲スコトヲ得然レトモ此ノ如キハ便宜上未成年者ノ届出ヲ認メタルニ過キスシテ法定代理人ニ届出義務ヲシト決定シタルモノニ非サルヲ以テ此種旨ニ基キ罰則ヲ適用スヘキモノトス(大正二年六月二〇日民事第六〇號法務局長回答)

●離縁離婚届ヲ復籍地戸籍吏ニ届出タル場合ニ關スル件

離婚届ヲ復籍地戸籍吏ニ届出タル場合ハ本籍人身分登記簿ノミニ登記ヲ爲スヘシ(大正二年六月二五日民事第八七號法務局長回答)

●隱居ニ因ル相續登記ニ關スル件

司法省訓令回答要旨

四

一 民法施行前ノ退隱者カ退隱當時自己名義ノ不動産ニ對シ何等ノ手續ヲ爲ササルトキハ其者カ今尙生存セルト否トニ係ハラス若クハ其死亡カ民法施行ノ前ナルト後ナルトヲ問ハス現今其相續人ハ遺産相續登記又ハ家督相續登記ヲ爲スヘキモノトス

二 民法施行前ニ於テモ戸主ハ隱居ヲ爲スニ當リ其財産ノ一部ヲ留保スルコトヲ得ルハ勿論ニシテ其留保ノ意思表示ニハ特別ノ形式ヲ要セス故ニ其意思表示ハ明示タルコトヲ要セサルモ留保力如何ナル場合ニ於テ暗黙ニ表示セラレタルヤハ一概ニ決スルコトヲ得ス各場合ニ於ケル事實ヲ綜合シテ之ヲ認定スヘキ問題ナリ而シテ隱居者カ隱居後其財産ヲ自己ノ所有物トシテ使用、處分シタルノ事實ハ概シテ留保ノ意思表示ト認ムルコトヲ得ヘシト雖モ此ノ如キハ素ヨリ裁判ニ依リテ決スヘキモノニシテ登記官吏ニ於テ調査認定スヘキニ非ス

三 民法施行後ニ於ケル留保ハ民法第九八八條ノ手續ニ依ラサレハ無効タルハ勿論ナリ

四 或ル財産ニ付キ家督相續人ヨリ相續人トシテノ登記ノ申請アル場合タルト隱居者ヨリ其財産ニ付キ留保若クハ處分ニ關スル登記ノ申請アル場合タルトヲ問ハス登記官吏ハ其申請カ形式上登記法ノ規定ニ反セサル以上ハ之ヲ受理スヘキモノトス

五 隱居者カ家督相續登記申請前目的タル不動産ニ付キ所有權ノ移轉登記又ハ保有登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ其登記ト相續人ノ相續登記トハ兩立スルコトヲ得サルヲ以テ隱居者ノ權利ト相續人ノ權利ノ實質上優劣ハ之ヲ裁判上ノ判定ニ委シ隱居者ノ登記ハ形ニ於テ相容ルヘカラサル相續登記ノ申請ハ許スヘカラサルモノト

五

シ不動産登記法第四九條第二號ニ依リ一先ツ却下スヘキモノトス
反之隱居者カ他物權設定ノ登記ヲ爲シタル後相續人ニ於テ相續登
記ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ其物權登記ノ效力如何換言スレ
ハ之ヲ以テ相續人ニ對抗スルコトヲ得ヘキヤ否ハ登記官吏ニ於テ
判定スルヲ要セス其登記アルカ爲相續ニ因ル所有權取得ノ登記申
請ヲ却下スルコトヲ得ス

六 相續ノ原因トスル登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産登記
法第四一條ニ依リ戸籍吏ノ書面等ニ依リ相續ノ家督ナルヤ將タ遺
産相續ナルヤハ添付書面ニ就キ其相續關係ヲ調査セサルヘカラス
(大正二年六月三〇日民第一三二號法務局長回答)

●不動産登記法第一〇二條ノ三ノ適用ニ關スル件
不動産登記法第一〇二條ノ三ハ同法施行細則第四四條ノ三ニ依リ
河川法ノ規定ニ依リタル場合ニ限り適用スヘキモノトス(大正二
年六月二五日民第七三號法務局長通牒)

●産業組合法第四〇條第二項ノ解釋ニ關スル件

産業組合法第四〇條第二項ノ報告ハ知レタル債權者ナルト否トナ
問ハス總テノ債權者ニ對シ之ヲ爲スコトヲ要ス隨テ若シ知レタル
債權者ノミニ報告ヲ爲シ出資ノ減少ヲ決定シタル後他ニ債權者ノ
顯ハルルトキハ其減少ハ無効ニ歸スルノ虞アルヲ以テ清算ノ規定
(産七五條民七九條)ニ準シ公告ヲ以テ報告ヲ爲シ尙ホ知レタル債
權者ニハ各別ニ報告ヲ爲スヲ相當トス(大正二年七月四日民第一
三一號法務局長回答)

●會社ノ破産宣告ニ因ル協議契約ノ確定ノ效力ニ關

スル件
協議契約ハ破産宣告ノ效力ヲ消滅セシムルモノナルカ故ニ協議契
約確定シタルトキハ破産宣告前ノ狀態ニ於テ會社ヲ繼續スヘキモ
トス(大正二年六月三〇日民第一三〇號法務局長回答)

●訴訟書類ノ郵便送達證書ニ關スル件

訴訟書類郵便送達ノ場合ニ於テ送達ヲ受クル者ニ交付スヘキ送達
證書ハ之ヲ廢止セラレタリ(大正二年七月五日法務局長通牒)

●供託受領證ノ保管方ニ關スル件

民事事件ニ付當事者ヨリ裁判所ニ提出シタル供託受領證ハ裁判所
ニ於テ保管スルヲ相當トス(大正二年六月二七日民第七八五法務
局長通牒)

●供託金ニ對スル債權轉付命令競合ノ場合ノ效力ニ
關スル件

甲ヨリ乙ニ對シテ強制執行ニ對シ乙カ民事訴訟法第五〇五條第二
項第五四七條第二項又ハ第七四三條ニ據リ爲シタル供託金ニ對シ
丙カ差押及轉付命令ヲ得タル後史ニ甲又ハ丁カ差押タルトキハ丙
ハ轉付命令ニ依リ供託ノ原因消滅シタルトキハ供託金ノ拂戻ヲ受
クヘキ乙ノ權利ヲ轉得シタルニ過キサルモノナルヲ以テ甲カ供託
ノ原因タル事實ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムル債權名義ニ基
キ右供託金ヲ差押ヘタルモノナルトキハ丙ノ差押命令及轉付命令
ハ甲ニ對シ何等ノ效力ヲ生セサルモノトス反之若シ甲ノ差押力前
陳ノ原因ヨリ生シタル債權ニ基クモノニ非サルトキハ丙ハ轉付命
令ヲ得タル後ノ差押ニ係ルヲ以テ該差押物ハ何等ノ效力ヲ生セザ

ルモノニシテ又丙カ轉付命令ヲ得タル後爲シタル丁ノ差押ハ何等
ノ效力ヲ生セサルコト勿論トス(大正二年七月一〇日民第二〇四
號法務局長回答)

●民事訴訟法及執達吏手数料規則ニ關スル疑義ノ件

民事訴訟法第五七八條ニ所謂債權者トハ執行力アル正本ニ因リ配
當ヲ要求スル債權者及其他ノ配當加入債權者ヲモ包含ス(大正二
年七月一六日民第二七七號法務局長回答)

●改正裁判所及檢事局事務章程ノ疑義ニ關スル件

一 司法大臣ニ爲スヘキ區裁判所檢事局ニ關スル稟報報告ハ別段
ノ例規アルモノヲ除キ他ハ總テ區裁判所檢事局ノ長ノ名ヲ以テ爲
スヘキモノトス
二 區裁判所檢事局ニ於テ處分シタル犯罪事件ノ報告及恩赦出獄
者ノ犯罪報告ハ所轄地方裁判所檢事正ニ於テ爲スヘキモノトス
三 同章程第二六條第三號ノ場合ニ於ケル大臣又ハ檢事長ニ爲ス
ヘキ區裁判所檢事ノ出張認可ハ其檢事局ノ長ノ名ヲ以テ爲スヘキ
モノトス(大正二年七月二三日刑甲第四六號法務局長回答)

●不動産登記法中改正法律施行後ニ於ケル登記取扱
方ニ關スル件

一 改正法施行後未登記不動産ノ保存登記ヲ爲スニハ改正法施行
前調製シタル使用登記簿ニ登記スヘキモノトス
二 従前ノ規定ニ依ル登記用紙中表題部又ハ或區カ登記ヲ爲スヘ
キ餘白ナキニ至リタルトキハ改正法施行前ニ調製シタル未使用登
記簿ニ繼續用紙ヲ設クヘキモノトス

●改正不動産登記法施行細則ノ疑義ニ關スル件

一 施行細則第三二條ノ二第一項ノ規定ハ謄本請求者ニ於テ登記
簿共同擔保目録ト同一様式ノ用紙ニ不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ
爲シ之ヲ提出シタルトキハ登記官吏ハ之ニ登記事項ヲ謄寫シ且認
證文ヲ付シテ謄本ト爲シ申請人ニ交付スルコトヲ得ヘキ趣旨ナル
カ故ニ申請人カ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ用ユル場合ニ其用紙ニ
不動産ノ表示ヲ謄寫シテ之ヲ目録ト爲シ共同擔保目録ト同一様式
ノ用紙ヲ用ユル場合ハ其用紙ニ各不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ謄
寫シテ之ヲ目録ト爲スヘキモノトス

●改正施行細則五七條ノ三ニ云云順位番號ヲ記載シタルハ登
記後共同擔保目録ニ登記簿ノ冊數登記番號等ヲ各表示ノ上部ニ當
ル欄外ニ之ヲ記載スヘキモノトス(大正二年五月三〇日民事第七
一四號司法官回答)

●不動産登記法中改正法律施行上ノ疑義ニ關スル件

一 法第六三條ノ二ニ依リ爲シタル更正登記ハ登記統計年表ニ掲
記スヘキモノトス

二 施行細則第六一條ノ二ハ第六一條ノ誤植ナリ(大正二年六月五日民事第七四〇號司法官回答)

●共同擔保目録ヲ添付シタル場合ニ於ケル申請書ニ掲クヘキ不動産ノ表示ニ關スル件

申請書ニ共同擔保目録ヲ添付シタル場合ニ於テ申請書ニ掲クヘキ不動産ノ表示ハ單ニ「別紙擔保目録記載ノ通」ト記載セシムル趣旨ナリ(大正二年八月二日民事第三六一號法務局長回答)

●不動産登記事務取扱方ニ關スル件

- 一 神官カ神社ヲ代表シテ登記ヲ申請スル場合ニ其資格證明書ヲ要ス
- 二 甲カ自己ノ土地ヲ以テ自己及乙連帶ノ各債務ニ對シ抵當權ヲ設定シタル場合ニ乙ヲ登記簿ニ表示スヘキモノトス
- 三 差押又ハ豫告登記ノ記入アル土地ニ付キ分合若クハ地目變更ノ登記ヲ申請スルニハ差押ノ記入アル土地ニ付テハ不動産登記法第八一條ノ規定ニ依リ其登記名義人ノ承認ヲ要スルモ豫告登記ノ記入アル土地ニ付テハ此限ニ在ラス
- 四 公賣處分ニ因ル所有權移轉登記ヲ爲シタルニヨリ職權ヲ以テ其權利ノ目的トセル抵當權ノ登記ヲ抹消シタルニ其後公賣處分ノ違法ナル原因トシ右移轉登記抹消ノ登記囑託アリタル場合先キ職權ヲ以テ抹消シタル抵當權登記ノ回復ヲ爲スニハ申請ニ依ルヘキモノトス
- 五 或ル株式會社カ電氣事業ノ爲メ多數ノ土地ヲ買収シ其移轉登記ノ申請書ヲ二十件或ハ三十件ツツ日提出セントスル場合ニ於

テハ其代表者タルコトノ資格ヲ證スル商業登記簿ノ謄本又ハ抄本ハ同日提出ノ分ニ限リ最初ノ一件ニノミ之ヲ附シ他ノ申請書ニ其寫ヲ添付セシムルモ差支ナシ(大正元年一月二〇日民事第八三一號民事局長回答及大正二年六月一四日民事第八〇五號司法官回答)

●不動産登記法中改正事項ニ關スル取扱方ニ關スル件

- 一 不動産登記法第二一條ノ二ニ依リ提出スヘキ不動産ノ目録ニ關シ
 - (イ) 登記簿ノ謄本ナルトキハ請求者ニ於テ表題部ノ記載ヲ爲スヘキハ勿論若シ分合等ニヨリ變更ヲ生シタル場合ハ登記簿ニ基キ其登記ヲモ遺漏ナク記載提出スヘシ但不動産登記法施行細則第三五條ノ二但書ノ場合ニ於テハ抹消ニ係ラサル登記ノミ謄寫スルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ
 - (ロ) 右ノ外登記事項ハ請求者ニ於テ謄寫スヘキモノニアラスシテ甲乙區ノ空白アル用紙ヲ提出シ登記官吏ハ登記簿ニヨリテ之ニ記入スヘキモノトス
 - (ハ) 省令第二五號ハ共同擔保目録ニ提出シタル場合ノミニ限リ共同擔保目録ヲ要セサル前項ノ場合ハ請求者目録ヲ提出シタルトキト雖モ從前ノ通り手数料用紙一枚ニ付金十錢ヲ納ムヘキモノトス
 - (ニ) 同令「豫備欄ニ登記シタル事項ヲ謄寫セル用紙」トハ共同擔保目録ノ豫備欄ニ登記アルニ拘ハラズ請求者ニ於テ謄寫セサル爲メ登記官吏其記入ヲ爲シタル場合ト解スヘシ
- 二 同法第二八條ノ二第一〇二條ノ三第二項第一〇三條第二項ノ

場合ニ於テハ登記稅法第一九條第一號ニ該當セサルモ登録稅ヲ徵收セサルヲ相當トス

三 同法附則第三條ニヨリ例ヘハ施行前ノ登記簿第十冊使用中繼續用紙ヲ設クル必要ヲ生シタルトキハ之ニ繼續用紙ヲ設クヘキモノトス

四 不動産登記法施行細則第五七條ノ六ニ依ル繼續用紙ハ共同擔保ト同一様式ノ用紙ヲ用ユヘキモノトス

五 不動産登記法施行細則第七一條第二項ノ規定ハ登記簿ノ分設區別タル町村大字其他從前ノ區別又ハ其名稱ノ變更アリタル場合ニ適用スヘキモノトス

六 勅令第九二號第八條ノ二ニヨル登記ハ耕地整地法第一〇條ノ規定ニヨリ登記稅ヲ免除スヘキモノトス(大正二年六月二〇日民事第五九號及同年八月七日民事第一四三號法務局長回答)

●登記管轄區域並ニ廳名變更ニ付諸帳簿ノ取扱方ニ關スル件

裁判所並ニ登記簿管轄區域變更ノ爲メ登記簿其他ノ諸帳簿表紙ニ記載セル廳名ハ其記載ヲ改ムル外表紙ノ裏面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス(大正二年六月二七日民事第六七號法務局長回答)

●土地變更登記ヲ官公署ヨリ囑託スル場合ノ取扱方ニ關スル件

土地臺帳ニ登錄セル郡市町村有ノ土地ノ表示ノ變更登記ヲ其公署ヨリ又ハ官廳公署カ登記名義人若クハ相續人ニ代ハリ土地ノ表示ノ變更登記ヲ登記所ニ囑託スル場合ニ於テハ不動産登記法第八〇

條ノ規定ニ依リ囑託書ニ土地臺帳謄本ノ添付ヲ要ス(大正二年七月二日民事第一七九號法務局長回答)

●土地臺帳謄本ニ關スル件

本年六月一日後發生シタル土地ノ表示變更ノ事由及年月日ハ土地臺帳ニ記載スヘキハ大藏省ヨリ通知アリタリ(大正二年八月二日民事第四七四號法務局長通牒)

●婚姻届ト同時ニ爲シタル嫡出子出生届出ニ關スル件

婚姻届ト同時ニ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ婚姻届出ノ時ニ認知セラレタルモノトシテ取扱フヘク而シテ出生子ハ民法第三六條第二項ニ依リ認知ノ時即チ婚姻届出ノ時ヨリ嫡出子ノ身分ヲ取得シ出生ノ時ニ遡ルモノニ非ス(大正二年七月二九日民事第一六〇號法務局長回答)

●未成年者ノ分家届出ノ同意ニ關スル件

戶籍法第一五四條ノ規定ニ依リ分家ヲ爲サント欲スル者カ未成年ナル場合ニ於テハ同法第四六條ニ依リ法定代理人カ届出ヲ爲スヘキモノナルモ果シテ本人ノ本意ニ因ルモノナルヤ否ヤハ單ニ届書ノ上ニ於テ認ムルコトヲ得サルカ故ニ届書ノ末尾ニ本人ノ求メニヨリ同意スル旨記載スルヲ相當トス(大正二年七月二九日民事第一六〇號法務局長回答)

●相續開始前ニ於ケル胎兒ノ相續順位並ニ繼親子關係ニ關スル件

一 戸主甲ノ妻乙懷胎中男子丙ヲ養子ト爲シタル後男子丁出生其

後數年ヲ經テ甲死亡シタルトキハ丙ヲ以テ相續人トス蓋シ民法第九六八條ノ規定ハ胎兒ハ出生前ト雖モ既ニ生シタルモノト看做シ其利益ノ爲メ家督相續ノ開始スヘキコトヲ定メタルモノニシテ家督相續ノ順位ニ付キ長幼ノ順序ヲ定ムル標準ヲ規定シタルモノニ非サルヲ以テナリ

二 繼親子ノ關係ハ家ヲ同フスル場合ニ於テハ後夫又ハ後妻カ前夫又ハ前妻ノ地位ヲ承繼シテ婚姻ヲ爲スコトヲ必要トセス從テ左ノ場合ニハ繼親子ノ關係ヲ生ス

- 月主 甲 田 甲 郎
- 二男 乙 郎
- 四十年乙野花入夫離婚復籍
- 二男 乙郎二男
- 孫 丙 郎
- 四十二年乙野花二男入籍
- 二男 乙郎妻

(大正二年八月二二日民第四五二號法務局長回答)

登記事務取扱ニ關スル件

一 裁判所構成法第一五條第二項ハ裁判所構成法施行條例第一一條第二項ト趣旨ニ於テ異ナル處ナク唯其適用ノ範圍ヲ區裁判所ノ本廳ニマテ及ホシタルニ過キス故ニ從來既ニ登記官吏トシテ登記事務ヲ取扱ヒツツアル出張所ノ書記ニ對シテハ此際登記事務ノ取扱ヲ命スルノ必要ナキモ將來裁判所書記ニシテ登記事務ヲ取扱ハシムル場合ニハ區裁判所ノ本廳タルト出張所タルトト間ハス裁判所構成法第一五條第二項ニ依リ登記事務ノ取扱ヲ命スヘキモノト

二 裁判所書記ノ登記事務ニ關スル署名ニ付テハ裁判所構成法施行條例第一一條第二項ニ依リ區裁判所出張所ニ於テ登記事務ヲ取扱フ場合ト裁判所構成法第一五條第二項ニ依リ區裁判所ニ於テ登記事務ヲ取扱フ場合トハ判事代理ノ肩書ヲ要セス

三 共同擔保目録若クハ共同人名簿ハ元來登記簿ノ一部ナルニ因リ之ヲ謄寫シタルモノニ付テハ登記簿ノ謄寫ノ後ニ連續シ其末尾ニ登記簿ニ依リ之ヲ作りタル旨ノ一箇ノ認證文ヲ附スヘキモノトス

四 共同人名簿又ハ共同擔保目録ノミノ全部又ハ一部ノ謄寫ハ之ヲ許サス登記簿ノ謄本又ハ抄本ハ登記簿自體ニ付キ之ヲ云フモノナルニ付キ申請人カ特ニ細則第三五條ノ三ノ記載ヲ爲ササル限りハ共同人名簿又ハ共同擔保目録ハ當然謄本又ハ抄本ニ連續セラルヘキモノトス

五 不動産共同擔保目録ノ權利ノ表示欄又ハ船舶共同擔保目録ノ船舶ノ表示欄記載方ハ左ノ通りトス

(イ) 土地ノ所有權ヲ擔保スルモノニ付テハ郡村大字地番地目反別坪數

(ロ) 土地ノ所有權以外ノ權利ヲ擔保スルモノニ付テハ(イ)ノ外區名順位番號及ヒ權利ノ種類

(ハ) 建物ノ所有權ヲ擔保スルモノニ付テハ郡村大字地番及ヒ建物ナルコト建物ノ種類構造建坪尙附屬建物

(ニ) 船舶ニ付テハ船舶登記規則第八條第一號及第二號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

六 不動産登記法施行細則第四四條ノ六ハ法人又ハ外國會社以外

ノ登記ニモ關スル規定ナリ(大正二年八月一五日日民第一九二號法務局長回答)

耕地整理登記令第八條ノ二、三ノ適用ニ關スル件

耕地整理登記令第八條ノ二及ヒ第八條ノ三ノ規定ハ舊耕地整理法ニ依リ耕地整理ヲ施行シタル土地ノ登記ニ關シテモ之ヲ適用スルコトヲ得(大正二年九月一八日法務局長通牒)

不動産登記簿中一部沒收ノ判決アリタル場合ノ執行處分方ニ關スル件

不動産登記簿中一部沒收ノ判決確定ノ場合ニ於ケル執行ハ檢事ヨリ其沒收スヘキ登記簿ヲ保管スル登記官吏ニ其旨ヲ通知スルニ止メ當該官吏ナシテ相當處理方取扱ハシムルヲ妥當ナリトス(大正二年九月三日刑甲第八七號法務局長回答)

皇族ノ不動産登記取扱方ニ關スル件

皇族カ不動産登記法ニヨリ登記權利者トシテ不動産ノ登記ヲ囑託又ハ申請スル場合ニ於ケル登記取扱方左ノ如シ
一、登記ノ手續人皇室財產令第二一條ニ掲ケタル皇族ニ付テハ明治四五年三月一一日當省民事第四七七號通牒御料地ニ關スル登記囑託書式ニ準シ宮内大臣又ハ大臣代理帝室林野局長官ヨリ登記ヲ囑託スヘシ

二、其他ノ皇族ニ付テハ其皇族ニ附屬セシメラレタル宮内官(別當又ハ家令若シ別當及家令ナキトキハ其事務ヲ取扱フ家務監督又ハ御用掛)ノ官職氏名ヲ以テ登記ヲ申請スヘシ
三、前項ノ登記ノ申請書ニ掲ケタル登記權利者ノ表示ハ何市何區何

町何番地某親王(又ハ某王、某親王妃某、某王妃某某內親王、某女王)ト記載スヘシ

四、皇族カ登記權利者タル場合ハ總テ登録費ヲ要セス

五、第一項及第二項ノ登記ノ囑託又ハ申請ニ付テハ不動産登記法第三五條第一項第五號ノ書面ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

六、現在ノ登記名義人ノ表示カ第一項及第三項ニ掲ケタル表示ト符合セサルモ特ニ變更登記ヲ要セス不動産拂下等ノ場合ニ於テ登記義務者ノ表示カ登記簿ト符合セサルトキ亦同シ(大正二年九月二七日法務局長第六八四號司法次官通牒)

商業登記取扱方ニ關スル件

株式會社ノ取締役任期滿了又ハ解任ヲ爲シタル場合ニ於ケル變更登記ハ商法第一六七條ノ二ヲ新ニ追加セラレタル結果取締役ハ任期滿了又ハ辭任等ニ依リ任務終了スト雖モ後任者ノ就職スルマテハ尙取締役トシテ其職務ヲ行フモノナルカ故ニ後任者就職ノ日ヨリ起算シテ二週間内ニ(前任者ノ退任及後任者ノ就職ニ因リ變更登記ヲ)爲セハ可ナリ但前任者ノ退任ノ登記ト後任者ノ就職ノ登記ト同一ノ申請書ヲ以テ申請スル場合ニ於テハ登録費ハ一件トシテ之ヲ徵收スヘキモノトス(大正二年一〇月一四日日民第八二三號法務局長回答)

不動産強制競賣事件ノ配當額ヲ供託シタル場合ニ關スル疑義ノ件

不動産強制競賣事件ニ付キ登記簿上抵當權利者ニ對シ配當期日呼

出狀ヲ郵便ニ依リ送達シタルニ同債權者ノ居所不明ノ爲メ其呼出
狀返戻アリタルニヨリ其旨配當期日調書ニ記載シ配當實施ノ上右
債權者ニ配當スヘキ金額ヲ民事訴訟法第六九七條同第六三九條等
四項ニ依リ金庫ニ供託セル場合ニ於テハ該供託金ニ對シ保管金規
則第一條ヲ適用シ政府ノ所得トスルコトヲ得ヘク滿五年ノ期間ハ
同條ニ依リ配當期日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(大正二年一
〇月一四日民第六五四號法務局長回答)

●犯罪捜査ニ關シ檢事ノ呼出シタル者ニ日常旅費等
支給方ニ關スル件

一、本年九月司法省令第三三號ニ依リ日當其他ノ支給方請求ノ期
限ハ刑法施行法第六五條ヲ準用シ起訴不起訴ノ決定前ニ呼出シタ
ル者ニ付テハ其決定前請求アリタル場合ニ限り又起訴不起訴ノ決
定後呼出シタル者ニ付テハ取調終了ノ即日(若シ請求シ得サル事
情存スルトキハ其翌日)請求アリタル場合ニ限り支給スヘキモノ
ニシテ會計法第一八條ニ依ルヘキモノニ非ス
二、同省令ニ依リ日當其他ノ支給方證人、鑑定人通事ニ準スヘキ
者ニ爲スヘキモノナルカ故ニ被告人ニ準スヘキ犯罪嫌疑者ニハ之
ヲ支給スヘキモノニ非ス(大正二年一〇月三日刑乙第一八二四號
法務局長回答)

●登記ノ更正ニ關スル件

不動産登記法第二八條ノ二第一〇二條ノ三第二項第一〇三條第二
項第三項及耕地整理登記令第八條ノ二ニ依ル不動産ノ表示及登記
名義人ノ表示ノ變更ニハ登記ノ更正ヲ包含ス(大正二年一〇月

●單身戸主死亡ノ場合ニ於ケル取扱方ニ關スル件

單身戸主死亡シ相続人曠缺ノ場合ニ死亡後一ヶ月以上ヲ經過シ相
續財産ナキトキハ直チニ戶籍法第一八三條ノ手續ヲ爲スヘキモノ
トス(大正二年一〇月三日民第一〇〇七號法務局長通牒)

●債權ノ假差押ト轉付命令ト競合シタル場合ノ效力
ニ關スル件

第三債務者ハ債務者ニ對シ金百圓ノ債務ヲ有セリ此中金拾圓ニ
對シ債權者甲ヨリノ債權假差押命令ノ送達アリ數日ヲ經テ右百圓
ノ全部ニ對シ債權者乙ヨリ債權差押命令及轉付命令ノ送達アリタ
ル場合ニ於テ轉付命令ハ實質上假差押ノ效力ニ制限セラルルニ過
キスシテ其形式的效力ヲ妨ケラレヘキニ非ス假差押債權者甲ハ差
押債權中三十圓ニ對シ配當要求ヲ爲シタルト同一ノ權利ヲ有スル
モノナルヲ以テ(民事訴訟法第六三〇條三項參看)此部分ニ對ス
ル轉付命令ハ差押債權者乙ノ債權力優先アル場合ノ外實質上轉
付ノ效果發生セサルモノナルモ其餘ノ部分ニ付テハ轉付命令ハ完
全ニ效力ヲ生スルモノトス又爾後假差押ノ取消アリタル場合ニ於
テハ轉付命令ノ實質的效力ノ制限ハ茲ニ除去セラレ命令ハ完全ニ
其效果ヲ發生スヘキモノトス(大正二年一月三日民第九七六號
法務局長回答)

●公示催告手續ノ管轄裁判所ニ關スル件

商業證券ノ無効宣言ノ爲メ公示催告手續ヲ爲ス場合ニ專屬管轄
裁判所ハ民事訴訟法第七九條ノ規定ニ依リ定ムヘキモノトス
(大正二年一〇月三日民第一〇〇一號法務局長通牒)

二九日民九七五號法務局長回答)

●印鑑證明ニ關スル件

市區町村長カ不動産登記法施行細則第二五條第一項ニ依リ印鑑ノ
證明ヲ爲ス場合ニ於テハ印鑑證明書ニ印鑑ヲ貼付シテ之ニ契印ヲ
爲スノ例ナルモ近來犯罪豫防ノ目的ヲ以テ印鑑紙ノ表面ニ直チニ
證明文ヲ記載スルノ様式ニ改ムル向モアリ其結果該印鑑ハ同細則
第二六條ヲ以テ定メタル附録第九號雛形ノ書式ニ違フノ嫌アルモ
規定ノ寸法ニ變更ナキ限り便宜之ヲ受理セラルヘシ(大正二年一
一月二三日法務局長第一〇四六號法務局長通牒)

●登記簿中不實ノ記載ニ係ル部分沒收ノ確定判決ニ
基ク登記ニ取扱方ニ關スル件

登記簿ノ記載ハ法律ニ別段ノ定アル場合ノ外加除修正ヲ爲シ若ク
ハ補遺ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ登記簿ノ記載ノ不實ヲ
ルコトヲ理由トシテ其記載部分ヲ沒收スヘキ旨ノ判決確定シ檢事
ヨリ沒收ノ旨ノ通知アルモ斯ノ如キ通知ニ依リテ登記簿ノ記載ヲ
爲スコトハ法律ノ認メサル所ナルヲ以テ登記官吏ハ該通知書ニ基
キ不動産登記法第六三條ノ手續ヲ爲ス外何等抹消其他ノ記載ヲ爲
スヲ得ス(大正二年一月八日民第一〇五二號法務局長回答)

●船舶登記ノ登録稅徵否ニ關スル件

府費ヲ以テ新造シタル水上警備用船舶ノ所有權保存登記申請ハ登
録稅法第一九條第一號及第二號ニ該當セサルニ付免稅スヘキモノ
ニ非ス(大正二年一月一三日民第一〇六二號法務局長回答)

●刑事略式手續ニ於ケル豫告及命令ニ對スル疑議ノ
件

刑事略式手續ニ於テ被告人カ豫メ司法警察官若クハ檢事ニ對シ異
議ノ申立及ヒ正式裁判請求ヲ拋棄スル旨申立テ置クモ豫告若クハ
命令ヲ發シタル後ニアラサレハ有效ニ拋棄シ得サルモノトス(大
正二年五月二三日刑甲第一〇八號法務局長回答)

●陸軍軍人服役令施行規則第二條ノ公訴ノ時効起算
方ノ件

明治四四年二月陸軍省令第一六號陸軍軍人服役令施行規則第二
條ノ前略一四日以上本籍地外ニ旅行云トアルハ旅行ヲ了リ本籍
地ニ歸着シタル日ヨリ公訴時効ノ期間ヲ計算スヘキモノトス(大
正二年一月一三日刑乙第二四〇八號法務局長回答)

●女婿ト爲ス爲メニスル縁組ニ關スル件

婚姻年齡ニ達セサル女子ニ配センカ爲メニスル縁組ハ普通ノ養子
縁組ニシテ婿養子縁組ニ非ス隨テ推定家督相續人タル男子在ル場
合ニ於テハ此縁組ヲ爲スヲ得サルモノトス(大正二年一月二日
日民第一〇一〇一號法務局長回答)

●續柄ノ訂正ニ關スル件

身分登記變更ニ因リ男子女子ニ改メタル結果他ノ者ノ續柄ニ變更ナ
來スヘキ場合ニ於テハ戶籍カ戶籍法實施後ニ編製セラレタルト否
トニ拘ハラズ同一戶籍内ノ者(抹消セラレタル者ヲ包含ス)及其家
ヨリ同一戶籍吏管轄内ノ他家ニ入りタル者ノ續柄ハ其戶籍吏限リ

訂正スヘシ次ニ他家ニ入りタル者カ他ノ戸籍吏ノ管轄ニ屬スルトキハ訂正シタル戸籍ノ謄本ヲ添へ續柄變更ノ旨ヲ他ノ戸籍吏ニ通知シ通知ヲ受ケタル戸籍吏ハ之ニ基キ續柄ヲ訂正スヘシ(大正二年一月二七日民第一〇五七號法務局長回答)

●外國文ヲ以テ記載シタル診斷書ノ取扱方ニ關スル件
外國在留者死亡シタルトキハ死亡ノ事實確認ニ關シテハ在外公館ニ於テ錯誤ナキコトヲ認メテ屆書ヲ受理シ送付アル管ナルヲ以テ戸籍吏ハ其儘之ヲ受理スヘシ(大正二年一月九日民第一一七同號法務局長回答)

●寄留ノ意義ニ關スル件
明治四年四月四日大政官布告寄留ニ關スル規定第一六則ニ依レハ返留九十日以上ハ總テ寄留トシテ取扱フヘキモノナルカ故ニ現ニ居住セサル場所ニ於テ寄留ノ届出ヲ爲スコトヲ得サルモノトス從テ寄留ノ場所ハ一個所ニ限リ之ヲ定ムヘク假住所(民法第二四條民事訴訟法第一四三條、刑事訴訟法第一八條)ノ如キハ寄留ニ關スル規定ニ依リ之ヲ届出ツヘキモノニアラス而シテ寄留ノ届出ハ住所又ハ居所ノ存スル他ノ市町村ニ之ヲ爲スナ得ヘキモ寄留取扱上其届出ノ場所カ住所ナリヤ居所ナリヤヲ區別スルノ必要ナシ(大正二年一月二〇日民第一一七七號法務局長回答)

●不動産登記申請書添附書類ノ原本還付ニ關スル件
不動産登記法施行細則第四四條ノ八ノ規定ニ依ル書類ノ原本中ニ

- 一、國稅徵收法第二三條ノ一ニ依リ中央金庫出納役ニ通知シタルモノノ謄本ヲ稅務署長ヨリ徵ス
- 二、保管物取扱規程第一〇條ノ例ニ依リ保管證書ニ拂戻ノ裏書ヲ爲シタル上之ヲ稅務署長ニ交付ス
- 三、右交付シタル保管證書ニ付稅務署長ヨリ受領證ヲ徵ス

○轉付命令ニ依リ轉付セラレタル保釋保證金交付方ノ件

林侃ハ其債務者小長井壽太郎カ中央金庫ニ寄託シタル保釋保證金百圓ノ拂戻ヲ受クヘキ債權ニ付支拂ニ換ヘ券面額ニテ之ヲ自己ニ轉付スルノ命令ヲ受ケ之ヲ債務者タル小長井壽太郎及第三債務者タル中央金庫ニ送達セラレシト共ニ該保釋保證金還付ノ場合ニハ(明治二七年大藏省令第二號第五條ニ因リ)右林侃ニ下付相成度旨ヲ申出テタリ然ルニ右保釋保證金ニ付事件主任官ヨリ納人へ還付スルノ通知アリタルヲ以テ右ノ手續ニ依リ保釋證書ヲ右林侃ニ交付ス

- 一、林侃ニシテ保釋保證金下付願ヲ提出セシム但右下付願ニハ區長ノ印鑑證明書(轉付命令謄本ヲ添附セシム)
- 二、保管物取扱規程第一〇條ノ例ニ依リ保管證書ニ拂戻ノ裏書ヲ爲シタル上之ヲ林侃ニ交付ス
- 三、右交付シタル保管證書ニ付林侃ヨリ受領證ヲ徵ス(大正二年一月二七日司法大臣官房會計課、大審院、東京控訴院、東京地方裁判所會計課通報)

●不動産登記取扱方ニ關スル件

司法省訓令回答要旨

ハ不動産登記法第三五條第一項第四號及第五號ノ書面ヲモ包含スルモノトス(大正二年一月二〇日民第一一〇號法務局長回答)
●勞役場留置執行中假ニ其場ヲ許サレタル場合ニ關スル疑義之件
勞役場留置執行中假出場ヲ許サレタルトキハ出場ノ日ヲ以テ執行ハ終了スルモノニシテ執行未済ニ該當スル罰金料料ハ之ヲ徵收スルヲ得サルモノトス(大正二年二月二日刑乙第二七三七號法務局長回答)

●差押又ハ轉付セラレタル保釋保證無交付方ニ關スル件
國稅徵收法第二三條ノ一ニ依リ差押ヘラレ又ハ轉付命令ニ依リ轉付セラレタル保釋保證金交付方ニ關スル東京地方裁判所ノ實例

○國稅徵收法第二三條ノ一ニ依リ差押ヘラレタル保釋保證金交付方ノ件
稅務署長ハ滯納ニ係ル稅金額徵收ノ爲メ中央金庫ニ寄託シタル保釋保證金ニ付拂戻ヲ受クヘキ債權ニ對シ差押ヲ爲シ中央金庫出納役ニ通知スルト同時ニ該保釋保證金還付決定ノ際ハ(明治二七年大藏省令第二號第五條ニ因リ)右稅務署長ニ交付相成度旨ノ通知アリタリ然ルニ右保釋保證ニ付事件主任官ヨリ納人へ還付スルノ通知アリタルヲ以テ右ノ手續ニ依リ保釋證書ヲ右稅務署長ニ交付ス

- 一 耕地整理組合カ解散シタル後ニ於テ從前ノ既登記土地ニ對シ換地交付ノ登記手續ヲ遺脱シタルモノアルトキハ組合長タリシ證明書ヲ添付シ更正登記ヲ申請スヘキモノトス
- 二 登記簿通知書ト土地臺帳ト地目地番反別符合セサル旨ヲ以テ返戻セラレタル場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ニ對シテ登記カ土地臺帳ノ記載ト符合セサルコト竝ニ其不適合カ登記ノ錯誤ニ原因スルカ又ハ登記事項ニ變更ヲ生シタルニ拘ハラズ變更登記ヲ爲ササリシニ原由スルトキハ遲滞ナク更ニ又ハ變更ノ登記ヲ申請スヘキ旨ヲ通知シ土地臺帳所管廳ニ對シテハ通知書カ登記簿ノ記載ト符合セサル旨及右ノ通知ヲ爲シタル旨ヲ付録シ登記簿通知書ヲ再送シ置キ當事者ノ申請ニ因リ更正又ハ變更ノ登記ヲ爲シタルトキ更ニ訂正ノ通知ヲ爲スナ相當トス
- 三 甲ヨリ乙乙ヨリ丙ニ土地所有權移轉シタルモ登記ヲ爲ササル内乙逃走行衛不明ト爲リタルトキ丙ハ甲乙及乙丙間ノ移轉原因ヲ疎明シテ二個ノ假登記ノ假處分命令ヲ申請スルコトヲ得ス蓋シ甲乙間ノ假登記ニ付テハ丙ハ登記權利者ニ非ラサルヲ以テナリ但シ甲乙間ノ移轉登記ニ付テハ丙ハ民法第四二三條及不動産登記法第四七條ノ二ニ依リ乙ニ代位シテ其登記ノ申請ヲ爲スコトヲ得ヘク乙丙間ノ移轉登記ニ付テハ右ノ登記ヲ爲シタル後不動産登記法第二條及第三二條ニ依リ假登記ヲ爲スコトヲ得ヘシ(大正二年一月二七日民第一二九一號法務局長回答)

●賣藥規則第二〇條第二一條ノ適用ニ關スル疑義ノ件

一 賣藥規則第二〇條第二條ハ免許鑑札ヲ受ケタル賣藥ノ請賣又ハ行商ヲ爲シタル場合ニ限り適用スヘキモノトス無免許ノ賣藥ヲ請賣又ハ行商シタル者ハ規則第二三條前段ニ依リ無鑑札營業者ノ共犯トシテ處分スヘキモノトス

二 他人ノ調製シタル無免許ノ賣藥ヲ其許諾ヲ得スシテ效能用法ヲ口授シ販賣シタル者ハ獨立ノ無鑑札營業者トシテ第二三條ニ依リ處分スヘキモノトス(大正二年一月一日刑乙第三一二九號 法務局長回答)

●商業登記ニ關スル疑義ノ件

一 監査役選任ノ場合ニ於ケル變更登記ノ法定期間ハ商法第一八九條ニ於テ準用シタル第一六四條第二項ニ依リハ委任ニ關スル規定ニ從フヘキモノニ付株主總會ニ於テ選任セラレタル者力之ヲ承諾シタルニ因リテ(民法第六四三條參看)茲ニ始メテ其選任ノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ其效力ヲ生シタル日即就職ノ日ヨリ起算スルナリ相當トス又同法第一八九條ニ於テ準用シタル第一六七條ノ二ノ場合ナルニ於テハ監査役力任期滿了又ハ辭任等ニ因リ任務終了スト雖モ後任者ノ就職スルマテハ尙監査役トシテ其職務ヲ行フモノナルカ故ニ後任者就職ノ月ヨリ起算シテ法定期間ニ前任者ノ退任及後任者ノ就職ニ因リ變更登記ヲ爲スモ妨ケナシ尙ホ登記義務者力登記ヲ爲スコトヲ意リタル理由ヲ以テ之カ制裁ヲ加フルニハ其過失ニ因リ法定ノ期間内ニ登記ヲ爲サザリシ事實ノ存スルコトヲ要スルモノニ付假令法定期間經過後登記ノ申請ヲ爲スモ登記義務者ニ懈怠ノ事實ナキ限りハ之カ制裁ヲ受クヘキモノニ非ス

●刑事略式手續ニ於ケル略式命令豫告ニ對スル異議申立ノ取下ニ關スル件

略式命令ヲ發スルヤ又公判手續ヲ爲スヘキヤハ獨リ被告人ノ意思ノミニ一任シタルニ非スシテ裁判長ノ意見ニ依リテモ亦略式命令ヲ發セザルコトアルハ刑事略式手續法中ノ規定ニ依リ明カナリ而シテ異議ノ申出ニ因リテ裁判所力呼出狀ヲ發シタルトキハ裁判所ハ之ニ依リ公判手續ヲ爲スヘキコトヲ表示シタルモノナレハ其以後ニ於テ被告人ノ爲シタル異議申出ノ取下ハ之ヲ許可シ得サルモノトス(大正三年一月二〇日刑乙第二六七號法務局長回答)

附 錄

行政裁判所判決要旨索引

1 (附錄索引)

- 祿 制 七、八、二、三、一四
- 賣藥規則 一〇
- 土地收用法 八
- 同業組合法 一五
- 町村制 一、二、三、四、五、六、七、一、一、二、三、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二二、二三、二四
- 舊町村制 三、一四、一五
- 地方稅規則 二、一〇、一四、一五、一八、二四
- 大藏省令第五二號 九
- 家祿賞典處分法 一、三、四、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、二〇、二三
- 間接國稅犯則者處分法 六一九
- 官民有地境界査定ニ關スル件 三、五、七、二〇
- 宅地地價修正法 四
- 反別割條例 一九
- 訴願法 三、二四
- 軍人恩給法 一
- 郡 制 二、三、五、六、七、九、一一、一二、一三、一四、一五、一七、二二、二四

行政裁判判決要旨索引

- 府縣制.....二三四、四二二、四一六、一八二、二四
- 國稅徵收法.....二、三、五、八、一一、一七、二三
- 國有土地森林原野下戻法.....三七、一八、二〇
- 鑛業法.....一七
- 鑛業法施行細則.....四、五、六、七、二二、三、三四
- 營業税法.....七
- 營業税法施行細則.....一六
- 砂鑛法施行細則.....二、七、八、一〇、一一、一四、一六、一八、一九、二〇、二二、二四
- 行政裁判法.....一四、一〇、一七、二二
- 漁業法.....九、一八
- 明治二三年法律第一〇六號.....一〇、一三、二〇
- 明治三〇年法律第五〇號.....一七
- 明治三三年法律第七五號.....一一、一六、二三
- 市制.....六、一一、一四
- 酒造税法.....一〇、二二、三三
- 所得税法.....

附錄索引畢

行政判決要旨

●村稅賦課ニ關スル裁決取消請求ノ訴

- 一 所政處分ニシテ當該行政廳ノ聽權ニ屬シ當時ノ法令ニ照シテ爲シ得ルモノナル以上偶々行政廳ノ採用セル法令ノ誤謬アルモ之ヲ爲メ該處分ヲ違法ナリト云フヲ得ズ
- 二 國稅府縣稅ノ附加稅ニ付テハ舊町村制中特別ノ名目ヲ定メタルモノナキヲ以テ地價割又ハ營業割ノ名目ヲ以テ地租又ハ縣稅雜稅ノ附加稅ヲ賦課スルモ適法ナリ
- 三 市町村稅地價割ノ課率ニシテ宅地地租ニ對スルモノト其他ノ土地ノ地租ニ對スルモノトノ間ニ明治四一年法律第三七號(明治四四年法律第三二號)ヲ以テ改正セラレタルニ於ケル附加稅制限課率(宅地租ニ付テハ本稅ノ百分ノ九其他ノ土地ノ地租ニ付テハ同百分ノ二)ノ割合ヲ保持セル以上其他價割ハ負擔ノ均衡ヲ保持セルモノナレハ舊市町村制ニ所謂均一ノ稅率ニ準據シタルモノトス
- 四 明治二年内務省令第二號ニ據リタル處分ト同省令及ビ之ニ基キ其範圍ニ於テ細目ヲ規定シタル岐阜縣訓令ニ據リタル處分トハ其性質内容ヲ異ニセス(明治四五年第一三九號大正元年二月六日第二部宣言)

●村會議員選舉無效ノ訴願ニ付縣參事會ノ裁決ニ對スル訴

公告記載ノ議員數ヲ選舉スヘキ法定ノ議員數ニ改ムルモ單純ナル誤謬ノ訂正ニシテ公告事項ノ變更トナラス(明治四五年第一四六號大正元年二月六日第二部宣言)

行政判決要旨

●國有林下戻請求ノ訴

- 一 御林ハ特種ノ官林ニ對スル稱呼ナリ故ニ御林ニアラサルノ故ヲ以テ直ニ民有林ト云フヲ得ズ
- 二 山主ナル語辭ハ毛上收發權ノ主體ヲ指シタルコトナキニアラザレハ之ヲ以テ土地所有ノ體ト爲スニ足ラス(明治三七年第七三九號大正元年二月一日第二部宣言)

●家祿不足額給與處分不服ノ訴

法令ニ依リテ爲シタル處分ニ錯誤アリト主張スル者ハ其事實ヲ立證セサルヘカラス(明治四二年一一〇號大正元年二月一日第一一部宣言)

●軍人恩給支給請求ノ訴

軍人ニシテ恩給ヲ受ケタル者刑ノ言渡ヲ受ケ其執行ヲ猶豫セズレバルトキハ假令執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過スルモ該期間内ハ軍人恩給法第二五條刑法施行法第三六條ニヨリ恩給ヲ停止セラルルモノトス(大正元年第二〇九號)年二月一日第一一部宣言)

●專用漁業權違法處分取消ノ訴

- 一 出訴期限經過後ノ行政訴訟ハ受理セラル可キ限リニ非ズ
- 二 入漁權ノ登錄處分ニ付テハ漁業法並ニ其他ノ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ許ス可キ規定ナキヲ以テ受理ス可キ限リニ非ズ(大正元年第二三五號同年二月一日第三部裁決)

●村會議員被選舉權ニ關スル訴

行政判決要旨

現行町村制施行以前ニ村ニ對シ工事ノ請負契約ヲ締結シタルモ其施行後ニ至ルマテ尙工事繼續中ナルトキハ其契約者ハ同法第一五條第三項ニ依リ村會議員ノ裁選舉權ヲ失フモノトス(大正元年第一六五號同年一月一六日第二部宣告)

●裁決取消請求ノ訴

各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(行政裁判法第一七條第三項)トノ規定アレハ本件ノ如ク既ニ内務大臣ノ裁決ヲ經タルモノハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス(大正元年第二四四號同年一月一六日第一部裁決)

●國有林下戻ノ訴

一 御留山トハ樹木ノ伐採ヲ禁止シタル山ノ意ニシテ必スシモ官山ナリト稱スルヲ得ス
二 請ナル文字ハ諸種ノ意ニ用キラレ其用法一定セザレハ請山ヲ以テ直ニ官有ナリト斷スルヲ得ス(明治三十七年第八六六號大正元年一月二三日第一部宣告)

●縣會議員選舉ニ關スル當選無効ノ訴

一 「凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來」云々ト(舊町村制第七條第一項)アルハ二年以來獨立ノ男子タルヲ要スル趣旨ニアラス
二 府縣制第六條第二項ノ規定ハ苟モ一年以上直接國稅年額十圓以上ヲ納ム可キ資格アレハ是レトノ法意ニシテ納稅ノ時期如何ニ關セサルヲ以テ二年度分ノ税金ヲ一時ニ納付スルモ府縣會議員ノ被選舉資格ニ何等影響ヲ來タサス(明治四五年第一八號大正元年一月二三日第二部宣告)

●縣稅賦課ニ關スル縣參事會ニ對スル訴

縣令規定ノ議決期限ノ後ニ爲シタル戶數割毎等賦課額ノ議決ハ徵稅傳令書發布前ニ爲シタルトキト雖トモ違法ナリトス(大正元年第二一二號同年一月二五日第二部宣告)

●郡會議員選舉效力ニ關スル訴

郡制第一五條第四項ハ氏ト名トナ併記スルニアラザレハ投票ヲ無効トナス法意ニアラサルニヨリ被選舉人ノ何人タルヤヲ確認シ得ル以上氏又ハ名ノミヲ記載シタル投票ト雖モ有效トス(大正元年第二一七號同年一月二五日第二部宣告)

●採掘出願却下處分ニ對スル訴

船積若クハ陸揚ノ際海底ニ沈没シタル石炭ノ中ニハ其所有權ヲ推察セサルモノアルヲ以テ右石炭ハ鐵業法第三條ニ所謂廢鐵ナリト云フヲ得ス(明治四五年第三六號大正元年一月二六日第三部宣告)

●國有土地林野引戻請求ノ訴

散野ハ普通民有ナリトス(明治三十八年第一〇三號大正元年一月二七日第二部宣告)

●家祿返還請求ノ訴

舊藩士ノ子弟ニアリテ藩制施行後分家分祿シタルモノヲ藩制違背トシテ廢祿シタルハ違法トス(明治四二年第五四九號大正元年一月二七日第一部宣告)

●境界査定ニ對スル不服ノ訴

地押調査圖ハ主トシテ民有地整理ノ趣旨ヲ以テ調製セラレタルモノナルカ故ニ官民有境界ヲ定ムル唯一ノ根據ト爲シ難シ(明治四五年第一一號大正元年一月二七日第二部宣告)

●村稅戶別割賦課ニ關スル訴願裁決ニ對スル訴

行政判決要旨

●町會議員選舉ノ效力ニ關スル訴

一 町村會議員選舉ノ投票力容易ニ其記載ヲ透見シ得ルモノハ舊町村制第二二條ニ所謂封緘ヲ具備セルモノト謂フヲ得ス從テ無効トス

二 町村會議員選舉ノ投票力全部無効タル以上其選舉ハ舊町村制第二九條第三項ニ所謂選舉ノ規定ニ違反スルモノナレハ取消サルヘキモノトス(大正元年第一七〇號同年一月二三日第二部宣告)

●不當地方稅戶數割取消及既納金還付請求ノ訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ニ所謂戶數割ハ戶ヲ基礎トス故ニ之ヲ賦課スルニハ必スヤ一戶ヲ構フル者タルヲ要ス從テ何等構戶ノ事實ナキ者ニ對シ之ヲ賦課シタルハ違法ナリ(明治四五年第一一號大正元年一月二五日第二部宣告)

●郡會議員資格消滅ノ決定ニ對スル不服ノ訴

一 衆議院議員選舉法規則ニ規定セル輕禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ舊町村制ノ適用ニ對シテハ公權停止ヲ附加ス可キ輕罪ト看做ス可キモノトス
二 舊町村制第九條第二項ニ所謂公判ニ付セラレタルトキハ檢事ノ起訴又ハ豫審判事若クハ上級裁判所ノ事件ヲ移ス裁判ニ因リ事件カ公判ニ繫屬セシトキ指スモノニシテ公判開廷セツレタルトキノミナ指シタルモノニアラス

三 町村公民權ヲ停止セラレタル者カ郡會議員ニ當選シタルトキハ其當日ニ於テ其職ヲ失フヘキモノトス(明治四五年第一四四號大正元年一月二五日第二部宣告)

●訴願法第八條第三項ノ宥恕ス可キ事由ノ有無ニ關スル下級行政廳ノ認定ノ當否ハ上級行政廳ニ於テ之ヲ審查シ相當ノ處分ヲ爲スモノトス(明治四五年第四八號大正元年一月二七日第二部宣告)

●村會議員選舉效力ニ關スル裁決取消請求ノ訴

一 村會議員選舉ノ效力(町村制改正前ニ執行シタル)ハ舊町村制ノ規定ニ依ルヘキモノトス
二 市町村制ハ一人ノ選舉人カ同一被選舉人ヲ記載セル投票用紙ニ枚ヲ提出シタルトキハ其一枚ヲ有效トスル法意ナリ
三 町村制改正前ニ執行セル選舉ヲ取消スニハ舊制ニ依ルヘキモノトス

●町村制改正前執行セル村會議員選舉ノ效力ニ付キ該制改正前爲シタル村會ノ裁決ニ對シ該制改正後府縣參事會ニ提起セラレタル訴願ハ明治四四年勅令第二四三號第七條第二項及七新制第三三條第二項ニ依リ之ヲ受理スヘキモノニシテ舊制第三七條ニ依リ之ヲ受理スヘキモノニ非ス(明治四五年第一一九號大正元年一月二七日第二部宣告)

●村稅賦課取消ノ訴

一 主稅カ特定行爲稅ノトキハ附加稅モ亦特定行爲稅ト認メサルヲ得ス從テ主稅タル縣稅雜種稅漁業稅カ特定行爲稅タル場合ニ附加稅トシテ町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ滞在セザル者ノ特定行爲ニ對シ町村稅ヲ賦課スルハ舊制ニ照シテ違法ナリ
二 漁場ハ單ニ魚類ノ捕獲ヲ爲ス場所ニシテ舊町村制第九三條ニ所謂營業ヲ爲ス場所ニ非ルカ故ニ町村内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三箇月以上滞在セザル者ニ漁場ノ收益ニ對スル所得稅ノ附加稅タル村稅所得稅割ヲ賦課スルハ違法トス(大正元年第一七三號同年一月二七日第二部宣告)

●郡會議員當選效力ニ關スル縣參事會裁決不服ノ訴

訴願者カ事由ヲ具シテ訴願期限經過ノ宥恕ヲ申請シタル場合ニハ行政廳ハ其實ヲ調査スヘキハ勿論宥恕スヘキ事由アリト認メタ

トキハ當然其訴願ヲ受理スヘキモノトス(大正元年第一八六號同年一月二七日第二部宣告)

●漁業免許取消請求ノ訴

舊漁業法第二四條ニ依リ他人ノ漁業免許ノ取消ヲ求ムル行政訴訟ノ同法施行規則第四九條ニヨリ告示ノ日ヨリ計算スヘキモノトス(明治四〇年第一六〇號大正元年二月二八日第三部宣告)

●宅地地價修正ニ對スル不服ノ訴

市街宅地ノ賃賃價格ノ一〇倍カ修正前ニ於ケル地價ノ一八倍ヲ超ルトキハ宅地地價修正法第三條第一項但書ノ規定ニ從ヒ修正前ノ地價ノ一八倍ヲ以テ修正地價ト定ムヘキナリ(明治四四年第一〇號大正元年二月二八日第三部宣告)

●宅地地價修正ニ對スル不服ノ訴

宅地地價修正法ニ所謂賃賃價格ハ現在ノ收益額ヲ指スモノニアラス(明治四四年第一〇六號大正元年二月二八日第三部宣告)

●營業稅課稅標準額決定取消請求ノ訴

一 出版業ノ業城ハ印刷及販賣ニ在ルヲ以テ出版ノ貯藏場販賣場ハ營業稅法施行規則第八條第二項ニ所謂直接營業ノ用ニ供スル土地建物ナリト云ハサルヲ得ス
二 營業稅法第二條第四項ハ只重價課稅ヲ制限シタルニ過キス從テ出版業者ノ出版物ノ貯藏及販賣ノ用ニ供スル土地建物ノ價格ヲ固定資本ニ算入スルカ如キハ同條ノ範圍外ナリトス
三 明治四三年ニ於ケル營業稅法ノ改正前ニハ同法中出版業ト稱スルモノナカリシ爲メ改正前ヨリ事實上出版業ヲ營ミツツアル者ニ對シ改正後ニ至リ猶出版業者トシテ課稅スルモ不當ニアラス(明治四五年第一一三號大正元年二月二八日第三部宣告)

●營業稅賦課ニ對スル訴

營業稅法第二八條ノ四ノ規定ハ營業者カ同法第二八條ノ一ニ對シ

不服アル場合ハ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經ル後ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解スルヲ至當トス(大正元年第二四九號同年一月二八日第三部裁決)

●家祿處分錯誤引直請求ノ訴

明治七年九月二日嚴手縣吏ノ違犯ニ對シハ單ニ從來ノ過度制ノミテ觀テ明治二年何出ノ諒制即チ特別優待ノ制アルコトヲ無視ス從テ該違ハ錯誤ニ出テタルモノトス(明治四二年第一五二號大正二年一月一五日第一部宣告)

●家祿給與ニ關スル訴

一 兇徒乘乘ノ罪ハ常事犯ナリ
二 大赦ハ犯罪ニ對スル法律上ノ效力ヲ全減スルノミニシテ既往ノ事實ヲ復舊スル效力ナシ
三 刑ノ效果ハ一身ニ止マルトノ思想發達セザル時代ニハ法令ノ規定上主人ノ犯罪行為ニ因リ家族ノ制裁ヲ受ケシ例少ナカラズ明治三〇年法律第五〇號ハ父ノ犯罪ニ應ジテ正當ニ族祿ヲ沒收セザレタル者ヲモ救済スル趣旨ニ非ス(明治四二年第五八七號大正二年一月二二日第一部宣告)

●縣會議員當選效力不當裁決取消ノ訴

府縣制第六條第二項ニ「直接國稅年額一〇圓以上ヲ納ムル者」トアルハ地租ニ付テハ土地所有權者有シテ納稅義務ヲ負フ者ヲ稱シ買權者トシテ單ニ納稅義務ヲ負フ者ノ如キハ之ヲ包含セズ(明治四四年第二一〇號大正二年一月二三日第二部宣告)

●村會議員失職ニ關スル訴

一 滯納處分ハ滯納者カ後日督促手數料滯納處分費並ニ税金ヲ完納スルモ之カ爲メニ既往ニ過及シテ消滅セズ
二 公民權停止ニ基ク村會議員失職決定ノ時期ニ關シテハ法上何等ノ制限ナキ故ニ財產差押解除以後ニ於テ村會カ失職ノ決定ヲ爲スモ違法ニ非ス(大正元年第一一九號同年一月二三日第二部宣告)

●縣參事會不法裁決取消請求ノ訴

一 郡制第二七條ノ告示カ異議申立人ニ決定書交付以前ニ爲サレタルトキハ其效力ハ右交付ノ時期ヨリ發生ス
二 郡會議員當選ノ效力ニ關シ異議ノ申立アリタル場合ニ其決定上必要ナルトキハ郡參事會ハ選舉會ノ決定セル投票ニシテ當事者間ニ爭ナキモノト雖モ尙ホ之ヲ審査スルコトヲ得(明治四五年第六號大正二年一月二五日第二部宣告)

●村會議員選舉取消ニ關スル訴

町村制第二二條第五項但書ニ所謂選舉スヘキ議員數トハ每選舉ニ於テ選舉ス可キ議員ノ實數ヲ指示シタルモノニシテ議員ノ實數ヲ指示シタルモノニ非ス(明治四五年第一四九號大正二年一月二八日第二部宣告)

●郡會議員失職ニ關スル訴

郡會議員失職決定ノ取消ヲ求ムル訴訟屬中原告カ該議員ノ職ヲ辭シタルトキハ請求ノ目的ハ消滅スルヲ以テ該請求ハ排斥ス可キモノナリ(明治四五年第一五二號大正二年一月二八日第二部宣告)

●不當處分取消ノ訴

土地境界誤謬訂正願ノ却下處分ヲ取消シ更ニ査定ヲ求ムル事件ニ付テハ勅令中特ニ出訴ヲ許可シタル規定ナケレハ受理スルノ限ニフラス(大正元年第二一三號同年一月二八日第二部裁決)

●營業稅課稅標準額決定取消ノ訴

行政判決要旨

●不當處分取消國有林野下戻請求ノ訴

營業稅法第二八條ノ四ノ規定ハ營業者カ同法第二八條ノ一ニ對シ不服アルトキハ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解スルヲ至當トス(大正元年第二五七號同年一月二八日第三部裁決)

●縣會議員失職ニ關スル訴

町村制第九條第二項ニ「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキ」トアルハ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキヲ指示ス(大正元年第一七八號同年一月一三〇日第二部宣告)

●不當裁決取消ノ訴

村長ハ滯納處分者又ハ第三者ヨリ督促手數料滯納處分費及ヒ税金ノ完納ナキ以上法律上ノ理由ナクシテ任意ニ財產ノ差押ヲ解クヲ得サル者トス(大正元年第一八三號同年一月三〇日第二部宣告)

●官民有土地區分ノ査定ニ關スル不當處分取消ノ訴

土地官民有區分査定願ノ却下處分ヲ取消シ更ニ右境界査定ヲ求ムル事件ニ關シテハ法令中出訴ヲ許シタル條規ナシ從テ受理ス可キ限ニ非ス(大正二年第六號同年一月三〇日第二部裁決)

●郡會議員當選取消及當選決定要求ノ訴

議事録ニ區長十一名ノ選舉ヲ行ヒシニ左記ノ者當選セリトアリ
テ各大字名ヲ掲ケ其下ニ各當選區長ノ氏名アルニ於テハ村會カ村
ノ區域ヲ各大字ニ依リ數區ニ分チ之カ區長ヲ置クコトヲ議決シタ
ルモノト認ム(大正元年第二二六號同年二月一日第二部宣告)

●縣參事會不當裁判取消ノ訴

投票ノ記載力運筆拙ナルモ文字タルヲ失ハス且誤字又ハ衍字アル
モ被選舉人ヲ確認シ得ルトキハ其投票ハ郡制第一六條第三號ニ該
當スル者ノ投票ナリト云フコトヲ得ス(大正元年第二二二號同
年二月四日第二部宣告)

●不當裁決取消請求ノ訴

選舉人ハ普通候補ニ立チタル者ヲ選舉スルモノト認ムルヲ相當ト
ス從テ同姓名ノ被選舉權者二人アルトキハ候補ニ立チタル者ノ氏
名ヲ記入セル投票ハ候補者ヲ指示シタルモノト認ム可キモノトス
(明治四五年第一四八號大正二年二月六日第二部宣告)

●營業稅課稅標準額審查決定ニ對スル訴

稅務署長ノ審查決定ニ對シテハ地方上級行政廳タル稅務監督局長
ニ對シテ訴願ヲ爲シ其裁決ヲ經タル後ニアラスンハ行政訴訟ヲ提
起スルコトヲ得ス(大正二年第一五號同年二月六日第三部裁決)

●東京稅務監督局ノ訴願却下ニ對スル訴

間接國稅犯則者處分法ニ依リ差押處分ニ付テハ明治三三年法律第
一〇六號及ヒ其他ノ法令ニ行政訴訟ノ提起ヲ許可シタル規定ナシ
(大正二年第一六號同年二月六日第三部宣告)

●秩祿處分指令取消給與ノ訴

一 岸和田藩藩卒ノ奉公向差免處分ハ俸祿ノ支給停止ニシテ廢卒
廢祿處分ニ非ス而シテ處分ノ原因藩債償却ノ爲メナル以上ハ明
治五年第一二六號ニ依リ復祿セシム可キモノナリ
二 藩卒ニ租換ハラレタル舊陪臣ハ藩卒ト成リタル以後二代ヲ重
ヌルニ非サレハ永世祿請求ノ權利ナシ(明治四二年第一〇七號
大正二年二月一七日第一一部宣告)

●秩祿不足額請願ニ對スル不當處分不服ノ訴

一 明治三年二月一日〇日太政官布告廢制ハ總テノ種類及科目ニ
適用ス可キモノトス
二 右廢制但書ハ家祿ノ總計現米一二石以下ノ者ニ限リ適用ス可
キモノトス(明治四二年第一六七號大正二年二月一七日第一一部
宣告)

●立證責任ノ件

法令ニ從ヒ爲シタル處分ニ錯誤アリト主張スル者ハ其事實ヲ立證
セサル可ラス(明治四二年第三九〇號大正二年二月一七日第一一部
宣告)

●家祿給與不足額請求ニ對スル不當處分取消ノ訴

明治三年二月一日〇日太政官布告廢制ハ知行ニ依リ有祿者ニ付テ
ハ其實收現米ヲ基トシテ之ヲ四ツ物成ノ高ニ引直シ二分五厘ノ制ヲ
適用ス可キモノトス(明治四二年第五七三號大正二年二月一七日
第一一部宣告)

●境界査定取消請求ノ訴

大林區界カ境界判定ノ資料トナル可キ書類物件ノ調査、實地ノ觀
察ヲ誤リタル理由トシテ一旦確定シタル境界査定處分ヲ取消ス
如キハ境界査定ニ關スル制度ノ精神ニ違反セル違法處分ナリ(明
治四五年第六四號大正二年二月一八日第二部宣告)

●郡會議員失職裁決取消ノ訴

行政判決要旨

●不當村稅賦課及不當裁決取消ノ訴

一 町村カ繼續費ヲ設定スルニハ繼續年期間及各年度ノ支出額ヲ
定ムルコトヲ要ス
二 町村ノ事務又ハ營造物ニ關スル規程ニシテ舊制施行中町村會
ノ議決ヲ經テ公告セラレタルモノト雖モ町村條例又ハ町村規則ト
シテ內務大臣又ハ郡參事會ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ町村
ヲ編東スル效力ヲ有セズ
三 明治三八年新潟縣令第二四號並明治四一年同縣令第一三號ハ
工事ノ施行ニ關スル規定ニシテ工事費ノ豫算ニ關スル規定ニアラ
ス故ニ該縣令ニ依リ郡長ノ許可ヲ受ケサルモ豫算ノ成立ヲ妨ケス
四 町村豫算ノ歲出ニ掲ケラレタル費目カ町村費ヲ以テ支辨シ得
可キモノニシテ且其豫算力適法ニ成立セシ以上之ニ基キ村稅ヲ賦
課スルハ違法ニ非ス(大正元年第一八〇號同年二月八日第二部宣
告)

●酒精造石稅免除取消處分ニ對スル裁決不服取消請
求ノ訴

一 法令ニ特別ノ規定ナキ場合ハ行政官廳ハ自己ノ爲シタル不法
處分ヲ取消スコトヲ得
二 酒精造石稅徵收猶豫及ヒ免除ニ關スル法律ニ依リテ造石稅ノ
徵收ヲ猶豫セラレタル酒精力免稅セラレルニハ法律所定ノ事實ア
ルコトヲ要ス故ニ其事實ノ證明書類カ不正ナルトキハ製造人カ其
證書ノ不正ナルコトヲ知リテ免稅ヲ申請セルト否トニ拘ラス免稅
處分ヲ取消スルハ違法ニ非ス(明治四五年第一四二號大正二年二月
一五日第三部宣告)

●鑛區稅減額請求ノ訴

鑛業法第八四條第三項ノ月額計算ノ規定ハ鑛業權者中隨意ニ其權
利ノ拋棄ヲ爲シタル廢業ノ場合ニ適用ス可キモノニ非ス(大正元
年第二二四號同年二月二五日第三部宣告)

●營業稅課稅標準額算定取消請求ノ訴

一 營業稅法施行規則第七條ノ二ニ依リ營業稅法第一條ニ掲ケザ
ル營業ニ對スル資本金額トシテ控除ス可キ見積資本金額ハ同施
行規則第五條ニ依リ總資本額ニ計算セラレタルモノト同種目ヨ
リ成ル可キモノトス
二 株式會社ノ總資產額ニ對スル營業稅法第一條ニ掲ケザル營
業ニ係ル資產金額ノ割合ト同割合ヲ總資本金額ニ對シテ保ツ
金額ヲ控除ス可キ見積資本金額ト爲シタルハ違法ニ非ス(大正
元年第二三八號同年二月二七日第三部宣告)

●家祿給與申請ニ對スル不當處分取消請求ノ訴

舊松山藩藩卒ハ他ノ藩卒ト共ニ明治九年八月大藏省指令ヲ以テ復
舊ヲ命セラレタルモノトス(明治四二年第六二〇號大正二年三月
三日第一一部宣告)

●違法處分取消試掘權許可請求ノ訴

鑛業法第三二條ニ所謂鑛業ノ出願カ公益ヲ害スルモノナリヤ否ヤ
ハ行政廳カ漫然其欲スル儘ニ認定スルコトヲ許シタルモノニ非ス
シテ相當ノ根據ト爲ル可キ事實ノ存在ヲ必要トス可キハ當然ナリ
故ニ單ニ右認定ハ自由裁量ニ屬ストノ理由ノミニ依リ行政訴訟ヲ
許ササルモノニ非ス(明治四五年第九〇號大正二年三月一日第
三部宣告)

●郡會議員選舉ノ件

投票ノ記載ニ多少ノ脫字誤字アルモ文字ノ形ヲ成シ且某ヲ選舉シ

● 國有林野下戻不當處分取消請求ノ訴
長官ノ公告若クハ通知ニ依リ始メテ收用ス可キ土地ノ細目ヲ土地所有者ト關係人ニ對シ告知スルノ規定ナルニヨリ地方長官ハ右内閣ノ認定公告ノ範圍ヲ超越セザル限リ起業者ノ申請ニ依リ事業ノ關係及ヒ進捗上必要アリト認ムル場合ハ三ヶ年以内何時ニテモ收用地ノ細目變更ヲ公告スルノ權能ヲ有ス可キニ依リ地方長官ノ最初爲シタル公告カ現ニ一ヶ年ノ有效期間ヲ過キテ同法第三四條ニ依リ全ク消滅ニ歸シタル場合ニ方リ同法第一九條ニ依リ更ニ再度ノ公告ヲ爲スモ違法ニ非

● 土地收用裁決取消ノ訴
一 收用ヲ受ケ可キ土地ニ對シ其土地貨賃借及土石賣渡ノ契約ヲ締結シ之カ登記ヲシテ其土地ノ使用權者タルコト明ナル以上ハ土地收用法第五條第一項同第六二條同第八一條第二項等ノ各規定ニ照シ土地所有權者ノ受ケタル審査會ノ裁決ニ對シテ土地所有權者ト同シテ獨立シテ訴權ヲ實行スルモ妨ケナシ

● 郡會議員當選效力ニ關スルノ訴
「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ハ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス(大正二年第八號同年三月二二日第二部宣告)

● 不當裁決取消ノ訴
登記官吏ノ不動産ニ對スル課稅處分ハ明治二三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス(大正元年第二五五號同年三月二日第三部裁決)

● 家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴
一 明治三年九月一〇日布告舊制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス

● 家祿不當處分取消ノ訴
一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

● 損害金請求ノ訴
租稅滯納處分ヲ執行シタル際不正行爲ニ因リ原告カ損害ヲ蒙リ及

● 家祿不足額請求ノ訴
一 舊福岡藩ニ於ケル切取取リ士卒ハ知行取リ藩士ト同率ノ押米ヲ賦課セラレタルモノトス

● 家祿返還請求ノ訴
一 福岡藩ニ於ケル押米ノ制度ハ其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變セズ

● 不當裁決取消ノ訴
登記官吏ノ不動産ニ對スル課稅處分ハ明治二三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス(大正元年第二五五號同年三月二日第三部裁決)

● 郡會議員當選效力ニ關スルノ訴
「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ハ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス(大正二年第八號同年三月二二日第二部宣告)

● 家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴
一 明治三年九月一〇日布告舊制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス

● 家祿不當處分取消ノ訴
一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

● 損害金請求ノ訴
租稅滯納處分ヲ執行シタル際不正行爲ニ因リ原告カ損害ヲ蒙リ及

● 家祿不足額請求ノ訴
一 舊福岡藩ニ於ケル切取取リ士卒ハ知行取リ藩士ト同率ノ押米ヲ賦課セラレタルモノトス

● 家祿返還請求ノ訴
一 福岡藩ニ於ケル押米ノ制度ハ其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變セズ

● 不當裁決取消ノ訴
登記官吏ノ不動産ニ對スル課稅處分ハ明治二三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス(大正元年第二五五號同年三月二日第三部裁決)

● 郡會議員當選效力ニ關スルノ訴
「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ハ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス(大正二年第八號同年三月二二日第二部宣告)

● 家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴
一 明治三年九月一〇日布告舊制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス

● 家祿不當處分取消ノ訴
一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

● 損害金請求ノ訴
租稅滯納處分ヲ執行シタル際不正行爲ニ因リ原告カ損害ヲ蒙リ及

● 家祿不足額請求ノ訴
一 舊福岡藩ニ於ケル切取取リ士卒ハ知行取リ藩士ト同率ノ押米ヲ賦課セラレタルモノトス

● 家祿返還請求ノ訴
一 福岡藩ニ於ケル押米ノ制度ハ其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變セズ

● 不當裁決取消ノ訴
登記官吏ノ不動産ニ對スル課稅處分ハ明治二三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス(大正元年第二五五號同年三月二日第三部裁決)

● 郡會議員當選效力ニ關スルノ訴
「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ハ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス(大正二年第八號同年三月二二日第二部宣告)

● 家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴
一 明治三年九月一〇日布告舊制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス

● 家祿不當處分取消ノ訴
一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

● 損害金請求ノ訴
租稅滯納處分ヲ執行シタル際不正行爲ニ因リ原告カ損害ヲ蒙リ及

● 家祿不足額請求ノ訴
一 舊福岡藩ニ於ケル切取取リ士卒ハ知行取リ藩士ト同率ノ押米ヲ賦課セラレタルモノトス

● 家祿返還請求ノ訴
一 福岡藩ニ於ケル押米ノ制度ハ其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變セズ

● 不當裁決取消ノ訴
登記官吏ノ不動産ニ對スル課稅處分ハ明治二三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス(大正元年第二五五號同年三月二日第三部裁決)

● 郡會議員當選效力ニ關スルノ訴
「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ハ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス(大正二年第八號同年三月二二日第二部宣告)

● 家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴
一 明治三年九月一〇日布告舊制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス

● 家祿不當處分取消ノ訴
一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

● 損害金請求ノ訴
租稅滯納處分ヲ執行シタル際不正行爲ニ因リ原告カ損害ヲ蒙リ及

● 家祿不足額請求ノ訴
一 舊福岡藩ニ於ケル切取取リ士卒ハ知行取リ藩士ト同率ノ押米ヲ賦課セラレタルモノトス

● 家祿返還請求ノ訴
一 福岡藩ニ於ケル押米ノ制度ハ其施行多年ニ涉ルト雖モ賦稅タルノ性質ヲ變セズ

● 不當裁決取消ノ訴
登記官吏ノ不動産ニ對スル課稅處分ハ明治二三年法律第一〇六號ニ所謂行政處分ノ處分ニ非ス(大正元年第二五五號同年三月二日第三部裁決)

● 郡會議員當選效力ニ關スルノ訴
「シヨロ」シヨロ「シヨロ」ト記載シタル各投票ハ清水周郎ヲ指シタルモノナレハ有效ナリ原告ハ氏又ハ名ノミヲ記載シタルモノハ無効ナリト云フモ郡制第一五條第四項ハ之ヲ第一六條ニ對照スルニ完全ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載セザルモ其何人タルヲ確認シ難キモノノ外ハ無効トセザル旨趣ナリト解ス可キモノトス(大正二年第八號同年三月二二日第二部宣告)

● 家祿給與不足額下渡請求ニ對スル不當處分取消ノ訴
一 明治三年九月一〇日布告舊制ニ依リ藩知事ハ經費ノ節約又ハ藩債償却ノ爲メ士族卒ノ家祿ヲ廢止シ又ハ削減シ得ルモノトス

● 家祿不當處分取消ノ訴
一 舊仙臺藩士卒ノ家祿明治元年中封邑城地ヲ沒收セラレ之ト同時ニ消滅シタルモノナリ從テ新封後更ニ扶助米ノ支給ヲ受ケタル

行政判決要旨

ルコトヲ理由トスル損害賠償ノ訴訟ハ行政裁判所ニ於テ受理ス可キモノニ非サルコトハ行政裁判法第一六條ノ規定スル所ナルカ故ニ本訴ハ行政裁判所ニ提起スルコトヲ得ス(大正二年第四八號同年三月二七日第三部判決)

地方税戸數割ニ對スル訴

明治一三年太政官布告第一六號地方税規則ノ戸數割ナルモノハ本來戸ヲ基礎トスルモノナレハ一戸ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス故ニ鐵道院職員合宿所ニ居住シ膳料ヲ支辨シ他ノ職員ト共ニ同居シテ食事ノ供給ヲ受クル者ハ一戸ヲ構フル者ト謂フヲ得ス從テ之ニ賦課シタルハ違法タルヲ免レヌ(大正元年第二二七號同年三月二九日第三部宣告)

名古屋稅務監督局ノ裁決ニ對スル訴

一 一般醫藥ノ取締ニ關スル明治二二年法律第一〇號藥品營業法藥品取扱規則ノ外別ニ販賣規則ノ設アリテ賣藥ニ對シ特別ノ取締ヲ加フル所以ノモノハ賣藥ハ公衆ヲシテ醫師ノ指揮ニ依ラス疾病治療ノ爲メニ使用セシムルヲ主タル目的トシテ販賣セラルルカ爲メナリ
二 醫藥ハ天然物タルヲ妨ケサルト同シク賣藥ニ於テモ天然物タルト人工品タルトハ如上ノ關係ニ於テ何等異ナル所ナキヲ以テ天然湧出ノ鐵泉ヲ採削シ何等物質上ノ變化ヲ加フルコトナキモ前來ノ目的ニ應スル爲メ適當ナル狀態ニアルトキハ之ヲ賣藥トシテ課稅スルハ違法ニ非ス(大正二年第二號同年三月二九日第三部宣告)

家祿處分不服ノ訴

定テ爲スニ當リテハ宜シク賣上高商業ノ實況及ヒ營業名課稅標準屆高等ヲ斟酌ス可キヤ論ヲ竣タス然レニ單ニ營業名課稅標準屆高ニノミ基キ所得金額ヲ決定シタルハ失當ナリ
二 利益歩合ハ地方ニ依リ又商業ノ種類ニ依リ異ナルヤ論ヲ竣タス從テ稅務署長カ所得調査委員ノ意見ヲ聽キ且ツ地方ノ商況ニ鑑ミ同管内ニ通シ適用スル爲メ卸賣ヲ六分小賣ヲ二割ト定メタルハ相當ナリ
三 裁判所カ所得金額決定ノ當否ヲ評定スルニ當リ其決定内課稅誤謬アルコトヲ發見スルトキハ原決定金額ヲ超過セザル限度ニ於テ自由ニ取捨變更シ得可キハ當然ナリ(明治四四年第四六號大正二年四月二二日第三部宣告)

不當處分取消官林下屢請求ノ訴

山主ナル語辭ハ毛上權者ヲ指稱ヘルコトアルヲ以テ必スシモ所有者ト認ムルコトヲ得ス(明治三七年第一七八號大正二年四月一七日第二部宣告)

酒造稅賦課處分取消請求ノ訴

一 増差石數ヲ認定シ得ルニ於テハ改測ヲ爲ササレハトテ賦課處分ヲ爲スニ妨ナシ
二 原告ハ容器ノ増容アル變ヲ用キタル酒造稅免脫事件ニ付キ無罪ノ宣告ヲ受ケタリトスルモ果シテ増容アリシヤ否ヤ不明ナリト云フト雖モ司法裁判所ノ判決ハ行爲ノ犯則ナルヤ否ヤヲ決定セシムルニ止マルヲ以テ之カ爲メ直チニ増容ノ事實ヲ否認スルニ足ラヌ(大正元年第二四八號同年四月一九日第三部宣告)

町稅家屋稅割違法滯納處分訴願ニ關シ府參事會ノ行政判決要旨

行政判決要旨

一 明治三年九月一〇日布告藩制ニヨリ藩知事ハ經費節減ノ爲メ士族卒家祿ヲ廢止又ハ削減スルノ權限アリ
二 藩知事ニヨリ家祿ヲ廢止又ハ削減セラレタルモノハ祿高整理公債ヲ請求スル權限ナシ(明治四二年第四八〇號大正二年三月三十一日第一部宣告)

鯨旋網漁業願ニ關スル不當處分取消ノ訴

北海道廳長官カ鯨ノ蕃殖ヲ保護シ併テ在來ノ定置漁業及特別漁業ノ存立ヲ保護スル爲メ鯨旋網漁業ニ關シ其網數ニ相當ノ制限ヲ加フルノ必要アリト認メ農商務大臣ノ認可ヲ得テ發布シタル漁業取締規則ヲ以テ該漁業ニ付殊ニ許可ヲ受ケシムルノ規定ヲ設ケタルハ即チ明治三四年法律第三四號漁業法第一三條ニ依リ蕃殖保護及漁業取締ノ爲メ廣汎ナル制限ノ命令ヲ設ケタルモノニシテ此規定ニ基キ許可ス可キ旋網ノ總數ニ相當ノ制限ヲ內定シ出願中確實認書ノ見込アル者ヲ順次選擇シテ出願ヲ許可スルノ方法ヲ採リタルハ相當ナリ(明治四四年第三九號大正二年四月四日第三部宣告)

家祿未濟額請求ノ訴

明治三〇年法律第五〇號第二條ニ所謂相當額トハ家祿奉還規則ニ依リテ下付セラルヘキ資金額ヲ指稱シタルモノニシテ當時ノ下付資金額ニ不足アリタル場合ニ其不足額ヲ給與ス可キ旨ヲ規定シタルニ止リ奉還者ノ餘高ヲ金庫公債證書發行條例ノ規定ニ依リテ換算シ其不足額ヲ給與スルノ趣旨ニ非ス(明治四二年第二八三號大正二年四月七日第一部宣告)

第三種所得金額決定ニ對スル訴

一 第三種所得金額ハ豫算年額ヲ以テ決定スルモノナレハ之カ決

裁決ニ對スル訴

原告カ東京府參事會裁決書ノ交付ヲ受ケタルハ大正二年一月二四日ニシテ本訴ノ提起ハ同年三月二四日ナルカ故ニ町村制第一四〇條第二項所定ノ日數ヲ超過シタルヲ以テ本訴ハ受理スヘキニ非ス(大正二年第五六號同年四月一九日第三部判決)

漁業免許違法取消處分取消請求ノ訴

漁業法第二二條ノ規定ハ行政廳ニ取消シ得ル職權ヲ付與シタルニ止マリ取消スヘキ義務ヲ負ハシメタルモノニ非サレハ官廳ノ認可ヲ經シテ引續キ二個年間漁具ヲ敷設セザル事實アリテ行政廳カ免許ヲ取消スル相當ト認メタル場合ニノミ取消處分ヲ爲スハ違法ニ非ス(明治四五年第一二五號大正二年四月二六日第三部宣告)

郡會議員當選ノ效力ニ關スル訴

郡會議員ノ選舉區ニ同一氏名ノ者二人以上アル場合ニ村長ヨリ候補者トシテ郡役所ニ報告セザル者ハ之ヲ候補者ト認ムルヲ得ヌ從テ同一氏名ノ記載アル投票ハ之ヲ候補者タル者ノ投票トシテ無効トス可キモノニ非ス(大正二年第一八號同年四月二九日第二部宣告)

府稅違法賦課ニ對スル訴

法定期間ヲ經過シタル行政訴訟ハ受理ス可キ限ニ非ス(大正二年第八三號同年五月一日第三部判決)

市稅戶別割賦課處分縣參事會ノ裁決ニ對スル訴

辯護士カ其業務上受クル收入ハ其性質報酬ニ屬スルヲ以テ所得稅法ニ於ケル辯護士業務上ノ所得ハ總收入ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ決定ス可キモノナレハトテ高田市縣稅戶數割賦課細目中ニ所謂

●村會議員被選舉權ニ關スル訴願ニ付縣參事會ノ裁決ニ對スル訴

裁判所構内ニ於テ代書業ニ從事シタル事實アリト雖モ唯書類ノ代書ヲ業ト爲スノミニテハ舊町村制第一五條第四項ニ所謂他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事務ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ニ該當セサルモノトス(大正二年第七二號同年五月二七日第二部宣告)

●地方稅戶數割賦課ニ對スル訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ノ戶數割ナルモノハ本來戶ヲ基礎トスルモノナリ從テ一月ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス故ニ一定ノ宿料ヲ支拂ヒ他人方ニ止宿シ居ル者ニ對シ之ヲ賦課シタルハ違法ナリトス(大正二年第九五號同年五月二七日第三部宣告)

●較高整理公債證書給與請求ノ訴

一 藩制施行ノ際舊藩知事カ經費削減ノ目的ヲ以テ士卒ノ元員ヲ淘汰スル如キハ素ヨリ相當權限内ノ行爲ナリトス
二 舊藩知事ノ相當權限内ノ行爲ニ基テ廢除處分ハ有效ニシテ祿高整理公債證書ヲ請求スル權利ナシ(四二年第四〇三號二年五月二八日第一一部宣告)

●郡會議員當選取消ニ關スル訴

一 選舉人名簿ノ確定ハ選舉權ナキ者ノ投票ヲ有效ナラシムルノ效力ヲ有スルモノニ非ス從テ事實選舉權ナキモノノ爲シタル投票ハ假令選舉人名簿ニ登載セラルルモ有效トナラス

●町村ノ贈與ニ關スル件

町村ノ委任又ハ囑託ニ依ラスシテ任意ニ町村ニ利益ヲ得セシメタル一私人ニ對シ贈與ナラス如キハ法律上町村ノ義務ニ屬セサルハ勿論町村ノ公益上必要ト云フ得サルモノニシテ舊町村制ノ認ムル所ニアラス(元年一五六號二年六月七日第二部宣告)

●郡會議效力ニ關スル件

「吉」ノ一字ヲ除クノ外ハ字體頗ル不明ニシテ「佐々木」トモ「慶吉」トモ判シ得サルニヨリ佐々木慶吉カ候補者ニ立テタル事ヲ以テ之ヲ同人ノ得點ト認メ難シ即チ郡制第一六條ニ所謂被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノニ該當スルヲ以テ之ヲ無効トナササルヘカラス(二年第八五號二年六月一〇日第二部宣告)

●縣稅戶數割賦課ニ對スル訴

明治一三年太政官布告第一六號地方稅規則ノ戶數割ナルモノハ本來戶ヲ基礎トスルモノナレハ一月ヲ構フル者ニ對スル外之ヲ賦課スルコトヲ得ス故ニ一定ノ宿料ヲ支拂ヒ他人方ニ止宿シ居ル者ニ對シ之ヲ賦課シタルハ違法ナリ(二年一〇四號二年六月一〇日第三部宣告)

●村會議員當選ノ訴

(桐島トク)トアル一票ニハ被選舉人ノ住所トシテ字相用ヲ記入セ

二 郡制第二四條ニ所謂選舉ノ無効トハ選舉全部ノ無効ヲ指シタルモノニシテ同條ハ選舉一部ノ無効ト認メタルモノニアラス假令選舉規定違背ノ爲メ一部無効トナル場合ト雖モ選舉全部ノ無効トス(キモノトス(元年八二號二年五月二九日第二部宣告))

●沖繩縣出港稅賦課ニ關スル不服ノ訴

酒造稅法第一條ノ六第二項第四號ニハ單ニ「糖」トアリテ何等ノ制限ヲ加ヘサルヲ以テ種糖ハ該條ノ糖ニアラスト云フヲ得ス(元年第二一〇號二年五月二九日第三部宣告)

●行政訴訟ニ關スル妨訴抗辯

堀敷又ハ荒蕪地ノ如キ土地ノ官民有區分ノ査定處分ハ内務大臣ノ權限ニ屬シ内務大臣ハ其手足トシテ地方長官ヲシテ之カ手續ヲ爲サシムルモノトス(元年第二二一號二年五月二九日第二部宣告)

●家祿給與不足額請求ノ訴

明治四年一〇月屆出タル舊秋月藩ノ祿制ハ明治三年一二月中制定サレ單ニ屆出ノミ翌年ニ遲延シタル秋月藩最後ノ祿制ト認ムヘキモノトス從ツテ之ニ基キ相當ノ奉還資金若クハ金庫公債ヲ受領シタルモノハ最早請求スヘキ何等ノ不足額ナキモノトス(四二年一六三號二年五月三〇日第一一部宣告)

●縣稅戶數割賦課不當處分取消請求ノ訴

府縣制第九條ニ基ツク山梨縣稅賦課規則第一二條ニハ市町村會ハ市町村ニ於ケル縣稅戶數割一戸ノ平均課率ヲ總戶數ニ乘シタル總額ニ對シ其年四月三〇日限り等差ヲ付シテ各戶ノ賦課額ヲ決定スヘキ旨ヲ規定シアリテ各戶ニ等差ヲ付スル標準ノ定ナキカ故ニ各

ソトシ「キリシマトク」トアル一票ニハ漢字ヲ以テ被選舉人ノ氏名ヲ記入セントシ何レモ半ニシテ之ヲ塗抹シタルニ過キサレハ町村制第二五條第一項第六號ニ所謂他事ヲ記入シタルモノト認ムルヲ得ス(二年第九〇號全年六月一九日第二部宣告)

●村會議員當選ニ關スル不當裁決取消ノ訴

氏ノミチ記載シテ名ノ記載ヲ缺キ若クハ氏名ノ記載ニ多少ノ誤アルカ如キハ自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ノ投票ト謂フヲ得ス(二年第九〇號同年六月一九日第二部宣告)

●村稅戶別割賦課ニ關スル不當裁決取消ノ訴

村稅戶別割賦課ハ縣稅戶數割ノ附加稅ナレハ本稅タル此戶數割ノ賦課カ既ニ取消サレタル以上附加稅ノ存スヘキ理由ナシ(二年九七號同年六月二八日第三部宣告)

●縣稅賦課取消請求ノ訴

同業組合ハ同業者ノ共同利益ヲ增進シ弊害ヲ矯正スル目的ヲ有スルモノ何等公ノ權力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ之ヲ公共團體ト認ムルコトヲ得ス(元年二五四號二年六月三〇日第三部宣告)

●家祿不足額給與ノ訴

明治五年四月太政官第一二六號布告ハ藩ノ負擔セル債務ヲ大藏省ニ引受ケタルニ依リ從來藩債支消ノ爲メ士族卒家祿ノ内ヨリ差出ラリシモノヲ免除スル旨ヲ定メタルモノニシテ原告ノ如ク藩縣ニ對シ債務ヲ負ヒ年々又ハ一時ニ其債務ヲ辨濟スル爲メ家祿ノ中ヨリ返納金ヲ差出セル者ニ付之カ返還金ヲ免除スルノ法意ニ非ス(四二年第一〇八號二年七月二日第一一部宣告)

●砂鑛法施行細則ニ關スル件

砂鑛法施行細則第八條第九條ハ同則第一條所定ノ書面ヲ願書ニ全
然添附セサルトキニ適用スヘキモノニテ其書面カ單ニ不完全ニ止
ル場合ハ先ツ修正補充命令ヲ發シ而シテ之ニ應セス若クハ之ニ應
スルモ尙ホ不完全ナルトキハ同則第一〇條第三號ニ依リ願書ヲ知
下スヘキモノトス(二年第一〇號同年七月八日第三部宣言)

●村稅賦課ニ對スル訴

町村制第一一〇條第三項ノ決定ハ同制第一四〇條第五項ニ依リ異
議申立人ニ交付スヘキモノナレハ其決定ノトキヨリ效力ヲ生スル
モノトス從テ町村制第一四〇條第一項ノ訴願ノ期間ハ決定書交付
ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス期間ヲ計算スルニ日ヲ以テス
ルモノハ翌日ヨリ起算スルヲ通則トスルモノニシテ府縣制郡制ノ
翌日ノ文字ハ之ヲ明ニシタルニ止レハ翌日ノ文字ナキ場合ハ總テ
當日ヨリ起算スヘキモノナリト云フヲ得ス(二年第三六號同年七
月八日第三部宣言)

●縣稅戶數割賦課處分取消ノ訴

一 縣稅賦課ノ處分カ明治三三年勅令第八一號第四條ニ依リ縣知
事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏員ノ發シタル徵令書ニ基キタルモノ
トスルモ其處分ヲ爲シタル者カ町村長ナルトキハ其旨ハ該處分ノ
取消ヲ求ムル對テ免テ免テ免テ免テ免テ免テ免テ免テ免テ免テ免
二 或市町村ニ執達吏役場ヲ設ケ居レル事實アルモ毎月一定ノ宿
料ヲ支拂ヒテ旅人宿ニ世宿スル者ハ戶數割ノ賦課ヲ受クヘキ構戶
者ト云フヲ得ス(二年第一一〇號第一二〇號同年七月八日第三部
宣言)

●違法指令取消家祿ニ對スル公債證書請求ノ訴

一 明治元年一旦致仕シタル舊幕臣ニシテ同年七月居士仰付ラレ
月額給米八俵ヲ給與セラレタル者ニシテ此給米八俵ハ御雇タル職
務ニ對スル俸給ニシテ家祿ノ性質ヲ存スルモノト認ムルヲ得ス從
ツテ甲第六號證ノ如ク職務勉勵ノ爲年額百俵ニ増給セラレタリト
スルモ之カ爲新ニ家祿ヲ給與セラレタルモノト認ムルコトヲ得ス
二 辨官連ニ基キナシタル俸祿廢止ノ處分ハ政府ノ命令ニ出テダ
ルモノニシテ違法ニ非ス(四二年第一七六號二年七月九日第一部
宣言)

●拂下土地再調査ニ關スル訴

拂下ヲ受ケタル土地ヲ實測スルニ該土地ハ一筆ナルニ現地所ハ二
筆トナリ且反別ニ於テ五反餘餘減少スルノミナラス何レノ箇所
カ拂下ノ土地ナルヤ不明ナルヲ理由トシ之カ再調査ノ上引渡スヘ
シトノ判決ヲ求ムル訴ハ法令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以
テ受理スヘキ限ニ在ラス(二年第一四七號同年七月九日第一部裁
決)

●市會議員當選ノ效力ニ關スル縣參事會ノ決定ニ對
スル不服ノ訴

法律ニ所謂住所トハ單純ナル寢食ノ事實ヲ指スモノニ非サルカ故
ニ斯ル事實ノミヲ以テ直チニ之ヲ住所ト斷スルヲ得ス(二年第一
〇三號同年七月一〇日第二部宣言)

●村會議員選舉取消處分ニ關スル縣參事會裁決取消
ノ訴

●第二部宣言

●村會決議取消ノ訴

一部所有財產ノ處分ニ關スル村會決議取消ニ付テハ町村計其他
ノ法令中行政訴訟ノ提起ヲ許シタル規定ナシ(二年第一二八號同
年七月二二日第二部裁決)

●郡會議員補選選舉ノ效力ニ關スル訴

選舉立會人ハ選舉ノ公正ヲ期スルカ爲メ設タルモノナレハ資格ア
ル定數ノ選舉立會人ノ立會ナレバ爲シタル投票ハ無効タルヘキ
モノトス(二年第八〇號同年七月二四日第二部宣言)

●町會議員選舉人名簿修正ニ關スル不當裁決取消ノ
訴

選舉人名簿製期日ニ於テ町稅滯納處分中ニ在リ公民權ヲ停止セ
ラレ居リタル者ハ後日ニ至リ滯納税金ヲ完納シタルハトテ選舉人
名簿製期日ニ於テ選舉權ヲ有シタルモノト謂フコトヲ得ス從ツ
テ人名簿ニ登錄スヘキモノニ非ス(二年一一三號同年七月二四日
第二部宣言)

●試掘願書却下ノ件

實地指示セル區域ト試掘願書ニ添附セル圖面ト著シク相違セルモ
ノナルトキハ鑛業法施行細則第三九條第二號ニ依リ該願書ヲ却下
スルモ不當ニ非ス(明治四四年第一七一號大正二年八月七日第三
部宣言)

●家祿全部給與未濟ニ依ル換算額給與請求ノ訴

法定ノ鑑覽期日鑑覽ニ供セザリシモ選舉人名簿確定ノ手續ニ違法
アルモノナルカ故ニ適法ノ確定名簿ト謂フヲ得ス從ツテ之ニ基ツ
キ執行シタル町村會議員選舉ハ違法ニシテ全部無効タルヘキモノ
トス(二年第四五號同年七月一五日第二部宣言)

●相續人ノ納稅額計算方ノ件

前戶主所有ノ土地カ其隱居ニ因リ家督相續人ノ所有ニ歸シタル場
合ト雖モ未タ所有權移轉ノ登記ヲ經ス又土地臺帳ノ記載ニ異動ナ
キ以上家督相續人ハ以テ其土地ノ所有者ナリト云フコトヲ得ス從
テ納稅ノ義務ヲ有セルモノト謂フコトヲ得ス故ニ隱居者名義ニテ
納付シタル税金ハ町村制第一三條ノ適用上家督相續人ノ納稅額中
ニ加算スヘキモノニアラス(二年一一二號同年七月一五日第二部
宣言)

●官吏遺族扶助料ノ訴

明治三三年法律第七五號第三條ノ所謂病ニ罹リトハ發病ノ謂ニシ
テ腸胃扶助ノ如キニ於テハ潜伏期ヲ包含セス既ニ發病カ任官前ニ
在ル以上ハ同三條ノ規定ニ依リ扶助料請求ノ權利ヲ有セザルモノ
トス(二年第九三號同年七月一九日第一部宣言)

●國有林下戻請求ノ訴

民有ノ土地ニ藩ノ立木ヲ仕立ツルコト能ハサルモノト認ムヘカラ
サルハ勿論民有ノ小林カ御林ニ編入セラレタル場合ニ其土地ニ對
スル私人ノ權利カ必シモ總テ藩ニ歸屬スルモノト認ムヘカラサ
ルニ依リ檢地帳ニ御立林トアルノ一事ヲ以テ土地其モノモ藩有ニ
屬セシモノト謂フコトヲ得ス(三七年第二五二號二年七月二二日
行政判決要旨)

土地開墾ノ養料トシテ幕府ヨリ受ケタル知行ハ當然家祿ト云フヲ得ス若シ家祿ニ屬スルモノアリトスルモ任意ニ上知シテ之ニ對スル賞罰金ヲ受ケシトキハ家祿賞典祿處分法第一條ノ給與ヲ請求スル權利ナシトス(明治四二年第四二〇號大正二年八月二十六日第一號部宣告)

●町會議員當選取消ニ關スル訴

町會議員當選ノ效力ニ付キ爲シタル縣參事會ノ裁決ニ對シテハ町村會ニ出訴ヲ許シタル規定ナシ故ニ行政裁判法第二七條ニ依リ却下ス(ヘキモノトス)(大正二年第一六二號同年九月一三日第二部裁決)

●縣稅戶數割賦課處分取消及町稅戶別割賦課處分取消請求等ノ訴

奈良縣縣稅賦課規則第二八條ハ戶數割賦課ノ爲各戶ノ資産ノ多寡及ヒ生活ノ程度ノ間ニ差異アルモノト爲スコトヲ得ルカ故ニ此ニ標準ニ付キ實際ニ適合スル調査ヲ爲シ其結果ニ基キ等級課額ヲ議定セシムル趣旨ナリトス(大正元年第一六九、二〇〇、二〇一、二〇二、二四六號同年九月一六日第三部宣告)

●鑛業出願不許可ノ件

亞炭鑛試掘出願區域カ陸軍ノ作業場ニ屬シ將來作業實施セラルヘキモノニ係ルトキハ鑛業法第三二條ニ所謂公益ヲ害スルモノト認ムヘキモノトス(明治四三年第一九八號大正二年九月二十七日第三部宣告)

●縣稅賦課ノ件

一 一定ノ年度ニ於テ船舶ヲ某縣沿岸ノ航行ニ配用シタルトキハ府縣制第一〇六條ニ所謂府縣内ニ於テ物件ヲ使用スルモノニ該當スルヲ以テ之ニ對シ縣稅船稅ヲ賦課シタルハ正當ナリ
二 高知縣營業稅雜稅取給規則第二條ニ所謂定製所ハ船舶航行ノ本據ヲ指スモノナルヲ以テ他ニ船籍港ヲ有スル船舶ニ付テモ亦其適用アルモノトス
三 他府縣ニ於ケル納稅ノ事實ハ府縣制第一〇六條ニ基ク縣稅船稅ノ賦課ヲ違法ト爲スニ足ラス(大正元年第二四三號同年九月二十七日第三部宣告)

●村稅賦課ノ件

村稅種類割ハ縣稅ナル船稅ノ附加稅ナルヲ以テ本稅タル縣稅船稅ノ賦課力正當ナル以上ハ當該船舶ノ定製所所在村ニ於テ村稅種類割ヲ賦課徵收シタルハ違法ニアラス(大正二年第六三號同年九月二十七日第三部宣告)

●營業免許ニ關スル訴

一 大阪府湯屋營業取締規則ニ所謂湯屋ハ營業ニ供スルモノヲ指スモノナレハ其新設出願ニ對スル却下處分ハ明治二三年法律第一〇六號ノ營業免許ノ許否ニ該當シ之ニ對シテハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス
二 湯屋營業取締規則ニ依リハ湯屋新設ノ距離ニ制限アルニ依リ湯屋新設ノ出願アリタル場合ニ於テ競願人ニ對スル許可ト自己ニ對スル許可ト兩立セサルトキハ行政訴訟ニ於テ自己ニ對スル處分

ノ變更ニ附隨シテ競願人ニ對スル處分ノ取消ヲ求ムルモ違法ニアラス

三 湯屋出願中法定ノ條件ニ適セサル點カ既設湯屋トノ距離ニ於テ僅少ノ不足アルニ過キサルトキハ之ニ對シテ許可ヲ與フルモ違法ニアラス

四 湯屋新設ニ付キ甲乙ノ競願アリタル場合ニ於テ兩者ノ出願ヲ比較シ乙出願ノ分カ既設湯屋トノ距離ノ不足カ多キモノト認メ之ヲ却下シ其願書ニ訂正ヲ命ジタルニ其訂正終了前更ニ出願シタルモノナルトキハ是レ新ナル出願ナレト該出願ト甲ノ出願トノ内容ヲ比較シ其優劣ヲ決定スヘキモノニアラス從テ甲ノ出願ニ許可ヲ與ヘ乙ノ出願ヲ却下スルモ違法ニアラス(大正二年第八一號同年九月二十七日第三部宣告)

●村稅賦課取消請求ノ訴

一 村稅反別割條例ノ許可稟請ノ際添附セル地益調ハ何等法令上ノ效力ヲ有スルモノニアラス

二 反別割ハ明治四〇年法律第三一號ノ所謂地租ニアラサルハ勿論地租ノ附加稅ニモアラサルヲ以テ同法第三條ノ規定ヲ準用スヘキニアラス各地目等ノ反別ニ所定ノ課率ヲ乘シ得タル金額ノ合計額ニ同法第一條ノ規定ヲ準用シ其稅額ヲ計算スヘキモノトス(大正元年第一九六、一九七號同年第六七、一三二號同年九月三日第三部宣告)

●行政裁判法及間接國稅犯則者處分法臨檢ノ件

一 行政裁判法第二二條ニ行政訴訟ハ行政處ニ於テ處分書若クハ

裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六〇日以内ニ提起スヘキ旨ヲ規定シタルモノニシテ此出訴期間ハ下級行政處ヲ被告ト爲ストキト雖モ其適用ヲ異ニスヘキモノニアラス

●村會議員選舉人名簿ニ關スル裁決ニ對スル不服ノ訴

一 町村制ニ所謂住所トハ民法ノ住所ヲ謂ヒ各人ノ生活ノ本據ヲ指スモノトス
二 寄留居ハ生活ノ本據ヲ移ササル者ト雖一定期間以上ノ滞在者ハ必ス之ヲ爲スヘキモノナレハ單ニ寄留簿ノ記載ニ依リ住民タルヤ否ヤヲ決定スヘキモノニ非ス(大正二年第一五〇號同年一〇月二日第二部宣告)

●公民權ニ關スル訴

一 行政訴訟ノ相手方ト爲スヘキ者ニ付テハ法律上何等ノ規定ナキニ依リ選舉人名簿ノ調製者又ハ訴願裁決者ノ何レヲ相手方ト爲スモ違法ニアラス
二 町村會選舉人名簿總覽期間經過後ニ異議申立ヲ爲シ而モ事由ヲ舉示シテ有無ヲ求メサリシ場合ニ村會ニ於テ期間經過ノ事實ヲ爲サス申立ヲ採用セザリシハ正當ナリトス(大正二年第一二五號同年一〇月四日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴

同一被選舉人ノ氏名ヲ連記シタル投票ハ町村制第二五條第一項第三號ニ所謂一投票中二人以上ノ被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノニ該當セス(大正二年第一一五號同年一〇月四日第二部宣告)

●當選ノ效力ニ關スル訴

投票ノ記載明確ナラスシテ果シテ何人ヲ選舉シタルモノナルカチ確認スルヲ得サルトキハ町村制第二五條第一項第四號ニ依リ無効トスヘキモノトス(大正二年第一一五號同年一〇月二日第二部宣告)

●村會議員ノ當選ノ效力ニ關スル訴

型ヲ置キ之ヲ塗布シタルモノナルヤ又ハ型ヲ連リテ筆記シタルモノナルヤハ判明セサルモ型ヲ用ヒ之ニ依リタルモノナルコト明ナル以上其投票ハ町村制第二二條第六項ニ所謂被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ノ投票ニシテ無効タルヲ免レサルモノトス(大正二年第一一七號同年十月二三日第二部宣告)

●國有林境界査定不服ノ訴

一 査定圖及ヒ其際本ニ査定標ヨリ番號ヲ追ヒタル標杭ヲ掘ケ之ヲ連結セル線ヲ國有林野ノ境界線トシテ表示シ且實地ニ於テモ同一番號ヲ附セル標杭ヲ査定圖ニ於ケル當該番號標ノ位置ニ相當スル場所ニ建設セル以上ハ該線ニ接セル水流ノ公共河川ナルト否トナ問ハス境界査定處分アリタルモノトス
二 境界査定處分アリタル以上該處分ニヨリテ自己ノ所有地ヲ侵

サレタリトスル者ハ假令其通告ヲ受ケサルモ該處分ニ對シテ出訴スルコトヲ得ルモノトス(明治四五年第一二八號大正二年一〇月二五日第二部宣告)

●行政裁判法ノ件

訴狀ノ方式ヲ具備セサルカ爲メ之カ改正ヲ命ジタルモノニ從ハサルトキハ行政裁判法第二七條ニ依リ訴ヲ却下スヘキモノトス(大正二年第一八六號同年一〇月二五日第二部宣告)

●家祿公債證書給與請求ノ訴

單ニ士族編入處分アリシコトノミチ以テ其者カ藩士タル身分ニ於テ舊テ家祿ヲ有シタルコトヲ認ムルニ足ラス(明治四二年第三一六號大正二年一〇月二九日第一部宣告)

●家祿處分錯誤ニ依ル家祿給與請求ノ訴

一 違法ニ廢祿セラレタル者ト雖モ明治九年金祿公債給與ノ當時現ニ廢祿セラレタル家ヲ存續セザリシ者ハ明治三〇年法律第五〇號ニ依リ救済ヲ受クルコト能ハス
二 明治九年金祿公債給與ノ當時既ニ家ヲク其後再興シタル者ハ明治三〇年法律第五〇號第一條前段ニ所謂家祿ヲ有シタル者ノ家名承繼人ト云フコトヲ得ス(明治四二年第五七九號大正二年一〇月二九日第一部宣告)

●行政裁判法ノ件

一 試掘權設定登錄ノ抹消請求ニ付キテハ行政訴訟ヲ許サス
二 共同試掘權者タリシ者ノ中一人ノミニテ鑛業法第三三條ノ二

ノ第一項ノ期間内ニ舊試掘權區ニ關シ同種ノ鑛物ニ付キ更ニ鑛業ノ出願ヲ爲シタルトキ他ノ共同試掘權者カ同項ノ期間内ニ出願ヲ爲サザリシニ於テハ其出願人ノミニテ同項ノ保護ヲ受ケ他ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス(大正二年第一一八號同年一月四日第三部宣告)

●縣會議員失職決定取消ノ訴

町村制第九條第二項ノ規定ハ住所外ノ町村ニ於テ納付スヘキ租稅ニ付滯納處分ヲ受ケタル者ニモ處分中公民權ヲ停止スルノ法意ナリトス(大正二年第一一四號同年一月六日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル裁決取消請求ノ訴

養子ト婿養子トハ町村制第一五條ノ所謂兄弟タルノ緣故ヲ有スルモノナレハ同時ニ村會議員ニ當選シタル場合ニ於テハ得票數少ナキ者ハ當選者タルコトヲ得ス(大正二年第一一六號同年一月六日第二部宣告)

●縣會議員失格ニ關スル訴

短期一年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ明治三二年勅令第二二七號(島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件)第二條第二項第七號ノ適用ニ付テハ公權停止ヲ附加スヘキ輕罪ト看做ス(大正二年第一一八號同年一月六日第二部宣告)

●縣會議員失職決定取消請求ノ訴

町村制第九條第二項ノ規定ハ住所外ノ町村ニ於テ納付スヘキ租稅ニ付滯納處分ヲ受ケタル者ニモ處分中公民權ヲ停止スルノ法意ナリトス(大正二年第一一四號同年一月六日第二部宣告)

シタルトキナ指稱シタルモノニアラス從テ判決ノ言渡ヲ受ケタル時ヲ以テ町村民トシテ府縣會議員タル職ヲ失フモノトス(大正二年第一一三號同年一月六日第二部宣告)

●町村制ノ解釋ノ件

一 町村會議員辭職ノ意思表示ハ町村會議長又ハ町村長ノ何レニ對シテ之ヲ爲スモ妨ケナシ

二 町村會議員ニシテ一旦辭職届ヲ提出シタル以上假令後日ニ至リテ之ヲ撤回シ又町長ニ於テ之ニ對シ町會召集ノ通知ヲ發シタル事實アレハトテ之カ爲メニ辭職ノ效果ヲ消滅セシムヘキモノニ非

三 町村會議員ノ辭職力正當ノ理由アルモノナルヤ否ヤハ假令本人ヨリ其理由ヲ申立ナキモ町村會ニ於テ之ヲ認定スルコトヲ得

四 町會ニ於テ選舉セル町會公團ノ委員ニ不法ノ行為アリ且町長助役ニモ職務上ノ怠慢アリ從テ町會議員モ責ヲ分タサルヘカテス做テ其不明ヲ町民ニ謝スル爲メ辭職スト云スカ如キハ正當ノ理由アルモノト認フヲ得ス(大正二年第九號同年一月八日第二部宣告)

●町村制ノ件

前地主所有ノ土地カ其隱居ニ因リ家督相續人ノ所有ニ歸シタル場合ト雖モ未ダ所有權移轉ノ登記ヲ爲サズ從テ未ダ土地臺帳ノ記載ニ異動ヲ來タササル以上其土地ニ對シ納稅ハ町村制第一三條ノ適用ニ付キ家督相續人ノ納稅額ニ算入スヘキモノニ非ス(大正二年第七五號同年一月八日第二部宣告)

●行政裁判法ノ件

第三種郵便物ノ認可取消處分ハ所謂租税及手数料ノ賦課ニ關スルモノト云フコトヲ得ス(大正二年第二二二號同年一月二日第一號判決)

●區劃漁業海苔殖業免許出願ニ關スル違法處分取消ノ訴

區劃漁業ヲ適法ニ出願シタル場合ト雖モ必スシモ免許ヲ與ヘサルヘカラサルモノニアラス(大正元年第一七一號同年一月一三日第三號宣告)

●營業稅不當賦課ニ關スル訴

營業稅法第二八條ノ四ニハ「營業者第二八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得」トアレトモ其決定ニ對シ行政裁判法第一七條第一項ノ原則トスル手續ヲ履マズ直チニ行政裁判所ニ出訴シタルト認ムヘキ文詞ナク又決定ニ對スル行政訴訟ヲ提起スルニ當リ地方上級行政廳タル稅務監督局長ニ訴願其裁決ヲ經由セシムルヲ必要ナリトスル特殊ノ理由存在セサルヲ以テ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經由スルニアラサレハ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解釋スルヲ相當トス(大正二年第二三六號同年一月一五日第三號判決)

●郡組合費賦課ニ關スル裁決ニ對スル訴

郡組合ノ設置ハ府縣知事カ或ル事務ヲ二以上ノ郡ヲシテ共同處理セシムルヲ必要ナリトスル場合ニ於テ第一〇五條所定ノ手續ヲ經

ルヲ以テ十分ニシテ郡會ノ決議ヲ要スルモノニアラス又該組合ノ設置ノ目的タル事務ニ付テモ郡會ノ決議アルコトヲ要スルモノニアラス
郡組合カ費用ヲ直接ニ町村ニ分賦シ納付ヲ命スルト組合内ノ郡ヲシテ其分擔額ヲ町村ニ分賦徵收セシメ之ヲ組合ニ納付セシムルトニ付キ何等ノ制限ナキモノトス(大正二年第一一五號同年一月一八日第三號宣告)

●町村制ノ件

期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルモノハ事實ノアリタル日ノ翌日ヨリ起算スルヲ通則トス而シテ町村制第一五條第二項ノ一月ノ期間ハ其起算點ニツキ特別ノ規定ナキヲ以テ退職ノ日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス(大正二年第二〇六號同年一月一八日第二號宣告)

●所得金額合算ノ決定取消ノ訴

所得稅法第三五條ニ所謂「第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ」トハ單ニ所得金額ノ員數ノミノ決定ヲ云フニアラスシテ同居家族ナリトノ決定ヲモ包含スルモノト解スヘク從テ同第三六條ニ所謂「政府ノ通知シタル所得金額」ニ對シテ異議アルトキ」トハ第三五條ニ依リテ政府ノ通知シタル所得金額ノ員數ノミニ對スル場合ノミナ云フニアラスシテ同居家族ナリトノ決定ニ對スル異議ヲモ包含スト解セサルヘカラス故ニ第三五條ニ依リテ政府ノ通知シタル所得金額其モノニハ異議ナク單ニ同居家族ナリトノ決定ノミニ對シテ異議ナク有之レカ救済ヲ求ムル場合ニ於テモ第三六條ニ依リテ

異議ヲ申立テ審査ヲ請求シ審査決定ニ對シ尙不明ナル場合ニ於テ始メテ同第三九條ニ依リ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノトス(大正二年第一四號同年一月二五日第三號宣告)

●國稅徵收法ノ件

國稅徵收法ニ依リ公賣シタル物件ニ付抵當權ノ設定アルコトヲ事由トシテ其公賣代金ニ付先取權ヲ行使セントスルニハ其物件ニ付抵當權ノ設定アルコト及其ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明セサルヘカラス(大正二年第五七號一月二七日第三號宣告)

●村會議員當選無效裁決ニ對スル訴

型ヲ用ヒテ描出シタル投票ハ無効ナリ(大正二年第一七四號二年一月二九日第二號宣告)

●市會議員當選效力ニ關スル不法裁決取消ノ訴

電氣ノ一定ノ數量ニ對シ一定ノ代價ヲ以テ市ニ供給スル會社ハ市制第一八條第三項ニ所謂市ニ對シ請負ヲ爲ス法人ト謂フヲ得ス市制第一八條第三項ニ所謂主トシテ市ニ對シ請負ヲ爲ス法人トハ市ニ對スル請負ヲ以テ業務ノ主要ナル部分トスル法人ヲ言フ(大正二年第二二〇號大正二年一月二九日第二號宣告)

●家祿給與請求ノ訴

明治三年太政官布告藩制施行中ニ在リテハ藩知事カ士族卒ニ對シ適宜廢祿處分ヲ爲スノ權限ヲ有シタルモノナリトス(明治四二年第四二四號大正二年一月二日第二號宣告)

●村稅滯納處分ニ付キ物件差押ニ係ル訴

一 町村稅滯納處分ニ關スル訴願ニ付府縣參事會ノ爲ス裁判ハ縣廳法第一五條ニ依リ裁決書ヲ訴願人ニ交付スヘキモノナレハ町村制第一四〇條第二項ノ所謂裁判アリタル日トハ裁決書ヲ訴願人ニ交付シタル日ノ翌日ヨリ起算スヘキモノトス
二 差押財產ノ價格カ滯納處分ニ依リ徵收金額ニ比シ多額ナリトスルモ該差押ハ不當ニ非ス(大正二年第一四六號同年一月三日第一號宣告)

●國有林戻下不當處分取消請求ノ訴

一 口米ハ正租ニノミ課セラルヘキモノニアラサルヲ以テ民有ノ證トナスニ足ラス
二 持山ハ民有地ノミナ意味セズ
三 御林ハ普通直營ノ官山ヲ意味スルヲ以テ御林以外ノ請求地カ民有地ナリト云フヲ得ス(明治三七年第九八三號大正二年一月六日第三號宣告)

●營業稅法律ノ製造業者ニ對スル不當課稅取消ノ訴

營業稅法第二八條ノ一ノ決定ニ對シ不服アルトキハ稅務監督局長ニ訴願シ其裁決ヲ經由スルニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノトス(大正二年第二四六號同年一月九日第三號宣告)

●村會議員選舉人名簿ニ關スル縣參事會ノ裁決取消請求ノ訴

行政判決要旨

町村制第七條ニ所謂獨立ノ生計ヲ營ム者トハ必シモ一戸ヲ構ヘ又ハ
ハ種ヲ設クルコトヲ要スルモノニ非ス(大正二年第一四三號同年
一月十一日第二部宣告)

●水車新設願却下處分取消請求ノ訴

公益又ハ他人ノ權利ヲ害スル虞ナキ以上ハ水車ノ設置ヲ許スヘキ
モノトス(大正二年第一八二號同年一月十一日第三部宣告)

●縣稅賦課異議申立事件却下ニ對スル訴

縣知事ニ爲スヘキ異議申立書中宛名ニ縣參事會ナル肩書ヲ附スル
モ其誤記タルコトヲ認メ得ヘキ場合ニ於テ該異議申立ヲ却下スヘ
キモノニ非ス(大正二年第一九六號同年一月十一日第一部宣告)

●營業稅課稅標準額決定ニ對スル不當裁決取消請求
ノ訴

瓦斯製造業ノ爲使用スル煙突及瓦斯タンクノ價格ヲ營業稅法課稅
標準建物賃賃價格中ニ算入スルモ不當ニ非ス(大正二年第五〇號
同年一月十一日第三部宣告)

●郡會議員當選效力ニ關スル訴

一 投票用紙ニ郡役所ノ印章ヲ捺捺スルコトヲ以テ一定ノ式ト爲
ス以上其印影ヲ具備セサル投票用紙ハ成規ノ用紙ニアラス
二 前戶主又ハ前前戶主所有ノ土地カ夫婚姻又ハ隱居ニ因リ家
督相續人ノ所有ニ歸シタル場合ト雖モ未タ所有權移轉ノ登記ヲ爲
サス未タ土地臺帳ノ記載ニ異動ヲ來タササル以上家督相續人ハ未
タ該土地ノ所有者ト公認スルコトヲ得ス從テ未タ納稅ノ義務ヲ有

スル者ト云フヲ得ス(大正二年第一七八號同年一月一三日第二
部宣告)

●恩給權利回復ノ訴

行政上ノ處分ニ由リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者
ハ六箇月以内ニ恩給局ニ具申シテ裁決ヲ請ヒ其裁決ニ不服ナル場
合ニ於テ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正二年第二四三號同
年一月一七日第一部裁決)

●村會議員當選效力不當裁決取消ノ訴

町村制第二五條第一項第六號ノ規定ハ選舉ニ有害無益ナル事項ヲ
記入シタルモノヲ無効トスル趣旨ニ外ナラスシテ單ニ村會議員ニ
選舉スルノ意味ヲ示シタルモノヲ無効トスル趣旨ニ非ス(大正
二年第一八一號同年一月二〇日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴

誤謬ヲ計正シタルニ過キサル以上之ヲ以テ町村制第二五條第一項
第六號ニ所謂他事記入ナリト謂フコトヲ得ス又無記名投票ノ規定
ニ反スルモノナリト謂フコトヲ得ス(大正二年第二一七號同年一
月二〇日第二部宣告)

●村會議員當選ノ效力ニ關スル訴

町村制ハ訴願ノ手續ニ關シ何等ノ規定ヲ掲ケサルカ故ニ同制ニ依
ル訴願ニ付テモ其手續ハ訴願ニ關スル一般法タル訴願法ノ規定ニ
依ルヘキモノト解セサルヲ得ス故ニ町會ノ決定ニ對シテ訴願セン
トスル者ハ其決定ヲ爲シタル町會ヲ經由スルコトヲ要ス(大正二
年第二一二號同年一月二三日第二部宣告)

大正三年七月二十九日印刷

大正三年八月十三日發行

法律學說評論全集第二卷與付

定價金四圓八拾錢



著作者 高窪喜八郎

發行者 高窪宗吉

東京市神田區小川町五十三番地

印刷者 仙葉元太郎

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所 株式會社 秀英舍第一工場

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

發兌元

東京神田小川町

電話本局二七二〇番
振替東京一六一六七番

法律評論社

336
164

終